大阪府立支援学校

教育課程改善事業
成果報告書

（平成29年度～令和元年度）

大阪府教育委員会

目　次

＜モデル校の取組み＞
東淀川支援学校
Ⅰ　研究開始まで・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
Ⅱ　平成 29 年度の取組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
Ⅲ　平成 30 年度の取組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
Ⅳ　平成 31 年度の取組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１
Ⅴ　研究成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３６

生野支援学校
はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６５
Ⅰ　教育課程改善事業について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６６
Ⅱ　本校の教育課程について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６８
Ⅲ　平成 29 年度の取組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７０
Ⅳ　平成 30 年度の取組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７３
Ⅴ　平成 31 年度の取組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７８
Ⅵ　学部間交流について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９６
Ⅶ　３年間の研究成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９９
おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０３

大阪府立東淀川支援学校

Ⅰ　研究開始まで

１　経緯

文部科学省が示す本事業の目的は「平成 32 年度（令和２年度）から順次実施される新しい特別支援学校学習指導要領等の円滑な実施のため、学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程の編成や、一人一人の障害の状態等に応じた指導方法の改善・充実について、先導的な実践研究を行う」というものであった。これを踏まえ、大阪府教育庁より「教育課程改善事業」モデル校として平成 29 年度より３年間の指定を受け本校の研究が始まった。

本校は、平成 27 年度に開校し、教育目標を「児童生徒が個々の能力を最大限に発揮し、地域社会で豊かに生きることをめざして教育活動を推進する」とし、地域とのつながりを大切に「ともに学び、ともに育つ」教育を推進（インクルーシブ教育システム構築）することを学校の特色として開校当初よりキャリア教育の充実を図っている。開校初年度より全校教育課程推進委員会を設置し、小学部から中学部、高等部を通して一貫性のある効果的な教育課程を編成するため、研究と実践に取り組んできた。平成 28 年度には、児童生徒の実態を踏まえて本校独自の「キャリア教育マトリックス（育てる力）」を試作し、平成 29 年度には各教科等の指導でキャリア発達の目標を確認するために「キャリア教育マトリックス」を活用し「キャリア発達段階表」を試作していた。

そこで、平成 29 年度より本事業に取り組むにあたり、本校の課題も踏まえ、次の観点から研究を進めることとした。

(1) 全校教育課程推進委員会の機能強化
①　次期学習指導要領に向けた教職員の研修（講師招へい）
②　実践についての継続的な指導助言
③　アクティブ・ラーニングを志向した授業創出（授業改善を超える新たな取組み）

(2) 外部人材の活用・授業改善アドバイザーの配置
①　キャリア教育の視点で授業改善を図る
②　企業の視点で授業改善を図る

(3) 評価
①　教育課程改善に関する評価
　評価の観点・・児童生徒の社会適応力、集団参加の力を育めているか
②　授業改善に関する評価
　評価の観点・・授業の目的にキャリア教育の視点が盛り込まれているか、自ら考え自ら行動する力を発揮させることを意識して授業創出に取り組めたか

Ⅱ　平成 29 年度の取組み

１　研究テーマの設定

平成 29 年度は年度後半から研究を開始することになったが、まず全体研修を実施し、基本的事項として文部科学省「教育支援資料」により知的障がいの特性について、また同じく文部科学省が示す「特別支援学校学習指導要領等の改訂のポイント」により改訂の基本的な考え方や主体的・対話的で深い学びの実現（「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）等について理解を共有した。

そのうえで研究テーマを考えるにあたり、次の２点に着目した。

１点めは、教育課程の研究である。新学習指導要領の前文に「一人一人の児童又は生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」とあり、児童生徒一人ひとりが自分のよさを知り、友だちやより多くの人々と共に生きる力を身につけるために、教育活動を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程について研究すべきである。

２点めは、主体的・対話的で深い学びを実現するという視点からの授業改善である。質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、「資質・能力」を身につけ、生涯にわたって能動的に学び続ける力の育成を図る必要がある。

この２点を踏まえ、本校の方向性として開校以来全校で取り組んでいる「キャリア教育」の視点で教育課程の改善・充実に取り組むとともに、「主体的・対話的で深い学び」を育む授業の充実に向けた研究を行うこととした。

まず、「主体的・対話的で深い学び」のある授業について、どのような力を育成しそのためにはどのような授業の工夫が必要かを検討した。その結果、「主体的・対話的で深い学び」を次のように考えた。

「自ら考え行動する力」ととらえる	学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる 【授業の工夫】 ・具体的でわかりやすい指示をする ・自主的な判断や見通しが持てる工夫をする ・理解の程度に応じた学習内容の変更・調整、基礎的・基本的内容を重視する ・自信を持って行動できるようにするために意思決定を尊重する
「変化に対応できる力」ととらえる	習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造する 【授業の工夫】 ・経験をもとに考える機会を多く用意する、考えやすい工夫をする ・学習したことが身近な生活に役立つよう、具体的で体験的な内容を取り入れる ・場面や状況を把握し望ましい行動がとれるよう助言する ・わかったこととそれに関連する自分の思いを結び付けて表現できるよう支援する
「コミュニケーション力」ととらえる	子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める 【授業の工夫】 ・文字の大きさ、文の長さ、ルビや話し方などを工夫して提示する ・伝わりやすい表現方法や代替手段に関して工夫する ・対話の履歴が確認できる工夫する

「主体的・対話的で深い学び」のある授業を考える観点として、本校では「自ら考え行動する力」「変化に対応できる力」「コミュニケーション力」の「３つの力」を設定することとし、研究テーマを「自ら考え行動する力」「変化に対応できる力」「コミュニケーション力」を育む授業づくり～主体的・対話的で深い学びのある授業改善を図る～とした。

また、本事業に取り組むにあたり直接の研究と並行して研究成果の報告会を開催する際、児童生徒の活動として来校者を想定した「おもてなしプロジェクト」を企画するとともに、教職員の有志を募り報告会当日に様々なテーマでの「ポスター発表」を行うこととした。

２　研究の目的

平成 30 年度より研究を本格的に始めるにあたり、研究の目的を、以下のとおりとすることとした。

・「主体的・対話的で深い学び」について「自ら考え行動する力」「変化に対応できる力」「コミュニケーション力」の観点から授業研究を行い、児童生徒一人ひとりの状況に応じて持てる力を伸ばし育てる
・「授業シート」「参観シート」を作成し、研究協議を通じて指導力を高めるために授業研究を中心とした実践研究により丁寧な実態把握を行う。
・単元や題材を通して「自ら考え行動する力」「変化に対応できる力」「コミュニケーション力」の「３つの力」を育てる
・身近な生活と結びつけて身につけた知識・技能を日常生活でどのように生かしていくかを考える

３　平成 30 年度に向けて

平成 29 年度は、全校教育課程推進委員会が中心となり研究のテーマや進め方、３年間の研究計画などについて年間６回の会議を行った。

外部人材として、授業改善アドバイザー２名が週３日配置され、キャリア教育の視点での授業参観と教員への指導助言、民間の視点での環境改善や教材開発の技術、人材育成の理念を学ぶことで授業改善につなげることになった。

平成 29 年度に行った全体研修や授業改善アドバイザーによる研修をふまえ、平成 30 年度の取組みについて次のような方針を立てた。

（１）授業改善に向けた授業研究

授業で「自ら考え行動する力」「変化に対応できる力」「コミュニケーション力」を育む工夫を集積・共有するため所定の授業略案（授業シート）を作成し、授業シートをもとに他の教員が参観できるようにする。授業者による反省や参観者からのフィードバック（参観シート）をもとに授業改善につなげる方法等について研究する。授業シート・参観シートや集積した情報、また学部での協議内容などを整理し、中間報告会で報告する。

（２）キャリア教育マトリックス等の活用と高等部コース授業の充実

・　「キャリア教育マトリックス（育てる力)」「キャリア発達段階表」の活用と見直し
・　高等部においては、社会参加意欲・就労意欲の向上をめざすコース授業を実施し、実践を通して検討した成果を本研究に活用

（３）授業改善アドバイザーの活用

ソフト面

例：キャリア教育マトリックスの授業での活用、指導方法や授業についての評価
教育課程の改善（有識者の視点から）

ハード面

例：作業環境の構築や改善、教材開発等への助言、作業内容に関する技術面からの助言（企業の視点から）

（４） 研修会や学習会等の計画

内容：次期学習指導要領、キャリア教育、授業改善に向けて　等

（５）平成 29 年度・30 年度の研究成果の中間報告会

・各学部テーマに基づいての授業実践・報告　（各学部公開授業発表）

・中間報告会の日程：平成 31 年 2 月 22 日

Ⅲ　平成 30 年度の取組み

１　研究内容

時　期	内　　容
平成 30 年４月	校内研修会（講師　授業改善アドバイザー２名）
平成 30 年５月～７月	授業研究　教員全員（１回必須）授業シート作成 小学部 26 名　中学部 31 名　高等部 45 名　計 102 名 授業研究参観　教員全員（２回以上必須） 参観シート記入
平成 30 年５月～7 月	授業担当者：授業振り返り、参観シートから助言等のまとめ 授業シート完成
平成 30 年６月	中学部研修会　大阪府教育センター　高河原　健主任指導主事 支援学校における「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業実践について
平成 30 年８月	102 名の授業シートを「３つの力」に分類 授業シートまとめ表の作成
平成 30 年８月	全体研修会　東洋大学　滝川国芳教授 「これからの特別支援教育について」
平成 30 年９月～10 月	学部研修会（各学部２回） 授業シートまとめ表、授業・参観シートの活用
平成 31 年２月	全体研修会
平成 31 年２月	実践研究事業中間報告会

平成 30 年度は、研究テーマである授業改善を進めるため、「主体的・対話的で深い学び」とは何かを前年度よりさらに共通理解できるように「３つの力」を具体的にとらえた。

① 自ら考え行動する力

こんな児童生徒を育てたい（めざす姿）

・興味・関心を持つ
・自信を持って積極的に
・見通しを持って粘り強く
・学習活動を振り返って次につなげる

そのために授業では　次のような工夫・手立てが考えられる。

・具体的でわかりやすい指示をする
・自主的な判断や見通しが持てる工夫をする
・理解の程度に応じた学習内容の変更・調整、基礎的・基本的内容を重視する
・自信を持って行動できるようにするために意思決定を尊重する

② 変化に対応できる力

こんな児童生徒を育てたい（めざす姿）

・知識を関連づけて深く理解する
・情報を整理して考えをまとめる
・問題を見出して解決方法を考える
・思いや考えをもとに新しい方法を考える

そのために授業では次のような工夫・手だてが考えられる。

・経験をもとに考える機会を多く用意する
・児童生徒が自ら考えやすい発問や提示のしかたを工夫する
・学習したことが実際の生活に役立つよう具体的で体験的な内容を取り入れる
・場面や状況を把握し望ましい行動がとれるよう助言する
・わかったこととそれに関連する自分の思いを結び付けて表現できるよう支援する

③ コミュニケーション力

こんな児童生徒を育てたい（めざす姿）

・児童生徒同士が協力し、協働して学習する
・教職員や地域の人との対話を図ることができる
・協働や対話から考えを広げ深める
・歴史や先例、先輩や周囲の大人の態度等を手がかりに考えたり、あこがれを持って模倣する

そのために授業では　次のような工夫・手だてが考えられる。

・文字の大きさや文の長さのルビ、話し方などを工夫して提示する
・伝わりやすい表現方法を学んだり、代替手段に関して工夫をする
・対話の履歴が確認できる工夫をする

本校では、これまでも身近な生活につながる授業に取り組んできているが、学習指導要領の改訂を踏まえ次の点を考慮して１学期中に授業を担当する教員全員が授業シートを作成して、授業研究を行った。

授業研究を中心とした実践研究のめざすもの

・児童生徒の教科等における学力や障がいを含む特性をしっかりと実態把握することや、授業で何を学ぶか、どのように学ぶかを考える
・毎回の授業で必ず「３つの力」の育成を扱うことにはこだわらず、単元や題材を通じ「３つの力」を育てることを考える
・身近な生活と結びつけて知識・技能を身につけ、身につけた力を日常生活で生かしていけるようにすることをめざす

次に、全教員が２回以上授業研究を参観し、「３つの力」に関して授業改善につながる気づきや意見・感想を参観シートに記入し、1学期中に授業者に手交渡した。

授業者は授業研究後、授業の振り返りを行い効果が見られた点や改めたい点を授業シートに記入する。また、参観者や授業改善アドバイザーからの参観シートを参考に授業の良かった点・改善点をまとめて授業シートを完成させた。授業を振り返り、他の教員からの助言を参考に今後の課題を考えることで、次の授業を改善することができた。

また、授業担当者が完成させた授業シート（102 名分）の指導内容・工夫を、「３つの力」それぞれのめざす姿に分類し「授業シートまとめ表」を作成してどのような傾向がみられたか検証・検討を行った。

さらに、児童生徒のめざす姿として取り組んだ「３つの力」の育成については、「自ら考え行動する力」「変化に対応できる力」「コミュニケーション力」の工夫や手だてが多岐にわたるため学部研修会で議論を深めたいと考えた。

各学部研修会では、教科会や課題別学習班の教員らが、授業シートまとめ表と授業・参観シートを活用して授業を行うにあたって心がけていきたいことや、教員一人ひとりが授業を改善するために必要なことを話し合った。また「３つの力」を育む授業に共通する要素（指導内容・方法）について教科の特性や教材の活用がわかるように各教科の「授業シートまとめ表」に２～３例でまとめ、共通認識を図った。

２　各学部の取組み

（１）小学部

①　第１回学部研修会について

４月に第１回学部研修会を行った。２年めの取組みを行うにあたり、研究テーマである「自ら考え行動する力」「変化に対応できる力」「コミュニケーションの力」を育む授業づくりをするために小学部段階で大切にしたいことは何かということについて教員間で話し合った。高等部卒業後の将来を見据え「３つの力」を育て一人ひとりの持てる力を伸ばすことをめざすために小学部の現時点でどんな工夫ができるのかについて次のように共通理解を図った。

「自ら考え行動する力」を育てるために、「わかった」「できた」という気持ちが持てる授業、個々の実態に応じた合理的配慮がなされた授業、すなわち、みんなが 100 点を取れる授業づくりを行い、達成感・成功体験から自信へとつなぎ自己肯定感を高め、児童が主体性を持てるようになることを大事にした授業をめざすことにした。

「変化に対応できる力」を育てるために、時間・場所・内容を構造化することで安心して活動できる授業をめざすことにした。教室に入ることが難しかったり離席したりする児童が、授業の流れを理解できるようにすることで場所や状況に応じて行動できるようになると考えた。

また、横への拡がりも大切にした授業をめざすことにした。横への拡がりとは、学習したことが身近な生活に役立つようになることであり、校内だけでなく家庭や社会体験学習等の場面においても授業で獲得した力が日常生活の場で生かされるようにしたいと考えた。「コミュニケーション力」を育てるために、入学して間もない１年生や重度重複の児童などが教員との基本的な信頼関係を築けるような授業、また体験的な活動を通して伝えたい気持ちになる授業、その他に言葉でのやり取りが難しい児童が身振り手振り、絵カードなどの視覚支援で伝わる喜びが持てるような授業をめざした。基本的な信頼関係や楽しい体験の共有は、伝えたい・応えたいという気持ちを育てることになるととらえた。

また、児童が絵カードや写真カードの指さしを用いることで自分の意思が伝わる喜びをもつことができ、更に話したい気持ちや言葉で伝えあう良さを実感することにつながるととらえた。また、このような言語感覚を養うことで、自分の思いを表現でき、教員や友だちと言葉による関わりができるようにしたいと考えた。

② 第２・３回学部研修会について

授業研究に取り組む教科を、学年や学級集団で行っている「音楽科」「図画工作科」「体育科」と決めて取り組んだ。授業研究後には授業者が研究協議を通して、授業での工夫について振り返りを行った。９月からの第２回学部研修会では、その工夫に関する基本的な考え方を次の４つの視点で整理した。

１.『教室環境を整えるための工夫』は、教員や掲示物などがどの児童からも見やすいように、椅子の配置を考えたり、学習に集中できるようにテレビモニターを置いたりするなどの教室環境に関する工夫と考えた。

２.『活動の工夫』は、授業のねらいに合わせて教員や友だちと一緒に活動する、友だちと二人で協力して活動する、一人で発表するなど活動の形態に関する工夫と考えた。

３.『教材の工夫』は、基礎的・基本的な学力の定着をめざし、個々の児童の実態に合わせ、「やってみよう」「もっとやりたい」と主体的に学べるような教材に関する工夫と考えた。

４.『関わり方の工夫』は、児童と教員の信頼関係が深まり意欲的、主体的に活動できるように言葉かけをする、友だちを意識できるような関わり方に関する工夫とした。

学部研修会では、「音楽科」「図画工作科」「体育科」の教科別グループに分かれ、「３つの力」それぞれに４つの工夫の観点からの分析を加えて協議をした。グループごとに特に効果的だったと思われる工夫を教科ごとにまとめた。

10 月の第３回学部研修会では、各グループで整理したことをもとに授業改善について検討し、「教科としてうまくいった点、難しかった点」「感想・反省」「今後に向けての課題」に分けて整理しグループごとに発表した。それぞれの教科でまとめたことを全体で共有することで、他の教科でも応用できることを見出し、自身の授業の改善だけでなく、小学部全体の授業の改善につながるものになった。

【取組み例】

「音楽科」

『活動の工夫』として、児童の実態によって課題を調整することが大切だということがわかった。例えば太鼓を鳴らす際は、ばちを片手で持つ、両手で持つ、ばちを使わずに手を使うなど、児童の実態を把握して調整することが効果的な工夫としてあげられる。

また、『教材の工夫』として、歌に手遊びや手話を取り入れる、イラストを示すなどの工夫をしている授業が多く、歌のイメージを持たせることができて効果的な工夫だったと考えられる。その一方で、音楽科の授業は学年及び学級で取り組んでいるため児童の実態の差を埋めるのが難しいという意見があがっていた。

「図画工作科」

『教材の工夫』として、様々な素材を用意し、素材の感触を楽しめるようにすることをどの学級も大事にしていた。小学部段階では、道具を介するのではなく直接手で触れることによって感触を味わえるようにする工夫が特に大切だという結論に至った。

『活動の工夫』として、作り方の説明に動画を使用する実践があった。注目して説明を聞くことができ、また教員の支援なしで作品を作り上げることができた児童もいて「一人でできた」という達成感を児童が持つことができた。

難しかった点としては、素材に触れて感じる活動をどのように評価するべきかという意見が出ていた。

「体育科」

『教室環境を整えるための工夫』として、児童が自発的に動くことができるようにスタート位置に写真を貼ったり、色でマーキングしたりする視覚的な工夫が圧倒的に多く見られた。体を大きく動かす体育の特性上、場所の使い方、構造化が大事だと考えた。

『活動の工夫』としては、繰り返し取り組むことやスモールステップを踏んで取り組むことなどがあげられた。

難しかった点として、楽しい活動を取り入れることで、活動を終わらせることができない、終わりを理解するのが難しいといった児童がおり、楽しい活動の中でもきまりを守る態度を養うことが必要である。今後、活動の終わりを児童自らが気付ける方法について考えていきたいという意見が出ていた。

③　指導案検討及び授業研究に向けての取組み

小学部では、学部研修会で共通理解を図ったポイントに沿って、各自で実践しまとめたことをもとに授業研究を行った。研究授業を行う１年グループ、２・３年グループ、４・５・６年グループの３つのグループに分かれて指導案の検討を行い、授業改善アドバイザーの助言や授業をビデオに撮り、振り返るなど、工夫・改善を行い、授業づくりに取り組んだ。

④ 成果と課題

他の学年の授業を参観し、教科ごとに協議する機会がこれまでなかったため、他学年の授業の取組みを理解しあう良い機会となり、各クラスの授業のポイントなどをお互いに学びあうことができた。また、授業の工夫を４つの視点に分けてまとめたことで、工夫の目的や、それによってどのような力が育っていくのか等の整理もできた。

特に、児童が安心して活動に参加でき、どの児童にもわかりやすく達成感が持てるように日々の授業の改善を行っていくことで、「自ら考え行動する力」「変化に対応できる力」「コミュニケーション力」の３つの力が身につくということを実感できたことが大きな成果だったと言える。

今後の課題としては、今回取りあげた教科以外についても授業研究を実施することがあげられる。また、様々な工夫を実践することで子どもたちがどう変わっていったのかを検証できれば、より適切に児童を理解したうえで支援を充実させることができるのではないかと考える。そして、「３つの力」の観点から授業研究を通して授業改善を図り、児童の実態に合った教育課程の作成に取り組むことが何よりも大きな課題である。

（２）中学部

中学部では、「３つの力」を育む授業作りについて指導内容や指導方法について協議し、情報交換を行った。

第１回目の学部研修会では教科担当者ごとに、第２回目の学部研修では学習グループ担当者ごとに教科の特性や教材の活用がわかるような実践例をあげ、学部内で情報を共有した。その内容は次のとおりである。

① 「３つの力」を育む授業づくり

「自ら考え行動する力」

〇見通しが持てるような工夫
〇イラストや写真の活用
〇選択する場面の設定
〇日直や当番の仕事

研修の様子（学習グループ）

（具体例）

・活動内容をスケジュール化し、見通しが持てるようにする。
・自分がしたい活動をイラストや写真を使った選択肢から選ぶ。
・日直や当番の仕事について手順表を見て進める。
・授業時の姿勢の様子についてイラストで示す。
・〇×カードを使って行動が適切であるかを伝える。

・かごに入った個別課題を所定の場所に取りに行き、その課題に取り組み、終了後は元の場所に片づける。
・手元に個別の活動内容のスケジュールを準備する。
・作業手順などをイラストや写真を取り入れて説明する。
・教師による実演や作業の手順書により安全な工具の使用方法を伝える。
・見本の作品を見せることで、学習意欲を高める。

全教科・グループで見通しを持てるよう工夫をしながら学習活動に取り組んでいる。
見通しが持てることは、「自ら考え行動する力」の基本となっている。

「変化に対応できる力」
〇自分の思いや考えと結び付ける
〇タイマーの活用
〇状況を把握し望ましい行動をする
〇発表する場面の設定
〇ルールの設定
（具体例）
・活動内容をスケジュール化し、見通しが持てるようにする。
・生徒の写真カード、道具のイラスト・写真カードを使い係や役割を知らせる。
・金額を設定し買い物学習を行う。
・学習時間や作業時間にタイマーを活用し終了時刻（時間）が視覚的にわかるようにする。ベルを鳴らし学習（作業）の終了を知らせる。
・避難訓練の指導において、避難行動の手順をイラストで説明する。
・学校周辺にあるマーク（バス停やコンビニなど）を映像で見た後に実際に出かけることで、より意識してマークを見つけようとする行動を促す。
・ダンスの様子をビデオに撮り、それをすぐに見せて改善点を理解させ、動きを直させる。
・当番の役割を設けたり準備物を配付する役割を担ったりすることで責任を持つことや友だちとの関わりから自分の思いや考えを見出させる。
・短時間で学習内容や工程を切り替え、集中力を保ちながら授業をすすめる。

活動内容のスケジュールを確認することで、見通しを持って落ち着いて学習に取り組むことができる。予定変更があっても日頃のスケジュール確認で変化に対応する力が育まれているので、落ち着いて活動に取り組む姿勢が身についてきていると考えられ　る。

「コミュニケーション力」

〇活動内容の確認

〇思いを表現する（言葉・身体表現・音・絵など）

〇返事をする

〇日直や当番の仕事

〇互いの考えを比較する

〇報告する

（具体例）

・授業の始まりに、その日のスケジュールを全員で声に出して読む。
・活動内容を伝える際には、身振りを交えて伝える。
・日直や当番は、手順表を手がかりに出欠確認や進行を行う。
・学習内容と目標を全員で読むことで見通しを持つことができる。
・出席者が自分の名前カードをボードに貼ることで授業に参加していることと友だちの存在を意識することができる。
・グループワークを行い、グループ内で相談し発表する。
・友だちの発表を聞き感想を言ったり拍手したりする。
・音読した内容を実際にやってみることで説明文の理解が深まる。
・グループワークの場面を設定することで活発にコミュニケーションすることができる。
・ピクトグラムなどのイラストを提示する際に身振りも合わせて伝えることで簡単な言葉を発したり模倣したりすることにつながる。
・座席を楕円形にしたことでお互いの姿が視野に入り、コミュニケーションを取りやすくなる。
・めあてを全員で発表することで意欲を持って制作することができる。

コミュニケーション力を育む取組みにおいても、見通しを持たせる工夫を大切にしている。

・生徒の実態に合わせた伝え方や生徒の発表の方法を意識した指導が多い。
・グループワークなど生徒同士で相談し意見をまとめ発表する活動も多く見られる。

② 学部研修会

大阪府教育センター支援教育推進室 高河原　健 主任指導主事を招いての研修（平成 30 年 6 月）

「支援教育における新学習指導要領改訂に伴ってのアクティブラーニングを取り入れた授業実践について」をテーマとしての講演のほか、今なぜ主体的な授業づくりが求められているのか、支援が必要な生徒に対してどのように主体的な授業づくりを行うのかといった課題について、グループワークを取り入れながら分かりやすく学ぶことができた。

③ 成果と課題

同じテーマで教科担当者、グループ担当者ごとで授業について話し合うことは有意義であった。また、教科が違ってもグループごとに話し合うことで共通する授業のポイントがたくさんあることがわかり、教材の工夫や共有化につながった。今後も教科、学習グループ担当者の横断的な情報共有に努め、授業改善につなげる意識を高めていきたい。

（３）高等部

高等部では、学部別研修として授業の内容やそれぞれの学年なりの指導方法・生徒集団に応じた手立てなどについて協議し、意見交換を行った。

年度半ばでの各学年の生徒の様子や授業の進み具合、試みている手立て、困っていることなどを提供し合い、「そうなんだ」「難しいね」と改めて他学年の取組みについて知るとともに、「それは使えるね」「なるほど」と各学年で共通して活用できる内容が共有された。

研修を通じて次のように今後の授業改善に活用できるポイントを明らかにすることができ、有意義に研修を進められた。

① 「自ら考え行動する力」

〇授業の導入部分では毎時間ルーティーン化した課題を提示して、その時間が何を学習する時間なのかを生徒に分かりやすくする。（計算・漢字・ことばドリルや簡易作業など）

〇絵や写真、文字カードを使い、視覚的にわかりやすくする。

〇授業開始の挨拶の後に生徒それぞれの写真をホワイトボードに貼っておき、複数の中から自分の写真を選び出席マークのところに移動させる。（自分の顔写真を認識し、他者と区別する）

（例）

・同一の内容に毎時間取り組む。（ボルトナット着脱・洗濯ばさみで留める・動物ビンゴなど） 一定期間取り組んだ後に難易度を上げていく。

・授業の導入部分で授業内容を確認（掲示・口頭）し、見通しを持てるようにする。

・授業のはじめには毎回同じ課題（ひらがなの〇〇のつく言葉や計算のショートテストなど）を取り入れ、集中できる環境を作る。

・授業のはじめの説明で見本を見せ、気をつけるべき点を示す。

・具体物の提示のほかにＩＣＴ機器等を使い視覚的にとらえやすい方法で説明し、授業を展開する。校外へ出て実物を見ながら学習する活動を増やす。（交通機関・郵便局・商店など）

・作業やコースの授業では作業ノートを用いてはじめに個々の目標を決めさせ、目標の達成に向けて作業を進めさせる。また終了時には作業ノートに記入させ反省点と次回への課題を考えさせる。徐々にステップアップできるようにアドバイスを加える。作業ノートの記入には十分に時間を取り、自己評価することに重点を置く。

・語学学習では絵カードや単語カードを用いて様々な言葉を覚えられるようにする。
・リズム学習では短いリズムを単語や文字に置き換え、その単語や文字をランダムに並べてフレーズを創作させる。さらに複数の楽器からフレーズに合う楽器を選ばせて演奏をする。

上記のような取組みを重ねることで生徒たちに次のような変化が見られ出している。
・授業への見通しが立つようになり指導者を注視するようになった
・積極性が高まってきて発言が増えた
・自ら工夫する力や丁寧な作業を心掛ける様子が見られるようになってきている

②「変化に対応できる力」
〇ルーティーン化した課題に取り組むが、実施場所(教室)を変えていく。
〇カードマッチングゲームやかるた遊びの際にカードの配置を変えつつゲームを行う。
〇様々な素材や形・状態の違う教具を扱いつつも共通工程と個別工程を考えて取り組む。(作業系)
〇他者の作品や演奏を鑑賞して、工夫された点や良いと思った点を発表しあう。
(例)
・カードなどで文字や絵を明示し、視覚的に変化がわかるようにする。
・一定のルールの下でマッチングや並べ替えを繰り返し課題に慣れさせる。
・材料や道具類を整理棚に置く。整理棚には物の名称や番号をつけて分かりやすくする。準備･片付けの担当者をくじ引きで決め誰もが準備･片づけをする。
・作業材料が変わると道具も変わることを覚えさせる。
材料：紙→木材、道具：はさみ→のこぎり、定規→さしがねなど。
・器楽演奏において課題曲によって担当する楽器を話し合いの上で変えていく。他者や自分の演奏を録音して聞くことで振り返り次回の演奏の参考にする。
その際に他者からのアドバイスを受け、参考になる意見は積極的に活用する気持ちを育てる。
・語学学習では気持ちを表す言葉などを複数の表現で教え状況に応じて使い分けられるようにする。

上記のように相手が変わる、場所が変わる、状況が変わるなど日常でよくある変化にも対応できる力をつけようと試みているが、一部生徒にはその特性によってなかなか馴染みにくい場合がある。

③ 「コミュニケーション力」

〇ひとつの作業を複数で担当し、相談しあいながら作業を進められるようにする。

〇他者の発表を聞き、メモをとる練習をする。

〇先に分かった、できた者が教える役にまわる。

〇困ったときに困っている理由を言葉で伝えられるようにする。

(例)

・自転車のメンテナンスで、どの順番でメンテナンスするかを話し合い、分担を決めてから、作業を進める。複数の者が一度に作業できるため作業の効率化に繋がる。生徒同士が話し合うことで相談することに慣れる。

・休日の過ごし方について要点をまとめて発表する。発表者には聞き手にわかるように話の内容・順番・話し方を考えさせる。聞き手役の者はメモを取り、話の要点をまとめ、さらに発表者の話に対して評価をする。評価があることで発表者はより良い話し方を考えようとし、聞き手はメモを取ることで集中して話を聞こうとする。

・作業工程を短く区切り報告の機会を増やすようにしている。回数を増やし報告の仕方を覚えさせる。

・共同制作では生徒同士で話し合い、何をどのように作るか、どう分担するかを考える。はじめのうちは指導者からのアドバイスが必要だが学年進行とともに生徒だけで作業に移れるようになってきている。

上記のように生徒と指導者とのコミュニケーションから生徒同士のコミュニケーションへと徐々に変わってきている。キャリア発達を促すことを念頭に言葉遣いや態度にも重点を置いて学習を進めている。

④ 成果と課題

平成 30 年度(２年目)の取組みの成果としては、教員間の共通理解と情報共有がより密になったことと、授業を展開する際にキャリア教育を中心として「自ら考え行動する力」「変化に対応できる力」「コミュニケーション力」の伸長をはかるための手立てをより意識して取り組めるようになったことである。

（４）中間報告会について

平成 29 年度からの２年間の取り組みについて中間報告を平成 31 年２月 22 日に行った。全国から 100 名を超える参加者があり、たくさんの意見や質問をいただくことができた。２年間の取組みの概要を全体報告会で説明し、公開授業、ポスター発表、分科会、おもてなしプロジェクト、全体講演会を行った。

全体講演会では、東洋大学文学部教育学科　滝川国芳教授より「支援学校（知的障がい）における児童生徒の学びの意欲を高める授業実践～主体的・対話的で深い学びを目指して

～」と題した講演を行っていただいた。滝川教授には、平成 30 年度８月に行った校内全体研修会でも「これからの特別支援教育について」と題しご講演をいただいたほか、本事業の取組みに継続して多くのご指導をいただいた。

中間報告会では、研究発表のほかの「おもてなしプロジェクト」とした児童生徒の活動や教職員のポスター発表も行った。

「おもてなしプロジェクト」

・報告会では外部の参加者が多く来校するため、お客さまを「もてなす」ことは児童生徒にとってわかりやすく、学部共同で取り組むことのできる良い機会である。
・これまで行ってきた創作活動や調べ学習、作業学習などで積み重ねた経験や力を中間報告会を通して深い学びにつなげることができる機会である。
・来校者の立場になり相手が喜ぶことを考える、また、来校者が活用できることを考えて資料やおみやげを作成することなどを学習活動の中心にすることで、個々が役割を担って来校者のために仲間とともに活動し「できることがうれしい」「ほめられてうれしい」「役に立ってうれしい」を体感する機会になり、個々のキャリア発達を促すことができる。

実施内容

① 小学部　ウェルカムボードの制作

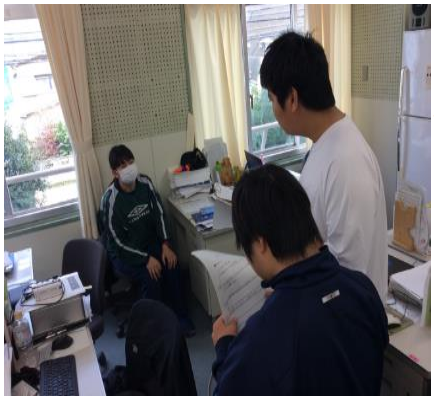
テーマを「おかしがいっぱい！」と決め、各学年の図画工作の授業で、気持ちを込めておいしそうな図柄を制作し、児童会が文字や歓迎の言葉を作成した。

６月 ７月	テーマ決定　「おかしがいっぱい！」 各学年で作成 １年：絵の具で大きなアイスクリーム　　２年:絵の具で綿菓子 ３年：スポンジでショートケーキ ４・５年：マーブリングでアイスクリーム等　６年：砂絵でショートケーキ 担当係が貼りあわせる
11 月	児童会で文字を作成し完成

② 中学部　新大阪グルメマップの制作

理科・社会の授業で、新大阪・学校周辺の地図学習や、周辺の飲食店について教員へのインタビューを実施した。その後、収集した情報をまとめ、現地の視察、来校者の見やすさを意識したグルメマップの制作を分担し、協力して完成させた。

9 月	地図の学習（校内）　地図の使う場面、地図の見方、使い方
10 月	地図の学習（校外）　校内地図以外にもいろんな地図があることの学習
11 月	アンケート調査　作成の目的を確認して、マップ作りをスタート
1 月	収集した情報のまとめ　実際に現地を歩き、情報収集
2 月	印刷・製本



先生たちにおすすめの店をインタビューして回りました。
人に渡すものということを意識してわかりやすく丁寧に**清書や製本**を行い、受け取った人が喜んでくれるか考えてわくわくしながら取り組みました。

③ 高等部　素焼きのコースター（陶芸）・手作りコースター（織物）の制作
来場者の靴磨き

おもてなしを意識して、おみやげのコースター作りに取り組んだ。「自分のため」ではなく「誰かのため」に作るということを意識し、どうすれば模様がきれいにでるかなどを考えながら心を込めて制作した。

生活デザインコースの作業学習「革靴磨き」では、普段から人との関わりを通して仕事の楽しさや、やりがいを感じることを大切にして取り組み、依頼者と作業者が顔を合わせて、コミュニケーションをとれる時間を設けている。報告会当日の朝、先着 10 名の靴を預かり時間内に仕上げ、日頃の学習の成果をおもてなしとして発揮した。

各学部の児童生徒が、来校者へメッセージを伝え、地図を渡し、心を込めて制作したお土産の説明や靴磨きの引渡しを直接行うことで、大きな拍手や「ありがとう」「うれしいです」などの言葉をもらったことは、児童生徒にとって大変大きな感動と自信になった。
「ほめられてうれしい」「役に立ってうれしい」を体感する機会となったことは大きな成果であった。

「ポスター発表」

日頃の学習活動や今回のおもてなしプロジェクトなど、学部を超えた教員間の相互学習と、本校の取組みについて多くの来校者に発表する場としてポスター発表を行った。
No20（※）では、本校とともに本事業を行う大阪府立生野支援学校の生徒がキャリア教育の観点を持った授業に関してポスター発表を行い、参加者からの質問に答えながら説明した。

No	標　　題
1	創作教材「ものものかるた」
2	校内レクリエーションの取組み
3	パソコン部の取組み
4	ＨＣＣ（東淀川サイクリングクラブ）の取組み
5	本校の進路指導について
6	まいど！ＭＹ　ＤＯカイゼンです。
7	ダンスがつくられるまで
8	小学部児童会について

9	運動会学年種目の取組み
10	ブログ　「コースだより」
11	テーマ別研修「授業実践」
12	性教育
13	平成 29 年度交流及び共同学習の取組み
14	スヌーズレンの取組み
15	ことばのカード
16	居住地校交流の取組みについて
17	おもてなしプロジェクト
18	啓発小学校との交流及び共同学習
19	キャリア教育の取組み
20	**キャリア教育の観点を持った授業作り（※）**

（５）成果と課題

教員全員で授業研究に取り組み、学部や学年、教科の枠を超えて相互に授業を参観し、多面的に評価・協議することで、単元や題材の目標・目的を達成するための興味の持たせ方、授業の展開、視覚支援の使い方、教材の提示や説明の仕方、支援の量、児童生徒が考える時間や聞く時間と実際に活動する時間のバランス、教材の役割分担・協力・意見交換の機会など、実態に応じた様々な手立てや工夫を出し合うことができた。

教材や子どもの様子について話し合う機会が多くなり新たな気づきや、児童生徒の実態や障がいの特性について共有することができ、系統的な対応方法に取り組むことができた。

担当する教科だけでなく、様々な教科での授業の手立てや工夫、他教科での児童生徒の様子などの情報を把握することで、自分の授業に活かせる手立てや工夫が増えることになり、授業力の向上につながった。

平成 30 年度（２年め）は全教員の授業研究と参観、研究協議、それらをまとめた中間報告会に取り組むなど研究内容は多岐にわたり、教職員の負担が増えることにはなったが学部を越え、学校全体が一つになって取り組んだ実践は一人ひとりの力を高めることになり、今後につながる学校全体の力にもなったものと考える。

次年度もテーマに沿って各学部の授業研究を行い、児童生徒の持てる力を伸ばし育てること、何のために何を学ぶのか、今の学びがその先にある卒業後を含む将来にどのようにつながっていくのか、つながらせるのか、キャリア教育の視点を持って児童生徒の将来への向き合い方も踏まえた授業改善に取り組む。

その成果を学習指導要領にある「資質・能力」「社会に開かれた教育課程」「カリキュラム・マネジメント」等の側面からも検討し、どのように授業で生かし教育課程の改善につなげるかを考える。

Ⅳ　平成 31 年度の取組み

１　研究内容

３年めの目的は昨年度から引き続き児童生徒の持てる力を伸ばし育てること、教員の指導力を高めることである。平成 30 年度（２年め）には教員全員が授業研究に取り組んだが、今年度は各学部３事例に絞った。そうすることで、より深く「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」を考察できるようになると考えた。

1 年間の流れ

時　期	内　　容
令和元年５月	全体研修会「本事業について」（講師　校長・教諭）
６月～７月	授業研究①　　各学部３名　授業シート作成 授業研究参観①　教員全員　　参観シート記入
７月	全体研修会「キャリア教育について」（講師　首席）
８月	全体研修会　京都女子大学・京都教育大学　滝川国芳教授 「学習科学に基づく教育活動 　～新たな学びを実現する授業のための学習環境デザイン～」
９月～10 月	学部研修会①
10 月～11 月	授業研究②　　各学部３名　授業シート作成 授業研究参観②　教員全員　　参観シート記入
11 月～12 月	学部研修会②
令和２年２月	最終報告会
２月	最終報告冊子完成

１学期に授業研究①を行い、それを受けて９月～10 月に学部研修会①で授業ごとに分かれたグループで意見交換を行い授業改善の方策について参加者全員で考える。そこで明らかになった成果と課題を受けて授業研究②を行い、どのような授業改善がなされたかを学部で共有するために学部研修会②を行う。そして今年度、学部内では授業改善について共有できたことを含め３年間の成果を学校全体で共有するために最終報告会を行った。

また、２年次に作成した「授業シートまとめ表」を３年めも作成し、２年めでは１回の授業の中で取り組んだ工夫を記入していたものを、３年めは一つの単元の中での工夫を記入し集積することにした。

今年度は、まず本事業の取組みを共有するための全体研修会を５月に行った。この研修では、「本事業のテーマ」「『３つの力』について」「２年めまでの取組みについて」「新学習指導要領の概要について」全員で理解を深め、次に、７月には「キャリア教育について」全体研修会を行った。

夏季休業中には、全体研修会で京都女子大学の滝川国芳教授に「学習科学に基づく教育活動」について講演していただいた。新学習指導要領のポイントである「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」をいかに達成するか、それには学習環境デザインを意識することが大切であることを学んだ。また、大阪府立支援学校で作成している指導と評価の年間指導計画（シラバス）についても講演の中で触れていただき、カリキュラム・マネジメントの観点からも、どのように活用していくかを考える必要があることを学んだ。

２　各学部の取組み

（１）小学部

①　授業研究の取組み

２年目に「音楽科」「図画工作科」「体育科」に分かれ「自ら考え行動する力」「変化に対応できる力」「コミュニケーション力」の「３つの力」に関する工夫について話し合った。３年目は、この工夫を活用し、「３つの力」を育む授業について、新学習指導要領にある３つの柱、「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」「学びに向かう力・人間性等の涵養」も考え合わせながら「音楽科」「図画工作科」「体育科」の授業改善を行った。更に、「音楽科」「図画工作科」「体育科」各１事例ずつ【表１】の日程で授業研究・研究協議を行った。

【表１】授業研究・研究協議の日程

	音楽	図工	体育
第１回授業研究	６月 18 日	６月 12 日	５月 30 日
第１回研究協議	９月 26 日	９月 25 日	９月 26 日
第２回授業研究	10 月　８日	11 月 16 日	10 月 31 日
第２回研究協議	10 月 17 日	11 月 26 日	11 月 10 日

②　第１回研究協議について

「音楽科」

第１回の研究協議において、授業者から「『お寺の和尚さん』の音楽遊びで相手の手をたたくことはできるが、自分の手をたたいてから相手の手をたたくことは難しい」との話があったことを受けて、「横に手を出すほうがたたきやすい。前に手を出すほうが難しいのではないか」「児童が自分でカスタネットを持ち、横の児童のカスタネットをたたくのはどうか」などの意見が出され『お寺の和尚さん』をスモールステップで指導するには、①児童が自分の持っているカスタネットをたたいてから、教員が持っているカスタネットをたたく②児童が自分の持っているカスタネットをたたいてから、教員の手をたたく③児童が自分の手をたたいてから、教員の手をたたく、と段階に分けて指導すればよいのではないかと仮説を立てた。これをもとに第２回の授業研究を行った。

「図画工作科」

第１回の研究協議では、授業者から次のような課題や参観者の感想が述べられた。

〈課題〉

・手元を見てはさみを使えるようにしたい。

・制作スピードの個人差が大きく待ち時間ができやすい。

〈参観者の感想〉

・手元を見てはさみを使うためには、切った感触を味わえるように切る素材に工夫が必要。

・自分で作品作りができるように手順書を示してはどうか。

・振り返りでは、言葉だけで理解できる児童が少ないので、作った作品を見せる等、視覚的な支援があると伝わりやすいのではないか。

以上の研究協議を受けて、次のように授業を改善することにした。

〈第２回授業研究の改善点〉

・「自ら考え行動する力」を育む工夫として、自分の力で作品作りができるように手順書を準備する。

・「変化に対応できる力」を育む工夫として、手元を注目してはさみを使えるように切る材料をカラーダンボールにする。

・「コミュニケーション力」を育む工夫として、児童の活動を写真に撮り視覚支援を用いた振り返りをする。

「体育科」

第１回研究協議では、次の点について話し合った。

〈コミュニケーション力について〉

・できたとき、がんばったときには、言葉や身振り（手話)、視覚支援カード等で十分にほめる。また、児童同士が良いところを見つけてほめ合ったり、考えたことや気付いたことを他者に伝えたりするなどのやり取りを通じ体育におけるコミュニケーション力を育てることになるのではないか。

〈単元や単元目標について〉

・体育では十分な運動量が必要である。一方で、楽しむことができ、かつ児童の実態に合っている運動が必要ではないか。毎日行っている朝の運動で運動量を保障し、体育の授業では質的な点を保障する考え方もあるのではないか。

・児童の実態に大きな差があると単元設定や目標設定が難しい。体育でのグループ編成について検討が必要ではないか。

〈評価について〉
・評価を行うためには、単元のねらいや個々の児童の課題、目標を明確にする必要がある。
・子ども自身が「何をしたらいいのか」「何ができたらいいのか」「どこがゴールなのか」など、どうしたら課題を達成したことになるのかを理解して取り組めるようにする必要がある。
・スケジュール表などで見通しを持たせたり活動場所を変えたりすることで、活動の始めと終わりがはっきりわかり、自ら課題に向かうことができるようになるのではないか。
・１つの活動が終わったときに、その都度振り返り評価した方が、児童にとってわかりやすい場合もある。
〈その他〉
・ST（サブ・ティーチャー）の役割をはっきりさせておくことが大切である。

以上の研究協議を受けて、第２回の授業研究では、「単元のねらいや個々の児童の課題を明確にすること」「何をしたらよいのかを児童にわかりやすく伝えること」「できたとき、がんばったときに的確にほめること」を焦点に当てて授業改善に取り組むこととした。

③ 第２回研究討議について
「音楽科」
『お寺の和尚さん』では、仮説を受けて授業を展開すると同時に、課題別に「１グループ：カスタネットを持つことが難しいグループ」「２グループ：カスタネットを持てるが交互にたたくことが難しいためゆっくり演奏するグループ」「３グループ：友だち同士で交互にたたけるグループ」の３つのグループに分け授業を行った。その結果、児童一人ひとりがカスタネットを持つようにしたことで、位置を意識してたたくことができた。また、スモールステップで教えるとともに課題別にグルーピングすることで、主体的にたたくことができていた。自分のカスタネットをたたいてから相手のカスタネットをたたくことは、相手を意識することにつながり、また主体的にカスタネットをたたくことつながったのではないかと考えられる。

「図画工作科」
はさみを使う場面では、児童の実態に合うように「左利き用の普通のはさみ」「バネのついたはさみ」「カスタネットばさみ」「音が出るように細工したカスタネットばさみ」の４種類を準備した。児童の実態に合ったはさみでカラーダンボールを切る感触が手に伝わり、自発的にはさみを使おうとする姿が見られた。
児童が主体的に活動に参加するためには、「意欲的に取り組めるような題材・道具・素材を選ぶこと」「個々の実態に応じて必要な支援を考えること」が必要であり、そしてそのためには児童の実態把握が大切であると考えた。

「体育科」
〈授業者より〉
・ST（サブ・ティーチャー）が児童一人ひとりの様子を記録したものをもとに次の授業ではどのような支援が必要か改善点を常に話し合うことができた。
・足型などのよりわかりやすい視覚支援や教具を使うように配慮した。
〈参観者より〉
・立ち位置を示すマットや足型など、児童が自ら動けるような工夫がなされていた。
・自分なりにもっとおもしろい動きを考えようとする児童もいた。
・台車に乗るという楽しみが最後にあることで意欲的に手押し車の活動に参加できていた。

以上の討議から、児童の実態に焦点を合わせ、楽しい活動を通して児童の課題に向き合うことが大切であると思われる。また、課題を明確にし、様々な配慮を行うことで主体的に動こうとする力、動くことが楽しくもっとやりたいと学びに向かう力を育てることになったのではないかと考える。

④ 成果と課題
２回の研究協議では各教科に共通する次のような意見があった。
【表２】各教科からの意見とまとめ

授業の振り返りを毎回授業者間で行い、その改善点を次回の授業で実行している。
児童の意欲を引き出すための言葉がけの工夫。
ICT を使うことで理解や関心につなげる。
課題を細分化し、スモールステップで教える。
待ち時間を少なくする工夫。テンポのある授業。
児童が主体的に動けるよう児童の実態に合った手順書、視覚支援の工夫。
児童の実態に合った道具の選定や工夫。
場所の構造化。
活動の前に何が目標なのか分かりやすく提示する。

本校では、「一人ひとりの状態を踏まえ『何を学ぶか』『何を身につけるのか』を明確にした授業で「３つの力」を育み伸ばすことを大切にしてきたが、音楽科で例を挙げると、３つの力である「自ら考え行動する力」については、スモールステップでカスタネットの課題に取り組み、自分のカスタネットをたたいてから、相手のカスタネットをたたけるようになった。「変化に対応できる力」については、足型と鈴をマットにつけ、視覚的、聴覚的の２つの方向からアプローチすることで、児童が自ら考え足踏みすることができた。「コミュニケーションの力」については、児童が自分でカスタネットを持ち、自分のカスタネットをたたいてから相手のカスタネットをたたくことで、相手を意識する力がついたと考えている。

本事業での授業改善を通して、改めて「児童の実態把握」の大切さを全員で共通理解するとともに、その難しさ、そして今後どのように実態把握していくのかが課題として上がった。新学習指導要領においては、「何ができるようになるか」検討した結果、育成すべき資質・能力が「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」「学びに向かう力・人間性の涵養」の３つの柱に整理されたが「何ができるようになるか」を明確にした授業にするためには、やはり児童の実態把握が重要であるとされている。児童の実態把握は、観察、アセスメントだけでなく、教員一人ひとりが様々な理論や支援の方法を知り活用することが重要であり、また、教員一人ひとりが「教員自身何ができるようになるか」の視点をもち、自身の資質・能力の向上に意識を向けることも新学習指導要領をふまえたこれからの授業づくりにおいて大切であると考える。

（２） 中学部

① 授業研究の取組み

「①自ら考え行動する力」「②変化に対応できる力」「③コミュニケーション力」を育む授業の充実へ向けて、「理科・社会」「国語、英語」「職業・家庭」の教員３名の授業を「３つの力」を伸ばし育てるための授業内容や指導方法、資質・能力の評価規準について、中学部教員一人ひとりが授業事例を通して検証及び考察し、その洞察的な解釈を全体で共有することを通して、個々の指導力の向上をめざす。１回目の授業検証を踏まえた後の２回目の授業研究は、授業内容や指導方法の改善と充実が図られ、比較検討できるようにする。

また、令和２年度から順次実施される新しい特別支援学校学習指導要領を踏まえ、資質・能力（「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」「学びに向かう力・人間性等の涵養」）の評価規準についても検証し、生徒の実態に応じた授業内容や指導方法の改善と充実を図る。

② 研究グループの実態

授業研究を行った学習グループは、A１グループ「理科・社会」「国語・英語」とC２グループ「職業・家庭」である。中学部は、学年を超えて課題別グループを編成しており、A１グループは、１年生６名、２年生２名で構成され、１対１での支援を必要とする生徒が多く、自分の気持ちや要求を声や身振りで伝えることができる生徒や発語がなく気持ちを伝えることが難しい生徒がいる。また、落ち着いて課題に取り組むことが難しく、離席行動が目立つ生徒がいるグループである。C２グループは、１年生３名、２年生５名、３年生３名で構成され、どの生徒も日常生活で使用する語彙の理解ができており、対話による伝達手段を確立している。自分でできることを見守りつつ、場面によって個々に応じた支援が必要なグループである。

③　第１回授業研究

授業研究内容

表１は、３名の授業者の授業内容と授業者による振り返りと参観者からのアドバイスを要約したものである。「自ら考え行動する力」「コミュニケーション力」を育む指導に関しては、共通点が見られた。前者は、視覚支援を使用しながら授業スケジュールを提示することが共通していた。後者は、＜生徒と授業者＞＜生徒と生徒＞が言語などを通して働きかける場面設定が共通していた。

授業研究後の振り返りや参観者からのアドバイスを踏まえた課題には、一定の傾向が見られた。A１グループの「理科・社会」「国語、英語」に関しては、生徒と授業者を中心とした関係の中でどのように学ぶかという学び方に焦点が当てられていた。C２グループは、学んだことをどのように生かすかについて焦点が当てられていた。また、３名の授業者が共通して課題にした点は、評価規準の見直しであった。

【表１】

教科		理科・社会	国語・英語	作業学習（職業分野）
授業内容		単元「生命・自然」」 ・ その日の天気を天気カードから選び、天気カレンダーにシールを貼る ・歌「頭肩膝ポン」などを取り入れ体の部位の名前を知る ・体の部位の名前カードのマッチング	単元「ものの名前」 ・英語の挨拶「Hello」など ・英語の歌「BINGO」 ・絵カードによる色と物のマッチング ・絵本の鑑賞「はらぺこあおむし」	単元「ハンガーの製作」 ・卓上ボール盤を用いて穴をあけ作業を行う ・紙やすりを用いて切断面を整える
３つの力	①	・スケジュールカードの提示	・スケジュールの確認	・写真や実物を提示する ・学習のゴール（目標）を明確にする
	②	・授業の始まりに生徒と一緒にスケジュールを読む	・短い言葉で指示をする	・新しい工具や機械を積極的に使用する
	③	・褒めるなどの言葉かけを積極的に行う	・指導者とのタッチ、指さし、絵カードを取り入れる ・拍手をして褒める	・作業中の疑問や作業終了の報告を指導者にする。 ・友だちと協同することを促す
評価規準	Ⓐ	・指導者の言葉かけで体の部位に触れることができる	・英語の歌を聞いて、体を動かす ・色のカードと食べ物カードのマッチングができる ・食べ物に注目して「はらぺこあおむし」の鑑賞をする	・職業について関心を持ち、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付ける
	Ⓑ	・指導者の身振りや映像に合わせて体の部位に触れることができる ・課題ができたことを周囲の指導者に伝える	・映像や指導者の手本を見て、体を動かすことができる ・指導者からの問いに対し、答えようとする	・将来の職業生活に必要な事柄について触れ、課題や解決策に気付き、実践し、学習したことを伝える
	Ⓒ	・落ち着いて課題に取り組むことができる ・できるだけ自分の力で個別課題をやり遂げようとしている	・正しい姿勢で落ち着いて授業に参加することができる ・周りの動きを見て行動することができる	・将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする
ふりかえり		使用器具確認やサブティーチャーとのコミュニケーションなど事前準備と生徒への活動の評価方法について検討する	・動的な視聴覚教材を取り入れながら、指導者の実演や生徒自身がダンス・歌などで具体的に活動することは、興味関心を引き出すことにつながっている ・評価規準に対する手立てについては検討する。	・ゴールを明確にすることで、自ら考え行動する力につながったり、工具の使用方法を友だち同士で確認したりすることでコミュニケーション力の育ちが期待できる ・評価規準については検討する

アドバイス	＜成果＞ ・静的な図示の活用や肯定的な言葉かけを意識的に行っている ＜課題＞ ・座席配置を検討し、指導者の動線を考慮する	＜成果＞ ・動的・静的な視聴覚教材を取り入れながら、生徒の興味関心を引き出している ・指導者の声が大きく元気があり、肯定的な言葉かけをして授業を展開している ＜課題＞ ・座席配置を検討し、生徒との距離や指導者の動線を考慮する ・指導を行うにあたっての効果的な声のトーンなどで、静と動を授業に取り入れ、学習の理解を促す ・実態を考慮した評価規準になるよう見直す	＜成果＞ ・動的・静的な視覚支援を行いながら、指示や目標設定が具体的で理解しやすい ・難しいときや間違ったときに生徒が指導者に質問をしている ＜課題＞ ・評価規準を検討する ・生徒間のコミュニケーションに着目し、共に学びあう姿勢を考慮する ・安全な工具や機械の使用を学習する

グループ協議

表２は、３グループに分かれて各授業者からの授業に関する課題（問題提起）を中心に、活用資料を踏まえて協議した内容である。２回めの授業改善の具体的指導内容を意識した結果となった。

【表２】

教科	理科・社会	国語・英語	作業学習（職業分野）
問題提起	①生徒が集中するための工夫 ②評価するタイミング	３つの力を育むための教材・支援	評価規準について
討議内容	①生徒が集中するための工夫 ・学習活動時間の見直し（５分から１０分で活動内容を区切る。タイマーの使用。） ・視聴覚教材の活用（画像は、プロジェクターなど大きくする。静止画と動画を併用する。） ・内容の改善（固定した授業活動がある。新しい学習内容は一つにする。考えて動く活動を取り入れる。親しみのある歌を取り入れて学習する。） ・学習中の工夫（集中が途切れたときに、○×カードを使用する。全員が同じ活動をするときに聞く姿勢を促す。） ②評価するタイミング ・全体に伝わるように褒める ・場面を考えその都度褒める	・授業環境の設定（生徒が指導者の方へ視線が向くことへ着眼し、机が不要な生徒には椅子のみにする。活動内容によって机を配置する。） ・視聴覚教材の活用（静的図示は大きくし、写真を取り入れる。映像は、スピードの調整ができないので、大型絵本を活用する。） ・内容の改善（具体物や模型に触れるなど、五感を取り入れながら学習する。声のトーンを変えて、授業を展開する。生徒同士の活動を取り入れる。）	・生徒一人ひとりの達成状況を把握しながら評価規準を設定する ・協同学習を取り入れ、評価規準を設定する

④　第２回授業研究

授業内容と改善点

表３は、１回めの授業研究を踏まえて実施した改善点と授業内容を要約したものである。どのように学ぶかという学び方に焦点があてられたＡ１グループの改善点は、指導者の方に注意を向けるための工夫が中心であり、授業の内容分析（興味関心の引き出し方など）・授業環境の整備（視線を指導者に向けるための工夫）などの事前準備に関することとその日の生徒の状態に合わせて授業中に授業者が使用する技法（スキル）の両側面の改善が見られた。Ｃ２グループは、教育方法として協同学習を取り入れ、協同学習の効果を高めるために基本要素が意識された指導内容や授業展開の改善が見られた。

【表３】

教科		理科・社会	国語・英語	作業学習（職業分野）
改善点		・動的・静的視聴覚教材の画像を大きくする（プロジェクターの使用） ・学習内容を大きく３つに分ける（天気・ニュース/全体学習/個別学習） ・状態を伝えるために〇×カードを取り入れる	・生徒の状態や活動内容で、机・椅子の配置を考える ・ホワイトボート上の刺激を少なくする ・声のトーンを調整する ・五感を意識した教材を取り入れる	・グループで学習する場面を設定する ・片付け時にリーダーを指名し、リーダー中心で片付けを進める ・評価規準を見直す
授業内容		・映像でニュースを学習する ・色々なマークを学習する（ごみの分別をする）	・ゲームを通して、ひらがなを学習する ・名前をなぞり書きする ・絵本の鑑賞「ぴょーん」「へんしんトンネル」	・スパイラルソーで曲面を切り出す ・やすりを使って曲面を整える
３つの力	①	・スケジュールを提示し、それを生徒と一緒に読んで確認する ・取組みに対して褒める	・生徒とスケジュールの確認をする ・姿勢を正すように言葉かけをする	・写真や実物を説明に用いることで、ゴールを明確にする
	②	・理解度に応じて個別内容の変更と調整をする ・ゴミを分別する	・声のトーンを調節し、授業内で静と動の雰囲気を作る	・新しい工具や機械を積極的に使用する ・状況によって工具を使い分ける
	③	・簡潔に短い言葉で伝える ・生徒の意見を聞いて取り組む場面を設定する ・生徒が発する言葉に共感する	・指導者とのタッチ、指差し、絵カードを取り入れる ・拍手をして褒める	・指導者に報告する ・友だちと協同することを促す
評価規準	Ⓐ	・映像に注目したり、指導者の話を聞いたりすることができる	・指導者と一緒に指示したひらがなを指差すことができる ・指導者やまたは一人で名前の運筆ができる	・工具の特性を理解し、正しく安全に使用することができる ・材料の特性を理解し、適切な作業を行うことができる
	Ⓑ	・課題ができたことや気づいたことなどを周囲の指導者に伝えることができる	・出席カードを貼ることができる ・映像に注目したり、指導者の話を聞いたりすることができる	・周囲の動きを見て行動することができる ・作業内容や工具の使い方を正しく伝えることができる
	Ⓒ	・個別課題や全体学習において落ち着いて課題に取り組むことができる ・できるだけ自分の力で個別課題をやり遂げようとしている	・姿勢正しく椅子に座ることができる	・周囲の友だちと協力して作業をすることができる ・ルールやきまりを守って行動することができる

⑤ 成果と課題

改善点は、授業改善につながった。表４は、その結果である。A１グループの主となる成果は、生徒が授業を展開する授業者に視線を向ける学びの姿勢が見られたことである。C２グループの主となる成果は、相互依存関係・対面的なやりとりの場面・個人の役割と責任・班の活動を実行するスキルが見られたことである。

【表４】

教科	理科・社会	国語・英語	作業学習（職業分野）
成果と課題	＜成果＞ ・動的・静的視覚教材の画像を大きくすることは、注目を促す結果につながった ・授業内容を 3 つに大きく分けることは、落ち着いて授業を受ける態度につながった ・出席調べ時に姿勢カードを提示して、それに対して〇×カードを表現することで、意識できることがあった ＜課題＞ ・ごみの分別では、一人ひとりが課題に取り組むまでの待ち時間が長かった	＜成果＞ ・声のトーンの調整が場面の切り替えにつながった また、指導者に注目を促す結果につながった ・生徒の状態や活動の内容によって机や椅子の使用や配置の調整は、指導者に注目する時間の増大につながった ・五感を意識した教材は、生徒が積極的に学習に参加し、興味関心を引き出すことができた また、一体感が生まれるようになった ＜課題＞ ・ウィスパーボイス・テンポ・強弱を場面の展開を意識して使用する ・学習活動の内容と時間構成の見直し	＜成果＞ ・グループで学習する場面の設定は、指導者が促さなくても自分たちで会話をし、協力する意識の高まりにつながった ＜課題＞ ・作業の目的や備わる力を提示したり、将来の希望する進路を意識させたりして、主体性を高める ・身に付けた力を発揮できる場面を増やす
アドバイス	＜成果＞ ・マークを手掛かりにして、ごみの分別ができている また、友だちの取組みに意識を向けたり、どうすべきかを考えて行動したりしている ・肯定的な生徒への対応をしている ・画像をよく見ていた ・画像で見たものが具体物（サッカーボール・ラグビーボール）になり、興味関心を引き出している様子が見られた 〈課題＞ ・学習環境の見直し ・評価規準の見直し	・声の調整は、生徒が授業者に注目することにつながった ・机・椅子の調整が、指導者の方へ注目を促す結果につながった ・肯定的な言葉かけが見られた ・五感を意識した教材は、主体的に文字に慣れ親しむ場面が見られた ＜課題＞ ・声の調整の幅を広げる ・学習内容の見直し（目と手の協応に着眼した教材、グループに分けて学習する生徒の状態に応じた課題、視覚支援を使用した教材など） ・評価規準の見直し ・具体的な指示を出す	＜成果＞ ・協同学習の定着が見られ、生徒主体の授業が形成されていた ・指導者への報告の定着が、安全に作業する姿勢へとつながっている ・具体的な指示や考える場面の設定が、自ら考え行動する力につながっている ・工具の使い方について振り返ることは、技術向上につながった ・役割を明確にすることは、主体的に行動する力につながった

本事例研究において、研究目的である「自ら考え行動する力」「変化に対応できる力」「コミュニケーション力」を育む授業内容や指導方法についての改善が見られ、今回の研究方法に効果があったことが伺える。今回の研究方法の特徴として、教員一人ひとりが授業を通して授業者と「語らう」場が設定された。これは、授業力の向上には、教員間の「語らい」が有効であることを示している。

（３） 高等部

① 授業研究の取り組み

「生活（外国語）」・「音楽」・「職業」（生活デザインコース）の３つの授業を選出し、高等部の教員は３名の授業者の授業研究を参観することとした。参観者は、「自ら考え行動する力」「変化に対応する力」「コミュニケーション力」の観点及び育成すべき「資質・能力」（「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」「学びに向かう力・人間性等の涵養」）の評価規準にも着目して授業を参観し、授業者へ参観シートを提出する。授業者は、参観シートと研究協議の内容をもとに２回目の授業研究を行い、取組みを通して見えた成果と課題を高等部全体で共有した。表１の日程で授業研究・研究討議を進めた。

表１

	生活（外国語）	音楽	職業
第１回授業研究	７月　１日	７月　２日	７月　５日
第１回研究協議	10 月　８日	10 月　８日	10 月　９日
第２回授業研究	12 月　９日	11 月　５日	11 月 15 日
第２回研究協議	12 月 17 日(学部内報告会)		

②　第１回授業研究

「生活（外国語)」

単元「英語のコミュニケーション・リスニング」

授業内容

・英語のあいさつを指導者の後に続いて練習する。

・指導者からの英語の質問に答える。

・スポーツの名称の発音を指導者の後に続いて練習する。

・「本時の英文法」を使って生徒同士で交流する・色や形を表す英単語の発音練習をする。

・ワークシートを使って色や形を表す英単語のリスニング問題に取り組む。

「音楽」

単元「リスト『愛の夢』～三拍子にチャレンジ～」

授業内容

・鍵盤シートを使って階名を確認する。

・キーボードを使って音階を練習する。

・三拍子の曲の中から一曲選び、曲に合わせて指揮を振る。

・二人組になって音やリズムを確認する。

・全員で合奏する。

「職業」(生活デザインコース)

単元…「革靴磨き・スリッパ磨き」

授業内容

・プロの革靴磨きの写真を見て、プロの技を知る。

・良い例・悪い例の絵カードを見て作業態度を確認する。

・手順表を確認しながら革靴・スリッパを磨く。

・磨き終わった革靴のアンケートカードを作成する。

③　第１回研究協議より

「生活（外国語）」

授業者からは「主体的にコミュニケーションがとれる生徒とそうでない生徒がいる中で、目標設定が難しく、生徒の実態に差があることから授業内容が質問をし、答えるという一方通行、断片的なコミュニケーション（英会話）になってしまう」との問題提起があった。これを受けて、「生徒同士のやりとりを増やしたいのであれば、一問一答のやりとりに入る前に、導入で取り入れている英語のあいさつを入れてみてはどうか」といった助言があった。そうすることで、コミュニケーションをとることが難しい生徒もホワイトボードの掲示物を見ながら生徒同士でやりとりができるのではないかと考えた。

また、３つの力「①自ら考え行動する力」「②変化に対応する力」「③コミュニケーション力」に関し次のような助言があった。

「①自ら考え行動する力」

・分かっていても発言することが難しい生徒のために、ワークシートに答えを書く方法を取り入れるのはどうか。

・ワークシートの内容を繰り返し取り組む部分と新たな思考を要する部分を交えてみるのはどうか。

「②変化に対応できる力」

・題材をスポーツではなく、食べ物や動物など生徒にとって身近な題材にしてはどうか。

「③コミュニケーション力」

・全員が大きな声で表現できることを目標に授業を進めていくのはどうか。

「音楽」

授業者からは「授業の中で物事を決める際に生徒同士の話し合いを円滑に進められるようにするためには、どうしたらよいか」という問題提起があった。これを受けて「日直の生徒に司会進行を任せ、話し合いを進めていくのはどうか」「具体的に話し合う内容や方法を伝えたり、指導者が見本を示したりしてはどうか」などといった意見が上がった。

また、３つの力に関し次のような助言があった。

「①自ら考え行動する力」

・パート編成班の人数を少なくすることで、生徒自身それぞれの役割についての意識が高まるのではないか。

・生徒が安心して授業を受けられる環境づくりや、失敗しても大丈夫だと思える曲選びをする。

「②変化に対応できる力」
・何について話し合うべきか、ポイントを絞り視覚的に提示する。

「③コミュニケーション力」
・楽器の片付けや準備を通して、友だちと協力して取り組むようにする。

「職業」（生活デザインコース）
授業者からは「自信やイメージなど目に見えないところをどのように判断・評価したらよいか」との問題提起があった。これを受けて、評価規準「思考力・判断力・表現力等の育成」相手に喜んでもらう活動にイメージを持って取り組むことができるようにするためにはどうしたらよいか考えた。話し合いでは、「磨いた革靴などを依頼主に渡した際に受け取る評価を記入してもらうカードが意欲につながっているのではないか」「指導者がイメージする相手が喜ぶ姿を生徒に提示するのがよいのではないか」などの意見が出た。また、評価規準「学びに向かう力・人間性等の涵養」達成の成功体験を次への自信につなげるためにはどうしたらよいかについても考え、「本時の作業態度や達成状況を生徒たちに自己評価させたり、指導者が点数化したりするのはどうか」といった具体案が出た。
３つの力に関して次のような助言があった。

「①自ら考え行動する力」
・時間の経過を捉えることが難しい生徒も多いことから、タイムタイマーを使用することで時間の経過を視覚化することができるのではないか。
・授業の導入時に仕事に対する意識づけのために合唱する言葉をもう少し簡単なものにするのはどうか。

「②変化に対応できる力」
・汚れている場所や重点的に磨くべき場所を、グループごとに確認する時間を確保する。

「③コミュニケーション力」
・スリッパの作業手順も革靴同様掲示物を用いて提示するのはどうか。

研究協議の中で、評価規準については指導者全員が評価規準について学び、客観的・段階的・数値的に評価できるシステムを作っていく必要があるのではないかという意見もあった。

④　第２回授業研究

「生活（外国語)」

単元「新出単語を使った英語のコミュニケーション・リスニング」

〈授業内容〉

・英語のあいさつを指導者の後に続いて練習する。

・新出単語の発音を指導者の後に続いて練習する。

・「本時の英文法」を使って生徒同士で交流する。

・交流の中で聞き取った答えをワークシートに記入する。

・ワークシートを使って色や形を表す英単語のリスニング問題に取り組む。

〈改善点〉

生徒が自信をもって取り組めるよう、継続して取り組む課題と新たに取り組む課題を用意した。

毎時間導入として練習している英語のあいさつ「ハロー」を生徒同士の会話の初めに入れたり、質問を聞き返したりすることでやりとりを増やした。

リスニングテストでは、前回のワークシートからカタカナで表記していた英単語の発音表記をなくして取り組むようにした。

「音楽」

単元「ウクレレにチャレンジしよう」

〈授業内容〉

・指の押さえ方やストロークの方法を確認しながら、コードを練習する。

・コードネームの書かれたカードを引き、指示されたコードを弾く。

・二人組になって TAB 譜を見ながら押さえる位置を確認し合う。

・メロディーとコードのグループに分かれてパート練習をする。

・全員で合奏する。

〈改善点〉

・指導者があらかじめ生徒のペアリングを考え、グループを設定する。

・ウクレレの練習を始める前に「どのように話し合いを進めていくのか見本を示す」「練習方法を複数紹介する」「練習するうえで必要な生徒同士の役割を提示する」などといった話し合いをするうえで必要なポイントを生徒たちに伝えた。

「職業」（生活デザインコース）
単元「グローブ磨き」
〈授業内容〉
・依頼を受けたグローブの数を全員で確認する。
・本単元での合言葉を言う。
・複数磨き班・１つ磨き班・ブラッシング班に分かれてグローブ磨きに取り組む。
・「グローブみがけたかなシート」を使って本時の作業の出来を自己評価する。
〈改善点〉
・タイマーを用いて、時計を読むのが難しい生徒も時間を意識して作業に取り組むことができるようにした。
・授業の導入時に仕事に対する意識づけのために合唱する言葉を短くて分かりやすいものにした。
・「グローブみがけたかなシート」を使って本時の作業を自己評価する場面を設けた。

⑤　成果と課題
「生活（外国語）」
　前回から継続的に取り組んでいる課題は、生徒たちの積極性が見られ、自らジェスチャーを交えて発音しようとする様子が見られた。リスニングテストに関しては、前時よりも発展させた形で発音表記や掲示物をなくして取り組むこととしたが、内容の理解度に差はあるものの全員が集中して課題に取り組むことができていた。授業の目標設定は、生徒の理解度を確認しながら引き続き検討していく。

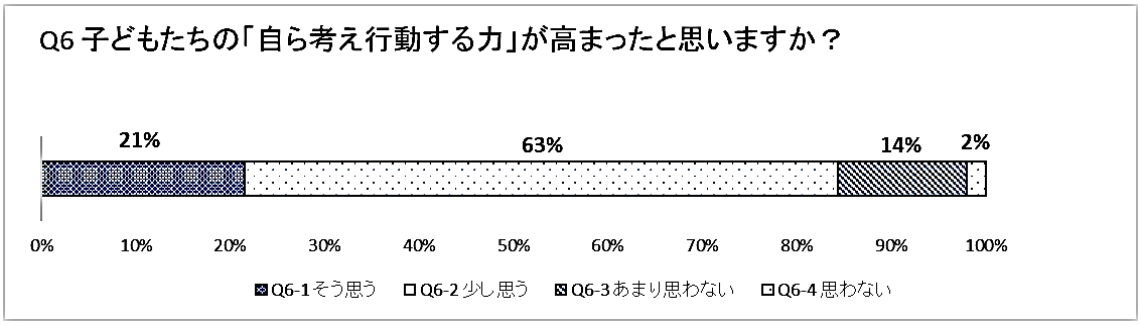
「音楽」
　会話が苦手な生徒と得意な生徒を組み合わせることで、お互いの良さを引き出し補い合うことができた。生徒たちは、指導者が提示したポイント（話し合う道筋や目的）に基づいて自分たちで話し合うことができていた。また、ポイントをもとに自分たちでアレンジしそれぞれに合った練習スタイルを選んだグループもあった。他の場面でも活用できるよう、継続して授業の中で話し合う場面を設けていく。

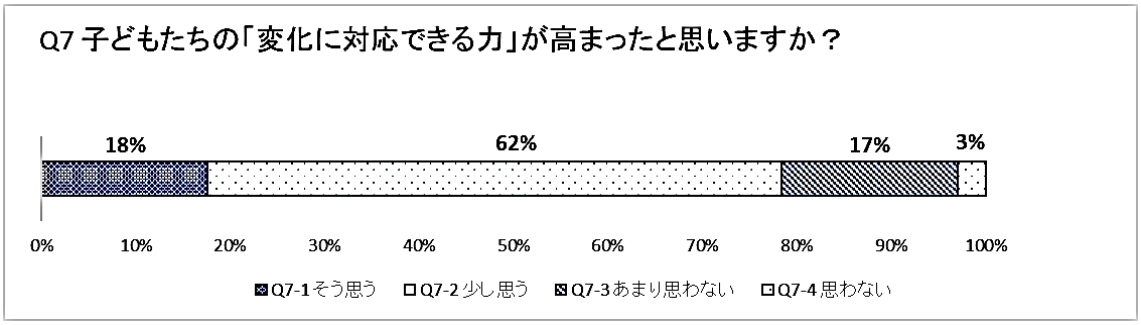
「職業」（生活デザインコース）
　「グローブみがけたかなシート」を活用し、自己評価を行う場面を設定した。B 班の生徒は自ら考えて記入し、「自信がついた」と選択できたことで指導者も評価の判断を行いやすくなった。しかし A 班の生徒には記入が難しく、今まで通りの口頭評価が適していると感じた。また、「イメージを持つ」ための支援が難しく、更なる工夫の必要性を感じた。生徒数が多いことから、一人ひとりに合った支援を増やすことも時間確保が難しいため引き続き検討していく。

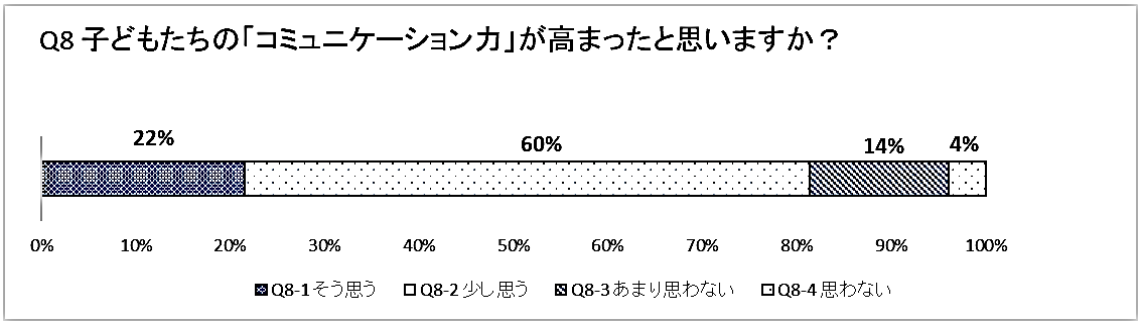
Ⅴ　研究成果と課題

１　自己評価

研究３年目の 12 月に本事業の取り組みが授業改善や教育課程の見直しにどのようにつながったのか自己評価するために教職員を対象としたアンケートを行った（Q１～５では所属学部や経験年数等の基本情報を扱っている）。

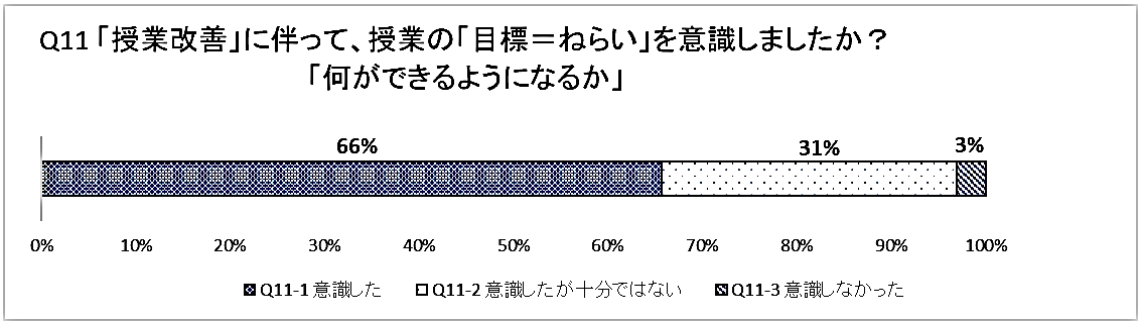


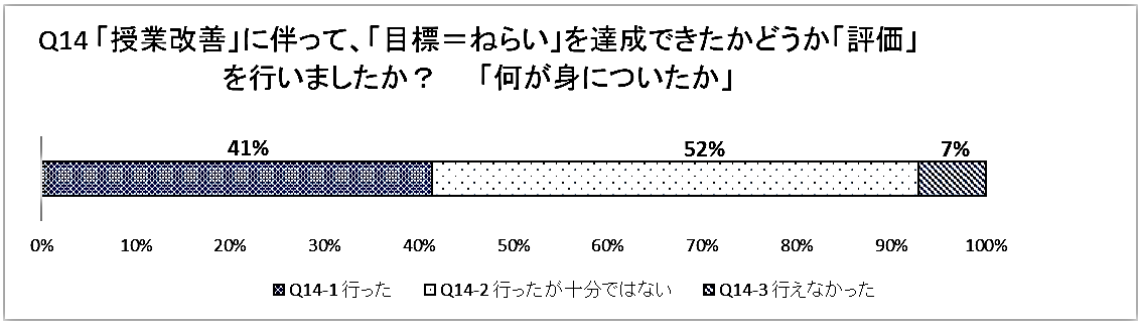


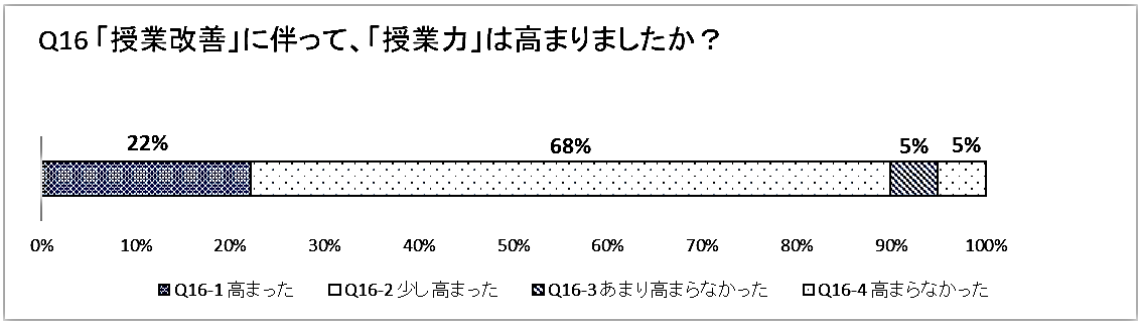


上記の結果から研究テーマに掲げた「３つの力」について、80%以上の教職員が成果を得ることができたと認識していることがわかる（Q６：84%、Q７：80%、Q８:82%）。
ただし、それぞれの肯定的な回答で 60%以上が「少し思う」であることは、まだ課題を残していると考えるべき結果であり、主体的・対話的で深い学びのある授業を求めてさらに継続した研究を行わなければならない。

次に、授業改善をめざした研究について次のような回答を得ている。

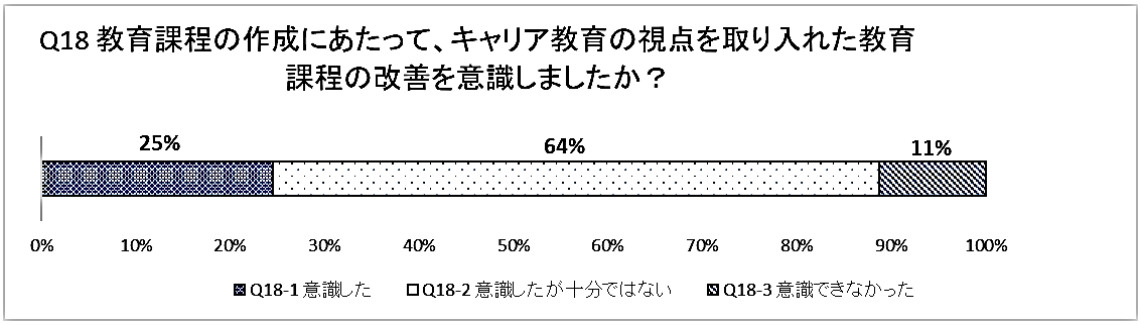






授業の「目標＝ねらい」（何ができるようになるか）を 66%が意識したと回答しているが 31%は十分ではないとし、３%ではあるが意識しなかったという回答があることは課題となる。また、「目標＝ねらい」を達成したか（何が身についたか）「評価」を行ったかについては 52%が十分ではない、７%が評価できなかったと回答していてこの点についても課題が残っている。今後も具体的な評価の方法について研究を進めたい。

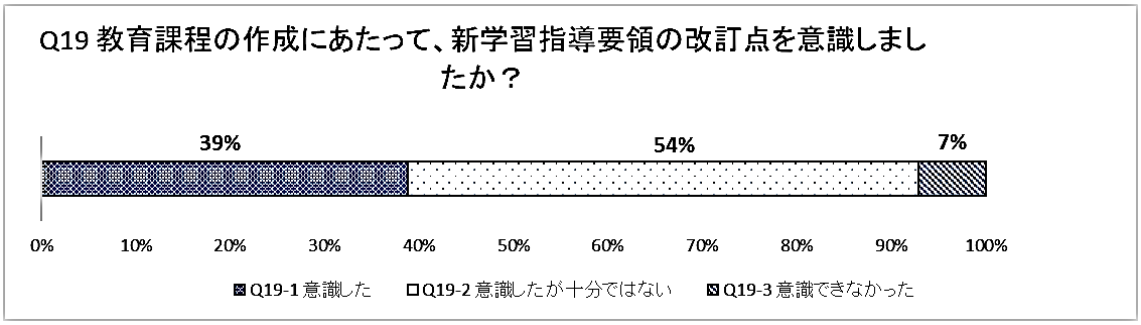
また、キャリア教育の視点での教育課程の改善については次のような回答になっている。



25%が意識したとしているが 64%は意識したが十分ではないとしていて、キャリア教育の視点から授業を組み立てること、教育課程を見直すことはかなり浸透しているが、それらがまだ十分に自分たちのものにできていないのではないかと考える。本校の「キャリア教育マトリックス」と「キャリア発達段階表」を日常的に活用し、児童生徒の実態把握や授業での評価などをキャリア教育の視点から行うことを習慣とするようにしたい。

自分の役割を果たすことで、他者から認められたり、ほめられたりして喜びを感じるキャリア教育を小学部から中学部、高等部で一貫して教育課程の柱として実践したい。

さらに、新学習指導要領の改訂点については次のような回答になっている。



新学習指導要領の改訂点について意識したかについては、39%が意識したとしている一方、54%は十分ではないとしている。新しい学習指導要領の本格実施と並行して教職員一人一人が趣旨を理解し、それぞれの授業で具体化できるよう引き続き研修の機会を設けるようにしたい。

２　授業改善アドバイザーより

(1) はじめに

学校力は、「授業力」によってほぼ規定されると言っても過言ではない。また、一つ一つの「授業」は、「教育課程」を構成する一つ一つの「パーツ Parts」＝「部品」である。よって、一つ一つの「授業」を「改善する」＝「見直す」プロセスを辿ることによって、「教育課程の改善」がなされると言う「ロジック」（＝論理）が立てられる。この「ロジック」に従い、「授業」の中で子どもたちを育成する力として、「３つの力」が、本校で提唱された。２名のアドバイザーは、この取組みの方針に従い、年間 35 週、週当たり３回、業務に取り組んできた。

(2) 授業改善アドバイザーの業務内容

①授業参観を行い、本校オリジナルの「参観シート」への記入。この「参観シート」を授業主担者へフィードバックを行った。

教員はこれらのフィードバックを受け止めつつ、学部内の教員研修会や、学校内の教員研修会等において、上記「３つの力」を視点・視角として、「授業改善」をより深める作業を行っていった。それら研修会には出来るだけ参加し、側面からアドバイスを行った。

②教員研修の場において、毎時間の「授業」の大切さ、新学習指導要領における「キャリア教育」の観点等を解説する役目（講師）を務めた。

③「MyDo　カイゼン！」と名付けた不定期の「授業改善アドバイザー通信」を発行した。

④学校内の諸課題・諸問題について教員からさまざまな相談が持ち込まれ、それらへの対応を行った。その内容として、「授業」そのものに関する相談（＝教育方法やその技術）のほか子どもの個々の課題に関しての相談等が多かった。

授業参観数	130 回余	校内研修講師	３回
授業への入り込み支援	100 回余	アドバイザー通信	発行７回（不定期刊行）

第１段階として、「授業」における「学習環境」の改善から取り組んだ。

※本校着任時に、「学習環境」の改善が急務と感じた。

＜高等部コース授業＞
自転車整備
（工具類の整理・整頓）

（３）本事業３つの力の育成工夫について

①「自ら考え行動する力」

授業技術の観点より

ⅰ．子どもと視線の高さを合わせること

ⅱ．発問の仕方を工夫すること

ⅲ．子どもに自ら考える時間を与えること（＝「待ってやる」こと）

ⅳ．教材・教具の工夫とその与え方や活用の仕方を工夫すること等々をアドバイスした。

複数回アドバイスをした教員は、後になるほど、その技術が増し、教員の「指導力」に変容が見られたケースが極めて多かった。

＜小学部　図画工作カレンダー作り＞

②「変化に対応できる力」

子どもへ「選択させる」行為や、授業の展開部での「場面転換」のメリハリをつけることにより、子どもたちの変容が見られた。

＜高等部　生活デザインコース靴磨き作業＞

③「コミュニケーション力」

すべての教員の中で、コミュニケーション力に乏しい子どもへどのようにアプローチするか、大きな課題となっていた。子どもたちの「内発的動機付け」をしっかりと行うことにより、非コミュニケーション的手段を活発化させる手法も随所に見られた。コミュニケーションを活発に行う「場」の設定にも工夫が見られた。

＜美術作業の授業風景＞

（４）授業の内部的４要素（「内」）の改善・外部的４要素（「外」）の改善について

「授業」の中身を４つの視点　①「授業の目標像」②「授業内容」③「授業方法」＝「教育技術」④「授業評価」［＝「授業の内部的４要素」］でとらえ、それに関するアドバイスも「参観シート」へ記入し、授業主担者へフィードバックを行った。

上記の４つは、学校教育のさまざまなシーンで議論の対象となっているが、さらに遡って、授業の淵源にある基本的構成４要素、①「子ども」　②「教員」　③「教材・教具」　④「学習環境」［＝「授業の外部的４要素」］についても、改善業務の中核に据え、アドバイスを行った。(※アドバイザー通信「MyDo カイゼン！」では、授業の根幹にあたるこれら外部的４要素についての解説やそれらに関するアドバイスを発信した)

【授業の内部的４要素（「内」)】の改善

＜内①「授業の目標像」＞

今後は、この部分から「日々」の目標、１か月、学期毎の目標、年間目標、シラバスつくり、学部目標と学校目標との整合性の点検と進んでいくであろう。現時点では各教科・科目の「シラバス」づくりに勤しんでいる。

＜内②「教育の内容」＞

本校「キャリア教育マトリックス」の作成により、内容の配列や精選化が行われるであろう。

＜内③「授業の方法」＞

本校における「授業展開」は、正しくこの部分に特化したモノであった。教員の「教育方法の技術力」は、格段に進歩したと思われる。

＜内④「授業評価」＞

内①の「目標」とこの「評価」は、ワンセットであり、今後は、「キャリア教育マトリックス」の内容に合わせた、「評価観点」づくりやその「尺度」についても本校で議論をする必要がある。

【授業の外部的４要素（「外」)】の改善

＜外①「子ども」理解＞

授業「前」と授業「後」にどれだけ子どもが「変容」したかの検証が必要であり、その辺りの検証に充分時間が取れていなかった。

＜外②「教員」＞

子どもの「変容」と同様に、「教員」の変容も顕著であった。指導技術の向上へのモチベーションが全校的に高まりを見せていた。

＜外③「教材・教具」の工夫＞

教科書よりも、「手づくり」教材・教具が多かったが、教科書の使用を視野に入れた授業改善も必要かと思われた。「手づくり」教材・教具は、「素晴らしい出来のモノ」もあったが、

それより、時流に乗った ITC 機器の活用が特に多く、今後はそのコンテンツも豊富となり、さまざまな活用が見いだされるであろう。

＜高等部　数学　わりざん＞
プロジェクターを使用してホワイトボードに問題用紙を映し、回答は手書きで行いながら説明しているので理解しやすい。
＜外④「学習環境」の工夫＞
　子どもと教員の「距離」に始まり、視聴覚機器使用時の「照明の明暗」、子どもが集中しやすい「不必要な情報の遮断」、机の向きや、配列の仕方など、アドバイスにより随分改善された。※上記写真参照。

（５）まとめ
　冒頭に、「学校力」≒「授業力」と説いた。そもそも「授業」とは、子どもの「変容過程」そのものである。「授業」が変われば、「子ども」が変わり、「子ども」が変われば、「教員」が変わる。そして「学校」が変わるこの言説を信じれば、良き方向性を持った学校づくりが出来る。本事業は、「教育課程」の根幹をなす一つ一つの「授業」を、「３つの力」から丁寧に改善を行うことによって、「教育課程」の改善へと結びつける方向性を持ったものである。「３つの力」は、新学習指導要領で謳われるめざすべき新しい「子ども像」であり、これに沿う形での「教育課程」の改善に向けて、各教員が折に触れ気付き、今後もさまざまな工夫を凝らした授業が展開される。

３　成果と課題
(1) 研究の成果
①　授業研究を中心とした研究
　３年間の研究に取り組んだ成果としてまずあげられるのは授業研究の実績である。２年めにあたる平成 30 年度には教員全員 102 人が授業を行い、３年めの今年度は各学部で教員３人が繰り返し２回ずつ授業を行った。授業者は「授業シート」を作成し「３つの力」を育むためにどのような工夫や手だてがあるか示すようにし、参観者は「参観シート」でそのポイントに沿っての評価や感想を返すようにした。そのため、実質２年間で「授業シート」「参観シート」と参観者からの評価や感想などを含めた「授業シートまとめ表」を蓄積することができた。これらをさらに分析することで継続して授業の改善に取り組むことができるものと考えている。
　また、多くの回数の授業を実施したことで教員が互いに授業を見合うことがごく自然にできるようになり、これまではあまり見ることがなかった他学部の授業も見合うことができた。これにより他学部の教育課程や目標等について理解を深め、学部間の継続性や一貫性についても考える機会となった。

さらに、授業後の研究協議等により教員が意見交換することが増えたことも成果としてあげられる。これまでは児童生徒の様子や指導について学部を越えて十分に時間を確保して話し合うことが難しかったが今回改めてその大切さを認識し、今後はたとえ短い時間でも教員の話し合いを重視していきたいと考えている。

② キャリア教育の視点からの授業改善と教育課程の見直し

この研究をキャリア教育の視点から考えることにしたことで本校が開校以来、教育課程の柱としてきたキャリア教育、キャリア発達を促す指導について全校で見直すことができた。「ライフキャリア」「ワークキャリア」といったキャリア教育に関する基本的な事項について理解することをはじめ、新学習指導要領でも改めて示されている、小学部からの一貫したキャリア教育について考える機会となった。

本校では、キャリア教育を児童生徒がそれぞれの役割を果たし他者から認められたりほめられたりすることでして喜びを得て、次への意欲を高める活動としている。これは、あまり難しく考えるのではなく日々の授業をはじめ様々な指導場面に活動を位置づけるように配慮することが大切であり、このような経験を積み重ねることができるように教育課程を見直すことが今後の方向性であることをおさえた。

また、これらの活動は本校の特色の一つでもある交流及び共同学習について今後も充実を図るうえで積極的に取り入れていきたいものであることもおさえることができた。

キャリア教育に関しては、本校独自の「キャリア教育マトリックス」と「キャリア発達段階表」を現状では日常的に活用できていないという課題に対し、改善するための方法についても検討した。

③ 「３つの力」からのアプローチ

新学習指導要領にある主体的・対話的で深い学びについて本校では「自ら考え行動する力」「変化に対応できる力」「コミュニケーション力」の「３つの力」から検討した。

まず、めざす児童生徒の姿とそのための工夫や手だてについて、どの授業にも共通することがらを「３つの力」それぞれに整理し全体で共通理解した。それを踏まえて多くの実践を積み重ねた授業研究では「授業シート」「参観シート」それぞれに、その授業に位置づけた「３つの力」に関わる目標と指導内容、目標を達成するための工夫や手だてを「３つの力」のカテゴリー別に記入するようにした。そのうえで「授業シートまとめ表」を集約したところから各教科の特質や新学習指導要領にある教科の「見方・考え方」も考慮しながら学部間の関係や系統性がわかるように一覧表にまとめることができた。

④ 新学習指導要領の理解とシラバス作成

本研究に取り組むことになった文部科学省の事業名の副題にもあるように新学習指導要領に向けた実践研究を進めるうえでは学習指導要領の理解が不可欠になる。前述した教員のアンケート結果で全体の 60%が新学習指導要領の改訂点を意識したが十分ではない、あるいは意識できなかったとしていることから「理解が進んだ」とはいえないが新学習指導要領の特色といわれることがらのうち主体的・対話的で深い学びについては理解する機会を

多く設けることができた。

また、本研究と直接関連するわけではないが新学習指導要領にある育成すべき資質・能力の３つの柱を取り入れて大阪府教育庁が作成した様式を使用し、小学部と中学部では今年度中にシラバスを作成することになった。これについて本校では独自にキャリア教育マトリックスを取り入れ、高等部も加わってシラバスを作成した。

⑤　環境整備、教育の不易と流行

前述のように本校に配置された２名の授業改善アドバイザーより指導助言を受けることができたことも大きな成果としてあげられる。

２名のうち一人は企業で長年にわたり勤務実績を持つ方で主に学習環境を整備する観点から指導を受けた。例えば「５S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)」場合によってはまず「２S（整理・整頓)」を提唱し、児童生徒にわかりやすく動きやすい学習環境づくりについて教員とは異なる視点から多くの助言をいただいた。

もう一人は多くの授業を参観したうえで教育の専門的な観点から指導を受けた。例えば「授業の外部的４要素と内部的４要素」「授業」とは子どもの「変容過程」そのものである、などは時代が変わっても変わることのない不易の要素として学ぶことができた。

⑥　中間報告会の開催

本研究の成果を報告する機会として中間点である２年めの平成３０年度末に全国規模で中間報告会を行い３年めの今年度の最終報告会は校内で実施した。中間報告会は北海道から九州・鹿児島から 100 名以上の参加をいただき盛会のうちに行うことができた。開校４年めの時期に大規模な研究発表会を実施するには授業公開や全体会での研究報告、分科会運営などの諸々の準備から当日の進行や事後処理まで多岐にわたる業務があり、全教職員で分担したものの負担感は否めなかった。しかしながら一丸となって大きなイベントをやり遂げたことは全体の自信となった。

また、この報告会に向けて「おもてなしプロジェクト」と称し学部別に児童生徒が全国からの来校者を歓迎し気持ちよく過ごしてもらおうと準備する活動を定期的に組むことにした。小学部が「ウエルカムボード」を作り中学部が学校近隣の飲食店を調べ「グルメマップ」にまとめ高等部の生活デザインコースが当日朝、先着順で革靴を預かり昼までに磨いて直接返却する活動を行った。報告会当日の午後「おもてなしプロジェクト」について発表する時間を設け、多くの来校者の前で児童生徒の誇らしげな表情を見て教員一同胸を熱くした。

さらに、報告会当日は教員有志がポスター発表を行った。授業や教材など日ごろ研究していることを発表したもののほか趣味や余暇活動について発表したものもあり、教員が報告会に臨む目的意識を高める取組みになった。

(2) 今後の課題

① 授業研究の継続

前述のように実質２年間で「授業シート」「参観シート」と参観者からの評価や感想などを含めた「授業シートまとめ表」を蓄積することができた。今後はこれらをさらに分析し授業の改善につながる研究の成果を全員のものにしたいと考えている。

また、今回他学部の教育課程や目標等について理解を深め、学部間の継続性や一貫性についても考える機会となった成果を今後も大切にし、互いに他学部の実践に関心を持ち理解し合いながら保護者や地域にもわかりやすい教育活動を全校で展開していきたい。

さらに、教員が意見交換することが増えた成果も継続し教職員の話し合いを重視していくようにしたい。

② 小学部から一貫したキャリア教育

本校が開校当初からキャリア教育を教育活動の中心としてきている実績を鑑み独自の「キャリア教育マトリックス」と「キャリア発達段階表」を日常的に活用できるよう来年度から計画的に研究する必要がある。

まず、キャリア教育、キャリア発達を促す指導について全校で理解することから始め、小学部から一貫したキャリア教育について児童生徒がそれぞれの役割を果たし他者から認められたりほめられたりすることで喜びを得て、次への意欲を高める活動をどのように位置づけるか考えたい。

また、これらの活動は本校の特色の一つでもある交流及び共同学習をさらに充実させるうえで積極的に取り入れていきたいものとして交流相手校とともに活動の工夫に取り組んでいきたい。

③ 主体的・対話的で深い学びの追究

主体的・対話的で深い学びについては、今回の研究で作成した一覧表を手がかりにめざす児童生徒の姿とそのための工夫や手だてについて、それぞれの授業の主体的・対話的で深い学びに関わる目標と指導内容、目標を達成するための工夫や手だてを明らかにする方法で研究していきたいと考える。本校が「３つの力」として明らかにした工夫や手だてに有効なものが多いととらえており、今回の成果を整理し全体で共有するところから始めたいと考えている。

④ 新学習指導要領の実施とさらなる理解

前述のように、本研究では新学習指導要領にある主体的・対話的で深い学びについては理解する機会を多く設けたほか、シラバス作成を通じて育成すべき資質・能力の３つの柱についても考えることができた。今後は、新学習指導要領の特色といわれる開かれた教育課程やカリキュラムマネジメントの概念等について学習指導要領を実施しながら理解を深めることができるよう全体で留意しながら日々の実践に取り組む必要がある。

⑤　環境整備、教育の基本

本校の授業改善アドバイザーの指導助言の成果とした児童生徒にわかりやすく動きやすい学習環境づくりや授業の分析方法等については今後も全体で研修に位置づけ教育活動の基本として継承していきたい。

⑥　研究体制の整備

本研究に３年間取り組み、教員全員 102 人が授業研究を行い、中間報告会では全国から多くの来校者を得るという大規模な事業を実施してきた。それにより多くの成果を得たことは今後本校の宝物として様々な形で教育活動に生かすことができるものと確信している。

しかしながら、前述した教員アンケートの自由記述でも教員の負担感や多忙感が表面化し、学校の課題となっているのは事実である。

次年度からの５ヵ年は、本校の特色を開花させる時期ではないかと考えている。本研究で明らかになった課題の解決に向け、引き続き、授業改善研究を進め、体制整備を図っていきたい。

授業シート（　　年度）

授業者（　　）　S・T　（　　）			
実施日時・場所	月　日（　）　限　：　～　：　場所(　　)		
対象児童生徒	学部・　年・学習班：　・　人		
教科・領域名		単元名	
単元の目標			
本時の目標			

本時の展開

	活動内容	指導内容・工夫　①「自ら考え行動する力」②「変化に対応できる力」③「コミュニケーション力」
導入		
展開		
まとめ		

＊授業後の振り返り（○効果が見られた点、▲改めたい点）

＊参観者や授業改善アドバイザーからのアドバイス

資料 - 1

参観シート（　　年度）

授業者名	（　　）	S・T（サブ・ティーチャー）（　　）	
実施日時・場所	月　日（　）限　：　～　：　場所（　　）		
対象児童生徒	（　　）学部　年　学習班（　　）（　　）名		
教科・領域名		単元名	
参観者名			

①「自ら考え行動する力」を育む工夫	
②「変化に対応できる力」を育む工夫	
③「コミュニケーション力」を育む工夫	
その他	

資料 - 2

「教科・領域」（授業名）学習指導案（　　度授業シート）

指導者　　□□　□□

１．日時　　平成○年○月□日（　）　第○時限（　：　～　：　）
２．場所　　第○学年□組　教室
３．学部・学年・組　○学部　第○学年（□組）　○名
４．単元（題材）名　　「○○……○○」
５．単元（題材）目標

６．児童生徒観

７．教材観

８．指導観

９．単元（題材）の資質・能力につなげる評価規準

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
評価規準			

10．単元（題材）で考えられる３つの力を伸ばす具体的な工夫

３つの力	具体的な工夫
①　自ら考え行動する力	
②　変化に対応できる力	
③　コミュニケーション力	

資料 - 3

11. 単元の指導と評価の計画（全〇時間、本時は第〇時）

次	時	学習内容
第一次		
第二次		
第三次		

12. 本時の展開

（1） 本時の目標

（2） 本時の学習過程 （①「自ら考え行動する力」②「変化に対応できる力」③「コミュニケーション力」）

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等
〇分 導入		
〇分 展開		手だて等が３つの力を伸ばす工夫のどれに当たるかを記入

資料 - 4

○分 まとめ		

（３）教室配置等（正面を上にして、児童生徒や教員の位置、準備した教材・教具の位置、配置等を示す。）

13. 授業後の振り返り

14. 参観者からのアドバイス

15. 研修の記録

参観シート（　　度参観シート）

授業者名	（　　）　S・T（サブ・ティーチャー）　（　　）		
実施日時・場所	月　日（　）　限　：　～　：　場所（　　）		
対象児童生徒	（　　）学部　年　学習班　（　　）　（　　）名		
教科・領域名		単元名	
参観者名			

指導案に書かれている課題とアンダーラインの改善点を踏まえて記入をしてください

①「自ら考え行動する力」を育む工夫	
②「変化に対応できる力」を育む工夫	
③「コミュニケーション力」を育む工夫	

単元（題材）の資質・能力につなげる評価規準について

知識・技能	（児童生徒の実態に対して、書かれている評価規準について感じたことを記入）
思考力・判断力・表現力等	
学びに向かう力・人間性等	

その他何か気づいたことがあれば記入してください

資料 - 6

＜新学習指導要領実践研究事業にかかるアンケート＞

平成 29 年度から 3 年間取組んできた「授業改善」について、お尋ねします。

Q1. 所属　小学・中学・高等　部　　年

Q2. 名前　　（無記名可）

Q3. 教職経験年数　　年

Q4. 特別支援教育の教職経験年数　　年

Q5. 本校在籍年数　　年

Q6. 子どもたちの「自ら考え行動する力」が高まったと思いますか？

① そう思う　② 少し思う　③ あまり思わない　④ 思わない

Q7. 子どもたちの「変化に対応できる力」が高まったと思いますか？

① そう思う　② 少し思う　③ あまり思わない　④ 思わない

Q8. 子どもたちの「コミュニケーション力」が高まったと思いますか？

① そう思う　② 少し思う　③ あまり思わない　④ 思わない

Q.9 「3 つの力」について、考えることがあればお書きください。

Q10. 「授業改善」に伴って、キャリア発達を育む「単元」『学習内容』に取組みましたか？　「何をまなぶか」

① 取組んだ　② 取組んだが十分ではない　③ 取組めなかった

Q11. 「授業改善」に伴って、授業の「目標＝ねらい」を意識しましたか？　「何ができるようになるか」

① 意識した　② 意識したが十分ではない　③ 意識しなかった

Q12. 「授業改善」に伴って、教材・教具の工夫に取組みましたか？　「どのようにまなぶか」

① 取組んだ　② 取組んだが十分ではない　③ 取組めなかった

Q13. 「授業改善」に伴って、学習環境（教室環境）の工夫に取組みましたか？

① 取組んだ　② 取組んだが十分ではない　③ 取組めなかった

Q14. 「授業改善」に伴って、「目標＝ねらい」を達成できたかどうか「評価」を行いましたか？　「何が身についたか」

① 行った　② 行ったが十分ではない　③ 行えなかった

Q15. 「授業改善」に伴って、子どもたちのめざす姿の「成長」を感じましたか？

① 感じた　② 少し感じた　③ あまり感じなかった　④ 感じなかった

Q16. 「授業改善」に伴って、「授業力」は高まりましたか？

① 高まった　② 少し高まった　③ あまり高まらなかった　④ 高まらなかった

Q17.「授業力」向上について、考えることがあればお書きください。

Q18. 教育課程の作成にあたって、キャリア教育の視点を取り入れた教育課程の改善を意識しましたか？

① 意識した　② 意識したが十分ではない　③ 意識できなかった

Q19. 教育課程の作成にあたって、新学習指導要領の改訂点を意識しましたか？

① 意識した　② 意識したが十分ではない　③ 意識できなかった

Q20.3 年間にわたる今回の「授業改善」の取組みを、今後どのように継続・発展していったらよいと思いますか。

お考えをお書きください。

指導と評価の年間計画（シラバス）東淀川　様式１

東淀川支援キャリア教育マトリックス（育てる力）小学部

◎は主たる観点、○は関連する観点

学部		授業名		週当たりの授業時数		授業担当者	
学年		教科等		主な段階		採択教科書	

年間目標

ア　知識及び技能	イ　思考力，判断力，表現力等	ウ　学びに向かう力，人間性等

年間計画

学期	単元（題材）	主な学習活動	単元（題材）の評価規準	人間関係形成能力				情報活用能力				将来設計能力			意思決定能力		
				人とのかかわり	集団参加	意思表現	あいさつ・清潔・身だしなみ	さまざまな情報への関心	社会資源の活用とマナー	金銭の扱い	働くよろこび	習慣形成	夢や希望	やりがい	目標設定	自己選択	振り返り
1			ア： イ： ウ：														
			ア： イ： ウ：														
			ア： イ： ウ：														
2			ア： イ： ウ：														
			ア： イ： ウ：														
			ア： イ： ウ：														
3			ア： イ： ウ：														
			ア： イ： ウ：														

指導と評価の年間計画（シラバス）東淀川　様式1

東淀川支援キャリア教育マトリックス（育てる力）中学部

◎は主たる観点、〇は関連する観点

学部		授業名		週当たりの授業時数		授業担当者	
学年		教科等		主な段階		採択教科書	

年間目標

ア　知識及び技能	イ　思考力，判断力，表現力等	ウ　学びに向かう力，人間性等

年間計画

学期	単元（題材）	主な学習活動	単元（題材）の評価規準	人間関係形成能力				情報活用能力				将来設計能力				意思決定能力			
				自己理解・他者理解	協力・共同	意思表現	場に応じた言動	情報収集と活用	社会資源の活用とマナー	金銭の使い方と管理	役割の理解と働くことの意義	習慣形成	夢や希望	生きがい・やりがい	進路計画	課題解決や目標達成	自己選択（決定・責任）	肯定的な自己評価	自己調整・コントロール
1			ア: イ: ウ:																
			ア: イ: ウ:																
			ア: イ: ウ:																
2			ア: イ: ウ:																
			ア: イ: ウ:																
			ア: イ: ウ:																
3			ア: イ: ウ:																
			ア: イ: ウ:																

指導と評価の年間計画（シラバス）東淀川　様式1

東淀川支援キャリア教育マトリックス（育てる力）高等部

◎は主たる観点、〇は関連する観点

学部		授業名		週当たりの授業時数		授業担当者	
学年		教科等		主な段階		採択教科書	

年間目標

ア　知識及び技能	イ　思考力，判断力，表現力等	ウ　学びに向かう力，人間性等

年間計画

学期	単元（題材）	主な学習活動	単元（題材）の評価規準	人間関係形成能力				情報活用能力				将来設計能力				意思決定能力			
				自己理解・他者理解	協力・共同	意思表現	場に応じた言動	情報収集と活用	法や制度の活用	消費生活の理解と計画的な消費	役割の理解と働くことの意義	習慣形成	夢や希望	生きがい・やりがい	進路計画	課題解決や目標達成	自己選択（決定・責任）	肯定的な自己評価	自己調整・コントロール
1			ア: イ: ウ:																
			ア: イ: ウ:																
			ア: イ: ウ:																
2			ア: イ: ウ:																
			ア: イ: ウ:																
			ア: イ: ウ:																
3			ア: イ: ウ:																
			ア: イ: ウ:																

大阪府立東淀川支援学校　キャリア教育マトリックス（育てる力）

		小学部	中学部	高等部
キャリア発達の段階		職業及び生活にかかわる基礎的な能力獲得の時期	職業及び生活にかかわる基礎的な能力を土台に、それらを統合して働くことに応用する能力獲得の時期	職業及び卒業後の家庭生活に必要な能力を実際に働く生活を想定して具体的に適用するための能力獲得の時期
		小学部段階で育てたい力 【気づく】	中学部段階で育てたい力 【伸ばす】	高等部段階で育てたい力 【活かす】
人間関係の形成 コミュニケーション	幼児期からの遊びを中心とした発達全体の促進	人とのかかわり	自己理解・他者理解	
		自分や友だちの良い所に気づく	・自分と相手の違いを理解する ・「わかった」「できた」体験のなかで肯定的な自己理解をする	・社会生活における自己理解する・他者の考え方や個性の尊重をする
		集団参加	協力・共同	
		友だちに関心をもち仲良く関わる	・役割を理解し協力する経験を積む ・異年齢の集団で活動する	・集団（クラス・グループ・チーム）の一員としての役割を最後までやりとおす
		意思表現	意思表現	
		自分の気持ちや考えを表現する	・集団の中で必要な思いや意見を表現する	・必要な支援を適切に求めたり、相談できる表現力つける
		あいさつ・せいけつ・身だしなみ	場に応じた言動	
		あいさつや返事をする 手洗い・うがいの習慣を身につける	・場面や状況に応じた言葉遣いや振る舞いを理解し、身につける ・清潔や身だしなみについて理解する	・時間、場所、場合に応じた言動を身につける
情報活用能力		情報への関心	情報収集と活用	
		スケジュールを知り見通しをもって活動する 分からないことを自分から聞く	・活動や行事での行程を理解し、見通しをもって取り組む ・職業体験や見学を通して、働くことへの関心をもつ ・進路やさまざまな情報を収集する	・社会生活に必要な事柄を情報収集し活用する
		社会資源の活用とマナー		法や制度の活用
		身近なきまりやルールを知る	・身近なきまりやルールを守って行動する ・社会の出来事に興味をもつ	・社会の様々なルールや制度、サービスにを理解し実際に利用する
		金銭の扱い	金銭の使い方と管理	消費生活の理解と計画的な消費
		さまざまな体験を通して金銭の大切さに気づく	・お金を使って買い物することに慣れる ・金銭の大切さや管理の方法を理解する	・労働と報酬の関係を理解する・計画的な消費と金銭管理を理解する
		はたらくことのたいせつさ（よろこび）	役割の理解と働くことの意義	
		自分や友だちのがんばりを認め合う	・係活動やお手伝いの役割を果たし、認められることで役に立つ喜びを感じる ・学校生活、家庭生活において、自分の果たすべき役割を理解する	・職業及び働くことの意義や喜びを知る・社会生活において果たすべき役割を実行する
将来設計能力		生活リズム・習慣	習慣形成	
		身の回りのことを自分でできるようになる 決められた時間やきまりを守って行動する	・将来の職業生活に向けた基本的な習慣の基礎を身につける	・職業生活に必要な習慣形成を身につける
		【ゆめ】や【きぼう】への関心	夢や希望	
		好きなこと・やりたいことを見つける いろいろな職業に関心をもつ	・将来への夢や憧れの職業をもつ ・好きな活動への意欲を学習活動へつなげる	・働く生活を中心とした新しい生活への希望をもち、体験をする
		意欲・やりがい	生きがい・やりがい	
		さまざまな活動に意欲的に取り組む 学級や学部の一員として自分の役割を果たす	・物事をやり遂げようとする気持ちをもつ	・就業の意義の実感と自身のライフスタイルに基づいた余暇の活動を見つける
			進路計画	
			・進路決定に向けて、計画を立てる	・自分に合ったライフスタイルに結びつく進路計画を立てる
意思決定能力		目標設定	課題解決や目標達成	
		教師と一緒に目標を決め、その目標を意識して活動する	・自分で目標を決め、達成に向けて進んで取り組む	・将来設計や進路希望の実現を目指し、目標の設定と課題の克服をする
		自己選択	自己選択（決定・責任）	
		自分のやりたいことや好きなものを選ぶ	・自分の個性や興味、関心を理解し、よりよい選択をする ・見学や体験を基に、進路先を主体的に選択する	・企業や校内における実習などの経験に基づき進路選択と決定をする
		振り返り	肯定的な自己評価	
		教師と一緒にがんばったこと、楽しかったことなど、活動の振り返りをする	・活動後に振り返り、肯定的に評価する	・企業や校内における実習などにおいて行った活動の自己評価をする
			自己調整・コントロール	
			・課題解決のための方法を考えたり、様々な選択肢があることを知ったりする	・課題解決のための選択肢があることを理解し活用する

平成30年度　キャリア発達段階表【小学部】

	小学部段階において育てたい力		教科名	活動内容
人間関係形成能力	人とのかかわり	・自分の良いところを見つける。 ・自分と相手の違いを知る。 ・友だちの良いところを見つける。 ・自分らしさを発揮しながら、友だちと仲良く関わる。	日常生活	朝の会、帰りの会
			各教科	発表、作品紹介
			生活単元学習	ふれあい遊び、集団遊び
	集団参加	・集団活動に参加する。 ・友だちと協力して、学習や活動に取り組む。 ・他学年や他学部の友だちに関心をもち交流する。	日常生活	集団参加、協力
			各教科	グループ学習、グループ運動
			生活単元学習	学級活動、学部集会、全校集会
			特別活動	クラブ活動、行事、交流会
	意思表現	・自分の好きなこと、嫌いなことを表現する。 ・自分の気持ちや考えを表現し、自ら伝える。 ・周りの様子を見ながら、自分の気持ちをコントロールできるようになる。	日常生活	日常生活全般
			自立活動	コミュニケーションの学習
			各教科	ことばの学習、表現活動、発表
			生活単元学習	劇遊び
	あいさつ 清潔 身だしなみ	・あいさつや返事をする。 ・身の回りのことを自分でできるようになる。 ・手洗いやうがい、みだしなみの習慣をつける。 ・友だちと協力して身の回りを清潔にする。	日常生活	日常生活全般
			各教科	始まりと終わりのあいさつ
情報活用能力	さまざまな 情報への関心	・毎日のスケジュールや行事の内容を知り、見通しをもって活動する。 ・学習や体験を通して、興味・関心を広げる。 ・分からないことを自分で聞いたり、調べようとする。	日常生活	活動全般
			自立活動	
			各教科	
			生活単元学習	
	社会資源の 活用とマナー	・日常生活に必要な簡単なルールを知る。 ・公共の場できまりを守って活動する。 ・地域社会資源を活用して、生活経験を増やす。	日常生活	遊び
			生活単元学習	校外学習
			特別活動	遠足、社会体験学習、宿泊行事
	金銭の扱い	・さまざまな活動を通して、金銭の大切さを知る。	日常生活	買い物学習
			ことば・かず	
			生活単元学習	
			特別活動	乗り物学習
	働くよろこび	・当番や係活動、委員会活動など、さまざまな役割があることを知り、経験する。 ・自分や友だちのがんばりを認め合う。 ・いろいろな職業があることを知る。	日常生活	当番、係活動
			各教科	インタビュー、発表、調べ学習
			特別活動	委員会活動、交流会、校外学習
将来設計能力	習慣形成	・自分でできることを増やしていきながら、日常生活に必要な習慣を身につける。 ・活動への準備や後片付けをする。 ・決められた時間やきまりを守って行動する。	日常生活	当番や給食の係活動
			各教科	学習の始まりと終わり
			特別活動	委員会活動
	夢や希望	・自分の好きなこと、やりたいことを見つけていく。 ・身近な人との出会いや経験を通して、いろいろな職業に関心をもつ。	日常生活	好きな活動や遊びを見つける
			生活単元学習	全校集会、夏まつり
			特別活動	委員会活動、交流会、校外学習
	やりがい	・達成感を味わう経験を重ねていき、さまざまな活動に意欲的に取り組む姿勢を身につける。 ・自分や友だちのがんばりを認め合いながら、クラスや小学部の一員として自分の役割を果たす。	日常生活	活動全般
			自立活動	
			各教科	
			特別活動	行事への取り組み
意思決定能力	目標設定	・目標を意識して活動する。 ・見通しをもって自分の仕事に取り組み、最後までやり通そうとする。 ・自分のことは自分で行う。	日常生活	登下校の準備、給食準備・片付け
			自立活動	授業の始まりに目標を意識
			各教科	
	自己選択	・自分のやりたいことや好きなものを選ぶことができる。	日常生活	遊びや活動の選択
			各教科	学習場面での選択
			生活単元学習	
	振り返り	・活動の振り返りをする。	日常生活	帰りの会
			各教科	授業終わりでの活動の振り返り
			特別活動	遠足、社会体験学習、宿泊行事 学習発表会の振り返り

平成30年度　キャリア発達段階表【中学部】

	中学部段階において育てたい力		教科名	活動内容
人間関係形成能力	人とのかかわり 自己理解・他者理解	・自分と相手の違いを理解する。 ・「わかった」「できた」体験のなかで肯定的な自己理解をする。	日常生活の指導 美術 保健体育 総合（交流活動） 総合	学級づくり 作品の紹介・鑑賞 集団・チームゲーム、チームスポーツ 地域の中学生と交流する ピアサポート、性教育
	集団参加 協力・共同	・役割を理解し協力する経験を積む。 ・異年齢の集団で活動する。	音楽 美術 国・英・数・理・社 保健体育 総合（交流活動） 特別活動、生活	合奏・準備や片付け 共同作品の制作・準備・片付け グループでの学習 準備・片付け、集団競技、球技 地域の中学生と協力する 運動会、東淀川まつり、校外学習
	意思表現	・集団の中で必要な思いや意見を表現する。	国・英 美術、作業学習 保健体育 日常生活の指導	絵日記や作文の発表 作品発表、鑑賞の感想発表、報告 集団活動、ゲーム 感想や意見の発表、出来事の報告
	挨拶・清潔・身だしなみ 場に応じた言動	・自分からあいさつする。 ・場面や状況に応じた言葉遣いや振る舞いを理解し、身につける。 ・清潔や身だしなみについて理解する。	各教科等 作業学習 保健体育 日常生活の指導	あいさつ、出欠確認 清掃の仕方 集団行動、清潔や健康（保健分野） 給食時の衛生管理、更衣、清掃
情報活用能力	様々な情報への関心 情報収集と活用	・活動や行事での行程を理解し、見通しをもって取り組む。 ・職業体験や見学を通して、働くことへの関心をもつ。 ・進路やさまざまな情報を収集する。	総合、特別活動 美術、作業学習 職場体験学習	行事の事前学習、準備 作品づくりのための情報収集 校内実習、施設見学、職場体験
	社会資源の活用とマナー	・身近なきまりやルールを守って行動する。 ・社会の出来事に興味をもつ。	日常生活の指導 特別活動 保健体育 理・社	ルールを守って行動する 公共交通機関の利用、集団生活のルール ルールを守ってゲームを楽しむ
	金銭の扱い 金銭の使い方と管理	・お金を使って買い物することに慣れる。 ・金銭の大切さや管理の方法を理解する。	数 総合 特別活動	お金の種類と計算、買い物学習 調理実習の材料の買い物 修学旅行等の買い物
	はたらくよろこび 役割の理解と働くことの意義	・係活動やお手伝いの役割を果たし、認められることで役に立つ喜びを感じる。 ・学校生活、家庭生活において、自分の果たすべき役割を理解する。	音楽 各教科等 日常生活の指導 特別活動	合奏における自分の担当を理解する 日直の係、準備・片付け 給食準備・片付け等 係活動、委員会活動
将来設計能力	習慣形成	・将来の職業生活に向けた基本的な習慣の基礎を身につける。	日常生活の指導 保健体育、生活 各教科等 総合	給食・清掃・更衣の習慣 健康管理・生活習慣、朝のランニング 開始・終了等の時間管理、整理整頓 調理実習
	夢や希望	・将来への夢や憧れの職業をもつ。 ・好きな活動への意欲を学習活動へつなげる。	作業学習 総合 特別活動 職場体験学習	作業実習 進路学習、職業講話 クラブ活動、社会体験学習 校内実習、施設見学、職場体験
	生きがい・やりがい 進路計画	・物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。 ・進路決定に向けて、計画を立てる。	音楽、保健体育 美術 作品展 総合	楽しさを知る、技術の向上 ものづくりで自己表現する楽しさを知る 作品の鑑賞 進路学習の発表を聞く
意思決定能力	目標設定 課題解決	・自分で目標を決め、達成に向けて進んで取り組む。	作業学習 音楽 保健体育 自立活動	作業実習（完成への見通しをもつ） 合奏 目標設定、技術の向上（陸上・水泳） 個別の課題学習
	自己選択（決定・責任）	・自分の個性や興味、関心を理解し、よりよい選択をする。 ・見学や体験を基に、進路先を主体的に選択する。	作業学習 日常生活の指導 特別活動 総合	作業実習（色やデザインの選択） 好きな遊びや活動の選択 泊行事等の係決め 進路学習、進路選択
	振り返り 肯定的な自己評価	・活動後に振り返り、肯定的に評価する。 ・次の活動に生かそうとする。	音楽 日常生活の指導、生活 総合、生活	合奏・太鼓・ダンスの振り返り 行事や毎日の振り返り アルバム制作、卒業学年の集い
	自己調整	・課題解決のための方法を考えたり、様々な選択肢があることを知ったりする。	日常生活の指導 総合	トラブルへの対処方法 ピアサポート、性教育

平成30年度　キャリア発達段階表【高等部】

	高等部段階において育てたい力		教科名	活動内容
人間関係形成能力	人とのかかわり 自己理解・他者理解	・自分の長所や短所がわかる。 ・自分と相手の違いを知る。 ・相手のことを考えて行動しようとする。 ・相手の立場に立って物事を考えられるようになる。 ・自分や友達の良いところを見つけ認める。 ・自分や友達の長所や短所に気づき、集団の中で自分らしさを発揮する。	HR	自分のことを知る
			生活	人との付き合い方
			総合的な学習	性教育
			作業学習・保健体育・コース授業	共同で製作する・球技などチームで協力
	集団参加 協力・共同	・身近な人の支援を受けながら、学習や活動に取り組む。 ・友達と協力して、学習や活動に意欲的に取り組む。 ・いつでもどこでも誰とでも色々な活動が行える。 ・集団の中で、自分の役割と責任を理解し、互いに支え合いながら仕事をする。	運動会	役割の理解と協力
			総合的な学習	協力・集団参加
			HR	学級活動での係や役割
			作業学習・保健体育	共同で製作する・球技などチームで協力
	意思表現	・自分の意思や気持ちを相手に適切な方法で伝える。 ・困ったときに自ら支援を求めたり、相談したりできるようになる。	作業学習	作業中の報告、連絡、相談
			HR・国語	学級活動・自己紹介やスピーチ練習
	挨拶・清潔・身だしなみ 場に応じた言動	・あいさつや返事をする。 ・TPOに応じた言葉遣いやふるまいをする。 ・清潔や身だしなみについて理解し、実行する。	自活	身辺自立の確立
			作業・コース授業	作業態度の育成
			保健体育	清潔や健康に気をつける
情報活用能力	様々な情報への関心 情報収集と活用	・職場見学や実習を通していろいろな職業や生き方があることを知る。 ・学んだり体験したことと、自分の生活や職業との関連を多面的に情報を集めて考える。 ・現場実習を通して働く場と学校の違いを知る。	施設見学	働いている人や会社の様子を見学する
			校内現場実習	実際に働いてみる
	社会資源の活用とマナー 法や制度の活用	・図書やインターネットを積極的に活用し自分に必要な情報を収集する。 ・社会の制度や福祉サービスの活用の仕方や手続きを知る。 ・働くことの意義や働くうえで必要なルール、マナーを理解する。	校外学習	地域施設、交通機関の利用方法
			生活（社会）	きまりや制度を知る。
			生活（情報）	パソコンの利用、電話の使い方
	金銭の扱い 消費生活の理解	・労働と報酬の関係を知る。 ・計画的な消費、金銭管理についてわかる。	生活	家計簿のつけ方
			数学	お金の種類と計算
	働くよろこび 役割の理解と働くことの意義	・いろいろな職業や生き方があることを知る。 ・見学や実習を通して、働くことに興味関心を持つ。 ・仕事や働くことに積極的に取り組み働くことの楽しさを知る。 ・見学や実習を通して、働くことの意義や働くうえで必要なことがわかる。	施設見学	どのような仕事があるかを知る
			HR	清掃活動　係活動
			作業学習・コース授業	ものづくりの楽しさを知る
			校内現場実習	実習を体験し働くことの意義を知る
将来設計能力	習慣形成	・社会生活、職業生活に必要な習慣を理解し身につける。	家庭	家庭生活（買い物、調理、服装、身だしなみ）
			HR	朝の会、終わりの会、更衣
			保健体育	健康管理
	夢や希望	・将来やりたいこと、知りたいことを見つける。 ・卒業後の社会人としての生活に関心を持つ。 ・働く生活を中心とした新しい生活に期待を持ち、そのための準備をする。	コース授業	将来やりたいことを考える
			現場実習	社会人になる体験をする
	やりがい	・自分の意思で好きなことをする時間を持つことにより、仕事や生活に張りができることを知る。 ・体験を通して、職業の意義を実感する。 ・達成感、充実感を持つ経験を重ね、働くことやくらしの中の喜びに期待を持つ。	保健体育	運動する楽しさを知る
			音楽	歌ったり踊ったりする楽しさを知る
			美術	ものづくりで自己表現する楽しさを知る
			作業	ものづくりの楽しさを知る
			コース授業	余暇の過ごし方を学ぶ
	役割把握	・社会生活にはいろいろな役割があることがわかり、その役割に責任を持つ。 ・さまざまな職業生活の社会的役割を理解し、自己の生き方を考える。 ・学校、社会において自分の果たす役割を自覚し、積極的に役割を果たす。	全校集会	委員活動
			HR	清掃活動　係活動
			家庭	家庭の仕事
	進路計画	・将来の目標実現に向けて方法や進め方、時期を考え、計画を立て実行する。	総合的な学習	現場実習事前指導・事後指導
			コース授業	将来設計を考える
意思決定能力	目標設定	・自分の課題を理解し、その解決に向けて取り組もうとする。・自らの判断で目標を決める。	作業・コース授業	その日の作業の目標をたてる
			校内実習	校内実習の目標をたてる
	自己選択	・自分のやりたい事や好きなものを選ぶことができる。 ・将来の夢や希望を持ち、実現にむけて努力しようとする。 ・卒業後の進路先を選ぶことができる。 ・自己の個性や興味、関心に基づいて、よりよい選択をしようとする。	宿泊学習	係りをきめる
			修学旅行	部分的な計画をたてる
			作業学習・美術	色やデザインを選んだり考える
			現場実習	実習経験に基づく進路の自己選択
	振り返り	・将来の夢や希望を持ち、実現に向けて自己の課題を克服する努力をしようとする。 ・自己の課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする。	作業・コース授業	作業ノートの記入
			総合的な学習	校内実習、現場実習、の反省
			現場実習	実習での活動の自己評価
	自己調整	・よりよい社会生活、進路決定をめざして自ら課題を見出していくことの大切さを理解する。 ・課題解決のために様々な選択肢があることを理解し、活用する。	HR	進路について考える
			進路相談	個別に進路について考える

大阪府立東淀川支援学校

「授業シートまとめ表」

教科　コース等	学部	自ら考え行動する力・・①				変化に対応できる力・・②				コミュニケーション力・・③			
		興味・関心を持つ・・ア	積極的に動く、役割を担う・・イ	見通しを持って粘り強く・・ウ	学習をふり返ってできたことを確かめる・・エ	知識を経験と関連づける・・ア	情報を整理して考えをまとめる・・イ	問題を見つけ解決方法を考える・・ウ	新しい見方・考え方に気づく・・エ	協力、協同学習をする・・ア	児童・生徒同士、教職員や地域の人とのかかわりや対話を楽しむ・・イ	協同学習や対話から見方・考え方を深める・・ウ	歴史や先例、先輩や周囲の大人の態度等を手がかりに考える（あこがれを持って模倣する）・・エ
図書、国語・数学	小学部	知っている動物や身近なものが題材になっている絵本を選ぶ。 動画や効果音、大型絵本などを利用して集中する。 1時間の授業で絵本を読む、パネルシアターをする、劇遊びをする、それぞれの時間がわかりやすく配置され活動への期待感を持つ。		知っている動物や身近なものが題材になっている絵本を選ぶ。 動画や効果音、大型絵本などを利用して集中する。 1時間の授業で絵本を読む、パネルシアターをする、劇遊びをする、それぞれの時間がわかりやすく配置され活動への期待感を持つ。	はなまるカードをもらい、できた喜びを感じる。	「ゆうくんのおかいもの」の絵本の読み聞かせをした後、買い物学習を行う。	授業の終わりのふり返りの時間に授業中に読んだ絵本を並べ、好きな絵本を選ぶ。	段ボールで影絵を作り「何かな？」と想像しながら学習する。		絵本の中で繰り返されるせりふを口にして動作をしながら読み聞かせを聞き、繰り返しの言葉のリズムを体感する。 声や言葉が出にくい児童が楽器で効果音などを表現できるようにする。	絵本の中で繰り返されるせりふを口にして動作をしながら読み聞かせを聞き、繰り返しの言葉のリズムを体感する。 声や言葉が出にくい児童が楽器で効果音などを表現できるようにする。	友だちが絵本の人物や物に触れる様子を見て同じように触れてみようとする。	
	中学部	相手の話に興味を持ち、聞き取った内容を短く端的な言葉でメモに記す（C班）。	相手の話に興味を持ち、聞き取った内容を短く端的な言葉でメモに記す（C班）。 カードを使った買い物学習で買いたい商品を選び買い物リストに商品名と値段を記入し、合計金額を計算する（B班）。	紙コップロケットの作り方の説明文を読み、工程ごと順番に内容を確かめながら完成を楽しみにして実際に作ってみる（B班）。 ひらがな五十音カードで神経衰弱をする際、前の順番の生徒がめくったカードのひらがなとカードの位置を覚え、より多くのカードを取ろうとする（B班）。			夏休みのできごとを思い出すことにつながる画像を見て夏休みの体験について俳句を作る（B班）。	聞き取った内容をメモにまとめる学習で自分が聞き取れなかったことを友だちに尋ねる（C班）。 買い物学習の支払いで必要な金額ちょうどに支払うことをめざし、間違ったときには教師と一緒に考える（B班）。	おすすめの本を発表し合い、友だちから聞いた本を含めて読みたい本を選ぶ（B班）。	体の部位の名称を互いに触りながら言葉にして伝え合う（B班） 名前を呼ばれたら返事をするか指導者と手を合わせてから自分の顔写真のカードを取ってホワイトボードに貼る（A班）。	「夏休みの思い出」などのお題が書かれたサイコロを振り、出たものに沿ってスピーチする（B班）。 学習のふり返りで、それぞれのがんばったことを伝え、全員で拍手する（A班）。	グループに分かれて対話しながら一つのワークシートを仕上げる（C班）。	
	高等部	生徒の興味があるテーマをアンケートで把握して文章を用意する。 授業の導入で身近な動物の名前でビンゴゲームをする。（A班） 授業の導入では簡単でたくさんの正解がある問題を計算する（探し算など）。	速さの学習では実際に校外で様々な速度を測定しイメージを持つ	その日の課題やテーマに合う図書を自分で選択する	繰り返しの学習で毎回解答する時間を測り、進歩を実感する	日常生活とのつながりを常に取り上げながら学習する（A班）。 同じ漢字であっても文脈に沿って変化する読み方になることを知る	テーマを決めて討論する（例：制服がよいか私服がよいか）。 文章を読み、その内容に合った題名を付けたり内容を要約したりする。		テーマに沿った討論をし友だちと意見を聞き自らの考えを振り返る	生徒同士のプレゼンテーションで質問をしたり意見を言い合ったりする。 ペアインタビュー、連想ゲーム、リレー作文、リレー音読などの学習や連想ゲーム、動物ビンゴ（動物の名前を言い合う）などのゲームを通じ友だちと協力して学習する。 グループで互いに顔が見える座席配置で協力しながら課題を解く。	生徒同士のプレゼンテーションで質問をしたり意見を言い合ったりする。 ペアインタビュー、連想ゲーム、リレー作文、リレー音読などの学習や連想ゲーム、動物ビンゴ（動物の名前を言い合う）などのゲームを通じ友だちと協力して学習する。 グループで互いに顔が見える座席配置で協力しながら課題を解く。	グループで互いに顔が見える座席配置で協力しながら課題を解く。	
理科、社会	中学部	季節の学習で、画面を横切ったり、部分が隠れていたりするその月の風物（植物、食べ物、服装など）の映像クイズに答える（A班）。 「答えられる」「答えられそう」「答えられるようになってほしい」という指導者のねらいや配慮によって分けた発問に答えて自信を持つ（A班）。 体の部位を知る学習で映像に合わせて部位名を声に出した後、「あたま・かた・ひざ・ぽん」の曲に合わせて自分の体の部位を触る（A班）。					体験した台風災害について、映像を見ながら全体ではどのような被害がどのように起きたのかを知り、その対策について考える（B班）。			3つのグループに分かれ、担当する教室やフロアを決めて位置を調べ、それらを持ち寄って一つの校内地図を作る（B班）。 二人組になり片方が目隠しをして、もう一人が目隠しをした生徒を日なたと日かげに連れて行って「ここは日かげですか、日なたですか」と聞く。答えを聞いた後、なぜそう思ったのかを聞き取り、全体に報告する（C班）。			
理科、社会 英語、情報	高等部	世界の環境問題について写真を見て意見を持つPCを使って簡単なタイピング形式クイズを授業の始めに行い入力することに興味を持つ。	毎回当番を決めて前に立ち英語で名前や体調、人数などをきく。	毎回の授業の始めにホワイトボードに書かれた英語を見て日本語とマッチングし内容と流れを理解する。	今まで覚えた英単語をヒント（フラッシュカード）元に答える。	クラスルームイングリッシュ（日常的に使う簡単な英語）を毎回用いることで意味を知りバリエーションを増やしていく。	環境問題のグラフや写真を見て身近な影響を考える。	環境問題がこのまま進行するとどうなるかいろんな可能性を考え、そうならないためにどうすればいいのか仲間と相談する。		ごみの分別を表示を見ながら相談して行う PCで自分の住んでいる町を調べ友だちに道案内できるように説明する。	あいさつの時に友だち一人ひとりにアイコンタクトをして英語であいさつする。	環境問題について自分たちのできる対策を相談して考える調べ学習をまとめるためにパワーポイントを活用しみんなの前でプレゼンテーションする。	クラスルームイングリッシュ（日常的に使う簡単な英語）を毎回用いることで意味を知りバリエーションを増やしていく。
音楽	小学部	歌詞に興味が持てるように、歌詞に出てくる動物の名前を言ったり動作化したりする。 楽器を手に持った時と床に置いた時の音を比べ鳴り方に興味を持つ。	季節の歌を歌う際、手遊びやイラストを貼る活動を用意し、それぞれが得意な活動に取り組む。 前から働きかけて児童の様子を観察した後、横や後ろからも歌いかける指導者の動きに合わせて動く。 自作の手遊びをして発語がない児童が歌唱に参加する。 声や言葉が出にくい児童が楽器で効果音などを表現する。	児童になじみのある曲を替え歌にして授業の始めに毎回歌う。 前もって顔写真を入れた一覧表を見て取り組む活動を知る。		活動場所が変わっても必ず自分のいすに座ることで落ち着く。 動きに合わせたギターの伴奏でスピードの変化を感じる。	イラストを見て太鼓を叩くタイミングをとらえる。 「おしまいボックス」を使用し、終えるたびに活動のタイトルをボックスに片づけることで区切りをつけて次に向かう。 授業の終わりは必ずパラバルーンを使用し「楽しい」「気持ちいい」などの気持ちを引き出しリラックスして終える。		大太鼓と小太鼓を叩き鳴らす時間の幅を広げ雰囲気の変化を楽しむ。	それぞれが発表する形で手遊びやそれについての気持ちを表現する円形に座り、友だちや先生の様子を見ながらタンバリンでリズムを打つ。 どの児童にも教師の表情や身ぶり、手話が見えるように座る（馬蹄形に並ぶ）。	それぞれが発表する形で手遊びやそれについての気持ちを表現する円形に座り、友だちや先生の様子を見ながらタンバリンでリズムを打つ。 どの児童にも教師の表情や身ぶり、手話が見えるように座る（馬蹄形に並ぶ）。	手話歌での言葉の意味と手話について学習しながら楽しい、悲しいなどの感情への理解を深める。	
	中学部					学習したことのある楽曲で動作を増やしたりオリジナルの表現を考えたりする（B班）。 リズムをパターンで理解し器楽合奏につなげる。			歌詞に合わせた手遊びの動きを身につけ全員が全体の前で発表して他の生徒や教師からの感想を聞く。	合唱でパートリーダーを決め、自主的にパートを分かれて合唱の楽しさを知る。	リズムダンスでアイコンタクトをしながら列になって身体表現をする。		
	高等部	演奏してみたい楽器を選び全体の前で音を鳴らす。	リズムを身近な単語に置き換えてリズム学習の練習をする。	リズムをカード化し演奏順序を考えてフレーズを制作する。それをどの楽器で演奏するか考える。			自分たちの演奏を録音して聞き、改善点を考える。		合奏するために他のパートの音色やリズムとの違いを知る。 合唱や合奏で気持ちを合わせて表現する喜びや協力する態度を持つ。	友だちと相談して担当する楽器やリズムを決めて合奏する。		合奏の発表後に他のパートの音色やリズムについて感想を述べ合い他のパートの演奏を参考にしてよりよい演奏をめざす。	
図工、美術	小学部	かえるの掲示物を作る前に全員でかえるのうたを歌いペープサートのかえるの動きを見てイメージを持つ。	雨を描く際、3通り用意された色鉛筆の下書きの上をクレヨンでなぞる。	「雨ふり」の歌を聞いてイメージを持ち、スライドで作るものや作り方について、内容別に区切った説明を聞く。 毎月繰り返しカレンダーを作り、紙を半分に折る、シールに合わせて折るという作り方が分かって活動する。		4月（手形）・5月（足型）・6月（ボディペインティング）と段階を踏んで活動を深める。			なぞる、線を結ぶ、自分で直線や曲線を描く、などの方法で様々な線の変化を楽しむ。 ボディペインティングで相手の手で体に絵の具を塗られることが苦手な児童にはローラーや筆で塗りながら活動に参加する。	ボディペインティングの授業で最後に全員が手をつなぐ活動を入れ、活動に入りにくい児童が一体感を持つ。 作品を発表し合う際、自分の作品を指さしたり、写真カードを貼ったり、友だちに見せるために持ち回りをしたりする。	ボディペインティングの授業で最後に全員が手をつなぐ活動を入れ、活動に入りにくい児童が一体感を持つ。 作品を発表し合う際、自分の作品を指さしたり、写真カードを貼ったり、友だちに見せるために持ち回りをしたりする。		
	中学部	モチーフを見やすい中央に置き、参考作品を同時に見てイメージをふくらませる（C班）。							互いの似顔絵を描き、友だちの表情の違いに気づく（B班）。 グループで福笑いをし、互いの作品を見せ合って話し合いながら顔の部位の正しい配置について気づく（B班）。 互いの作品を見合って自分が気づかなかった表現を知り作品作りに生かす（B班）。		ローラーなどを使って友だちと相談しながら大きな布に着色する活動を通し、協力して一つの作品とする達成感を味わう（B班）。	ローラーなどを使って友だちと相談しながら大きな布に着色する活動を通し、協力して一つの作品とする達成感を味わう（B班）。 鑑賞の学習で友だちの作品について、よいところを言い合うことで互いを認め制作意欲を高める（B班）。	
	高等部			手がかりになることを伝えたり、生徒と一緒に考えたりしながら学習を進める。			合評の際、自分の作品の工夫したところを他の生徒に伝える（C・D班）　制作過程で新たに気づいたことがあれば当初のデザインを変更し制作を続ける（B・C・D班）。	制作過程で新たに気づいたことがあれば当初のデザインを変更し制作を続ける（B・C・D班）。	制作過程で新たに気づいたことがあれば当初のデザインを変更し制作を続ける（B・C・D班）。 特定の色にこだわらず他の色を使うことのよさに気づく（A・B班）。	各グループで役割を決めて共同制作に取り組む。 友だちの作品を鑑賞し、よいところを伝え合う。	各グループで役割を決めて共同制作に取り組む。 友だちの作品を鑑賞し、よいところを伝え合う。	アイデアが浮かばない場合、教師と話し合ってイメージを一緒にまとめる（B・C班）。	

大阪府立東淀川支援学校

「授業シートまとめ表」

教科　コース等	学部	自ら考え行動する力・・①				変化に対応できる力・・②				コミュニケーション力・・③			
		興味・関心を持つ・・ア	積極的に動く、役割を担う・・イ	見通しを持って粘り強く・・ウ	学習をふり返ってできたことを確かめる・・エ	知識を経験と関連づける・・ア	情報を整理して考えをまとめる・・イ	問題を見つけ解決方法を考える・・ウ	新しい見方・考え方に気づく・・エ	協力、協同学習をする・・ア	児童・生徒同士、教職員や地域の人とのかかわりや対話を楽しむ・・イ	協同学習や対話から見方・考え方を深める・・ウ	歴史や先例、先輩や周囲の大人の態度等を手がかりに考える（あこがれを持って模倣する）・・エ
体育、保健体育	小学部	なじみのある曲で準備体操を行い、他の体を動かす場面でも動きやすいBGMで動く。	持ち手が付いたペットボトルを運んだり、平均台で補助棒を使ったり、色分けしたスタート位置から走ったり活動しやすい環境で体を動かす。 準備・片付けで、一人でもフープで示された位置に箱を置く。	活動を繰り返し、他の児童の様子も見ながら何をするか理解する。 それぞれの児童に決めた色で座席を示したり顔写真を貼ったりした席に自分から座る。		スモールステップを大切に繰り返して活動できるようになったことを知る。 それぞれの児童に決めた色で座席を示したり顔写真を貼ったりすることで自分の席がわかる。	リトミックの10曲について、イラストを見て曲と動きを合わせて理解する。 二人組になっての運動（ギッコンバッタン）で決まった曲を聞いて終わりのタイミングがわかる。 活動する前に曲に合わせた動きを確認してからリトミックを行う。 「フープの中の物がなくなったら終わり」とのわかりやすい指示を聞いてペットボトルをフープの中に置いて準備・片付けをする。		キックベースボールの発展形として顔写真を貼って段ボールで作った『まもるくん』に当てないように蹴って楽しむ。				
	中学部		準備・片付けで物品を色分けして各生徒が担当する色を決めることで見通しを持ちすすんで動く（A班）。	準備・片付けで物品を色分けして各生徒が担当する色を決めることで見通しを持ちすすんで動く（A班）。 準備運動、中心となる活動、整理運動、片づけの授業の流れを固定化してスムーズに次の行動に移る（A班）。 ダンスの学習で師範を見て意欲を高めたうえで自分で考えた動きを発表する（B班）。	ダンスの学習で師範を見て意欲を高めたうえで自分で考えた動きを発表する（B班）。		水泳で二人組バディで互いの泳ぎを確かめ合う。互いによい点と課題を言い合い自分の改善点に気づく（C班）。 マット運動で模範演技の映像を見る際、ポイントとなる動きについて静止画像で指導者の説明を聞く。自分の動きと比べ次回に気をつける点について気づく（C班）。	水泳で二人組バディで互いの泳ぎを確かめ合う。互いによい点と課題を言い合い自分の改善点に気づく（C班）。 ダンスで自分で考えた動きを発表し合い指導者や友だちからのアドバイスを受けて改善する。友だちの発表を見る際にはよい点を見つける（B班）。 認知作業トレーニングでは動きを映像に撮り、それを見て自分の動きのよい点や課題について気づく（B班）。	マット運動で模範演技の映像を見る際、ポイントとなる動きについて静止画像で指導者の説明を聞く。自分の動きと比べ次回に気をつける点について気づく（C班）。 ダンスで自分で考えた動きを発表し合い指導者や友だちからのアドバイスを受けて改善する。友だちの発表を見る際にはよい点を見つける（B班）。 認知作業トレーニングでは動きを映像に撮り、それを見て自分の動きのよい点や課題について気づく（B班）。	チーム対抗ゲーム形式で学習し、チーム全員が座ったら終了の札を上げる、などのルールにより声をかけ合って協力する（B班）。	チーム対抗ゲーム形式で学習し、チーム全員が座ったら終了の札を上げる、などのルールにより声をかけ合って協力する（B班）。	バディやグループワークを取り入れて意見交換や試行錯誤する機会を持つ（C班）。 ダンスで「何の動きを表現しているか」答えを言い合うクイズを行うことで互いの演技をよく見るとともに発表者はうまく表現しようと動きを工夫する（B班）。	
	高等部	キャラクターが描かれた的など視覚的に興味を引くような教材を使用して個人戦やチーム戦などゲーム形式で活動する（AB班）		授業の始めに学習内容の流れを伝えてから指示、号令をする。	試合結果を表示してわかりやすく伝えてから勝敗を伝える（A・B班）。		フォームを動画で確認することで改善点を明確にし、課題に取り組む（C・D班）。	失敗を経験し反省することでより安全に道具を使う（C・D班）。		個人戦、チーム戦など様々なゲーム形式の活動でチーム・グループ内で互いにアドバイスし合う。（C・D班） 使用する道具を生徒同士で協力して準備や片付けをする。	教師も一緒に活動し、いろいろな言葉のやり取りを通し楽しい雰囲気を醸し出す（C・D班）。		
家庭	高等部	調理実習の始めに食材を見て何を作るか考える。 縫製では始めに作品を見て触ってどのように作るか考える。 完成品を見て手順に見通しを持つ。		完成品を見て手順に見通しを持つ。		朝ごはんや自分でも作れる簡単な調理、皿洗いや配膳に取り組み日常生活でも応用する。 クロスステッチでできる時計やエプロンを入れる袋、マスクなど実生活で使えるものを製作する。				グループ活動の聞きやすい雰囲気の中でアドバイスし合う。	グループ活動の聞きやすい雰囲気の中でアドバイスし合う。		
作業学習	中学部			師範や掲示・表示などによる視覚的な情報により道具を安全に使う。	担当する作業ができた時は指導者に報告して確認を受け、出来栄えについて考える。								
	高等部	一目でわかるように置き場所を決めた道具類について、協力して準備・片付けを行い、自分で材料（織り糸など）を選んで作業をする（B班）。		手順や指示を掲示し、確認しながら作業を進める。 作業室に移動してからのルールや、作業台ごとに決めた作業内容を理解して作業に取り組む（B班）。 一目でわかるように置き場所を決めた道具類について、協力して準備・片付けを行い、自分で材料（織り糸など）を選んで作業をする（B班）。	ふりかえりノートで授業の始めには作業内容の確認、終わりには自己評価を行う。	場所が変わっても同じことができるようにと教室を変えて学習し、応用力を家庭でもできる力にする（A班）。				班ごとの作業で互いに声をかけ、教え合いながら作業を進める。	班ごとの作業で互いに声をかけ、教え合いながら作業を進める。 歌を歌いながら出欠を取り、それぞれの方法で返事をする。 短い区切りにある報告する機会に、自発的に報告する。 応募して全体の手伝いをした生徒に、全員で「ありがとう」と礼を言う。	自身の過去の製品や他の生徒の製品と比べてよりよい製品にする方法などを考える（B班）。	自身の過去の製品や他の生徒の製品と比べてよりよい製品にする方法などを考える（B班）。
職業コース	高等部	自転車整備で、「メンテナンス表」を見て、自転車の種類に応じて必要な作業箇所を理解する。 自転車整備で、作業内容別に必要な工具や作業のポイントを記したマニュアルを確認しながら作業する。		自転車整備で、「メンテナンス表」を見て、自転車の種類に応じて必要な作業箇所を理解する。 自転車整備で、作業内容別に必要な工具や作業のポイントを記したマニュアルを確認しながら作業する。	作業内容の説明を受けた後、毎回の目標を作業ノートに記入する。 作業後にふりかえりの時間を十分に確保し、目標について評価することで次へのモチベーションを持つ。 織物の授業で作業の終わりにメジャーや織幅のカードで織幅を測り、毎時間記録する。 作業ノートにも記入し友だち同士や自身の過去の記録と比較して次の目標にする。	自転車整備で様々なタイプ（変速機の有無、チェーンケースの形状の違い、部品の違い）に応じたメンテナンス方法を経験する。その際、様々な方法に共通する基礎となる技術を身につけることが重要であることに気づく。 未調整、メンテナンス済の自転車と比較してブレーキやナットの締め具合など感覚的な作業の手がかりとする。	自転車整備で様々なタイプ（変速機の有無、チェーンケースの形状の違い、部品の違い）に応じたメンテナンス方法を経験する。その際、様々な方法に共通する基礎となる技術を身につけることが重要であることに気づく。 未調整、メンテナンス済の自転車と比較してブレーキやナットの締め具合など感覚的な作業の手がかりとする。	早く作業を終えた生徒が教える立場になることで教える・教わる両者が、どこが難しくどうすれば解決できるかを考える。		１台の自転車の作業をペアで行い教え合うなど会話をしながら協力して作業する。		織物の授業で作業終了後のふり返りの時間に互いの作品や作製途中の状態などを発表し合う。	
その他　その他	小学部	タブレット端末を自作の券売機に付けて実際のものに近い操作をする。 電車に乗る時のマナーについて寸劇を見て考え、〇×クイズに答える	どの児童にも教師や他の児童の様子が見えるように座席を配置する（馬蹄形に並べる）。	活動の際の並び順について、先に映像で見てから活動に移るようにすることで自分から手をつなごうとする。									
その他　合同	中学部	スケジュールや活動の手順・内容の説明の際、イラストや写真など視覚的な情報により伝えることで落ち着いて取り組む。	個々の生徒の状態や特徴をとらえた質問により発言する機会を増やす。 得意な仕事を任せることで離席の多い生徒が集中して取り組む。 選択肢を用意し自分で何をするかを決めて作業に取り組む。 考えを発表したり係活動をしたりして友だちに認められ自信を持つ。	スケジュールや活動の手順・内容の説明の際、イラストや写真など視覚的な情報により伝えることで落ち着いて取り組む。 繰り返しの学習で見通しを持ちやすくする。	ふり返りの時間に個々のがんばったことを全員で共有し、互いに認め合う意識を持つ。				友だちの意見を聞いたり作品を発表し合ったりして自分が気づかなかった考えや方法について知る（B班）。	写真や絵カードを使い、自分が好きな方、やりたいことなどを選択する機会を持ち、自分の気持ちを伝える方法を知る（A班）。	写真や絵カードを使い、自分が好きな方、やりたいことなどを選択する機会を持ち、自分の気持ちを伝える方法を知る（A班）。		

大阪府立生野支援学校

はじめに～最終報告に寄せて～

令和２年３月吉日

平成 29 年度、文部科学省の「特別支援教育に関する実践研究充実事業」（次期学習指導要領に向けた実践研究）の公募が行われ大阪府がこれに応募し、平成 29 年度から「職業コース」を設置した東淀川支援学校と生野支援学校の２校に「教育課程改善事業」の名称で研究委託されることとなった。

その事業の主な内容は、外部人材を活用し、キャリア教育の観点を含んだ教育課程改善のための検討を行い、小・中・高一貫した教育の充実を図ることにあった。本校では校内で「教育課程検討委員会」を立ち上げて検討を重ね、新しく始まった「職業コース」の取組内容を充実させて、「キャリア教育」の観点から小学部、中学部、高等部の３学部の教育課程を見直し、「キャリア教育マトリクス」を作成することを重点課題とした。

平成 29 年度から 30 年度に行った実践については「中間のまとめ」に報告をしている。今回はその後の経過を含めて３年間の取組みの振り返りとして報告冊子の作成をした。学習指導要領の改訂に伴い「主体的・対話的で深い学び」と「社会に開かれた」教育課程の編成が求められている。３年間の「職業コース」の実践の中にはその課題に応えるため、地域の高齢者施設や小学校、そして区役所へとその清掃活動の範囲を学校内から校外の地域社会の施設へと拡大していった。その中で、生徒は多くの方からの称賛により自己有用感を高め、就労への期待感と意欲を高めていった。

また、校内の資源も活用し、異年齢の集団との関わりを通して、生徒の自己有用感を高めるための内容を取り入れることを進めた。各学部間の連携や児童生徒間の交流を増やし、協働での作業に取り組む機会を増やしていった。

これにより、学校全体として、就労に向けての支援を進めるという考え方は少しずつ育ってきたように思われる。

本報告書により３年間を振り返り、様々に展開した実践をまとめてみたい。ご覧いただいた方には、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸甚に思う。本事業の中で「教育課程改善アドバイザー」として週に３日という限定された条件ではあるが、各学部を回って OJT 的に実際の授業の中で教員への指導や助言をしていただくとともに、「職業コース」の実践の推進に積極的に関わっていただいた山内アドバイザー他ご支援くださった大勢の方々にお礼を申しあげる。

最後になるが、お忙しい中ご来校いただき熱心にご指導いただいた関西国際大学教育学部教育福祉学科　花熊　暁　教授に感謝の意を表したい。

生野支援学校　校長　国津賢三

Ⅰ　教育課程改善事業について

（１）経緯・理由

2020 年度の学習指導要領改訂にむけ、各府立支援学校においても児童生徒の障がい特性にあわせた指導･支援の改善と、小学部・中学部・高等部の教科･領域による系統的な指導･支援の充実が必要となった。とりわけ、早期からのキャリア教育については、教育課程上に位置付け、障がいのある児童生徒の自立と社会参加を推進していくうえで不可欠であり、生活年齢に応じた指導内容・指導方法を確立していくことが必要とされた。

＜学習指導要領等における記載＞

『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要方策等について』（答申【概要】より抜粋）に、次のような記載がある。

・キャリア教育の実施に当たっては、地域との連携・協働を進めていく必要がある。またこれまでの進路指導の実践をキャリア教育の視点から捉え直していくことが求められる。（第１部　第８章　３．キャリア教育(進路指導を含む)）

・幼稚部、小学部の段階から、学校や社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程であるキャリア発達を促すキャリア教育の視点を示す。
（第２部　第１章　５．特別支援学校）

・学校教育においては、子どもたちが社会・職業へ移行した後までを見通し、学校教育を通じて育成をめざす資質･能力を明確にし、教育課程を編成していく。高等学校においては、進路の先にある職業を考えながら、必要な資質・能力を育成する教育課程の改善・充実を図るとともに、卒業後に就職を希望する生徒の具体的なニーズに応えるよう、企業等とも連携し、より実践的な教育活動が展開できる体制整備等を進める。
（第２部　第１章　５．特別支援学校）

一方、自己実現の手段の一つとして就労があげられるが、府立知的障がい支援学校高等部卒業時の就職率は全国平均と比較すると、平成27年度で6.6ポイントの開きがあった。府立支援学校全体の就職率は向上しているものの、各支援学校の就職率には依然としてばらつきがあり、重点的な支援が必要である。特に平成28年度４月に大阪市から大阪府へ移管した旧大阪市立知的障がい特別支援学校６校と他の府立知的障がい支援学校との間には、これまでの就労に対する意識の違い、教育課程の違い等から就職率には開きがあった（平成27年度：大阪府25.6%、大阪市20.1%　平成28年度：大阪府28.7%、大阪市19.9%）。しかし、どの学校も就職を希望する生徒の就職率でみると、平成27年度91.1%、平成28年度91.6%と高く、就職希望者の就職率が高いことから、児童生徒の発達段階に応じた早期からのキャリア教育を推進・充実することで、児童生徒一人ひとりの可能性を広げ、伸ばすことができると考えた。そのためには、障がいの状況や発達の段階に応じて様々な人との関わりから自分の存在が認められる経験や自らの働

きかけで物事に変化が生じる経験をすることが必要であり、自己選択・自己決定・自己実現を支援する教育課程に改編する必要があった。

（2）目的

「外部人材を活用し、教育課程改善プランの検討・評価を行い、小学部・中学部・高等部で一貫したキャリア教育の充実を図ること」であり、平成29年度は、各学部、各教科・領域においてキャリア教育の観点を含んだ各学部の教育課程を見直した。平成30年度からは見直した教育課程に基づいて実践した。平成31年度はこれらの成果や課題について検証し、事業終了後も次年度に生かしていく。この3年間に実践した概要は次の①～③である。

① 本校の取組みを推進するため、教育課程に精通している「教育課程改善アドバイザー」が1人配置された。週3日、1日6時間学校へ常駐することにより、授業参観等により教員への指導助言を受けた。助言から小学部・中学部・高等部の各教科･領域にキャリア教育の観点を反映し、系統的な指導・支援を進めた。また、学校と企業・福祉等、関係諸機関との連携を強化できるよう調整した。

② 企業や大学教授等外部人材をオブザーバーとして招集し、本校の教育課程改善プランを検討・評価するための「教育課程研修」や「教育課程改善運営協議会」を実施した。

③ 教育課程検討会議では、キャリア教育マトリクスを作成し、個々の児童生徒の発達段階や進路を踏まえ、平成29年度に「何ができるようになるのか」「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」「何が身に付いたのか」「個々の発達をどのように支援するのか」「実施するためには何が必要か」という視点に基づいて教育課程を再検討した。平成30年度からの年間指導計画は、年間目標に加えて「何ができるようになるのか（単元目標)」「何を学ぶのか（指導内容)」「評価規準」「育てたい力（キャリアの観点)」「実施するためには何が必要か（教科書)」の6観点に整理し、実践した。
また、平成31年度は、学部毎に項目の異なった個別の指導計画も見直しを行い、「年間目標」「前期・後期の目標」「学習内容」「手立て（どのように学ぶのか)」「達成状況」とすることで児童生徒の自立と社会参加へ向け生活年齢、発達年齢に配慮した指導内容・指導方法を確立できるようにした。

Ⅱ　本校の教育課程について

平成 29 年度に教育課程改善事業を受け、限られた短期間の中で、PT（プロジェクトチーム）を編成し、キャリア教育マトリクスの試案作りと本校の教育課程の課題を洗い出すこととした。検討を重ねた結果、キャリア教育マトリクスを作成し、授業や特別活動等すべての教育活動にキャリアの観点を取り入れることで、それぞれの発達段階に応じた「育成すべき資質・能力」を育てることを考えた。また、次期学習指導要領に向けて必要となる観点を取り入れられるよう年間指導計画（シラバス）や個別の指導計画の書式を見直した。次に詳しく報告する。

（１）キャリア教育マトリクスの検討

①経緯

他府県のものも含めて調査をした結果、広島県立庄原特別支援学校は国立特別支援教育総合研究所と協力してカリキュラムマネジメントの実践研究に取り組んだ学校であり、研究課題が「育成すべき資質・能力を踏まえた教育課程編成の在り方」というテーマは、本校の方向性と最も合致した。また、本校高等部の職業コース立ち上げの際には庄原特別支援学校を訪問し、授業見学及び教育課程についての説明をいただいた。庄原特別支援学校における数年間の実践を重ねた結果、「学校教育目標（育てたい子供像）の達成を意識しているか」という設問に対して 87%の教職員が「かなりしている」「している」と回答しているのは大きな成果であると感じる。一方、「小学部から高等部まで系統性をつけることで、高等部の目標はどうしても高くなりがちであり、それによって、単元計画等が子どもの実態に合ってないと感じる教員が多い」という推察も示されている。

②本校のキャリア教育マトリクス（資料１）について

本校では、学校教育目標を基にキャリア教育指導目標を立て、全学部の児童生徒を対象に、具体的な目標を３段階とし、それぞれの児童生徒の発達段階に合った実践ができるようにキャリア教育マトリクスの様式を見直した。設定した３段階４観点（人間関係形成・社会形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力）の目標を各教科・領域、学校行事等すべての教育活動に割り当てることで、学校生活全体でキャリア教育に取り組めるよう教育課程の見直しを行った。

（２）各教科・領域の年間指導計画（シラバス）の様式の見直し

従来、本校の年間指導計画は各月の指導内容のみ記入する様式だった（資料２）。しかし次期学習指導要領では、児童生徒の発達を促し学びの連続性を持たせるため「何ができるようになるか」「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」「生徒の発達をどのように支援するか」「何が身に付いたか」「実施するためには何が必要か」という観点が必要となることから、小学部から高等部まで様式を改訂し統一することとし（資料３）、「年間目標、単元目標（何ができるようになるのか）、「指導内容（何を学ぶのか）」、「教科書（実施するためには何が

必要か)」という項目を新たに追加した。更に、「評価規準」を加えることで個別の指導計画と関連づけされるよう改善した。併せて、単元毎に「キャリアの観点」を付け加え、授業を行う教員が「キャリアの観点」を持ち、授業を進めていけるよう工夫した。

（３）個別の指導計画の様式の見直しについて

平成 29 年度までは個別の指導計画の様式が学部毎に異なっていた。しかし、平成 30 年度から２年かけて項目を統一し、平成 31 年度には「年間目標」、「前期目標・後期目標」、「学習内容」、「手立て（生徒の発達をどのように支援するか）・達成状況（何が身に付いたか)」と項目を合わせた。これによって各教科・領域の年間指導計画（シラバス）との関連が深まり、年間指導計画の「評価基準」を基に達成状況を評価できるようになるなど、計画から評価までの流れがスムーズになった（資料４）。

（４）評価２期制への移行について

平成 30 年度までは年間３回（１学期、２学期、３学期）評価をしていたが、個別の教育支援計画の作成と見直し・評価の時期に合わせ、前期・後期の評価２期制にした。これにより、個別の教育支援計画の内容を意識しながら個別の指導計画を立てるように教員の意識が変わってきた。授業でも２期制により評価の期間が長くなったことで、児童生徒の実態把握をより継続的に行う視点で適切に評価できることに繋がった。

Ⅲ　平成 29 年度の取組み

本校では元々、平成 27 年度から高等部を中心にコース制の検討を進めてきた。他の府立支援学校や高等支援学校などの見学を経て、従来から伝統的に取り組んできた「作業（Ａ班作業、Ｂ班手工、木金工、窯業、縫工織物、環境」の授業を２年生からコース制（Ａ班作業⇒トライコース、Ｂ班手工⇒チャレンジコース、木金工・窯業・縫工織物・環境⇒ワーキングコース）に移行することとした。（資料５、６）。本校はさまざまな発達段階の生徒が在籍しているため、在籍する生徒全員がそれぞれの発達段階や興味・関心に応じた取組みを行うことが大切であるという結論に至った。

本校ではこのように全生徒のキャリア発達をねらいとし、それぞれの発達段階や興味・関心に応じ「コース制」を実施したほか、将来企業就労を目標とする生徒たちのため、ものづくりを通した職業教育とは別に、まずは主に印刷作業を通した職業教育を行うコースを新たに導入した。今年度配置された教育課程改善アドバイザーと連携し、指導方針や取組み内容を試行錯誤しながら進めた１年めの活動と課題を報告する。

（１）教育課程改善アドバイザーの活用

学校の概要を校長、コース制主担者から説明し、教育課程改善アドバイザーに今年度の取り組みについて確認した。まず、児童生徒の実態を把握する必要があったため、小学部、中学部、高等部の授業を計画的に順次授業参観し、その場で助言を受けることにした。並行して次年度に向けた教育課程やコース制のカリキュラムについて定期的に主担者と検討を進めた。

キャリア教育の進め方について、他校の実践を取り寄せ、参考にしながら次年度から実施するキャリア教育マトリクス作成のための助言を受けた。

職業コースについても、他校の実践を紹介してもらいながら今後の取組みについて助言を受けた。教育課程改善アドバイザーが職業コース生徒の校外清掃実習先（２箇所）の開拓を行い、担当者に紹介し、実施に向けての検討を行った。

作業学習については、主担者となる後継者の人材育成が必要であると校長も含めて共有した。教育課程改善アドバイザーの取組みについては、ほぼ毎回校長と懇談し、連携を図った。次年度も授業参観を行い、児童生徒の実態把握をしながら随時助言するほか、教育課程の見直しや職業コースも含めたコース制の授業についての改善に、積極的に関わられることとなった。

（２）コース制について

コース制の設定にあたり、校内体制の見直しから始めた。進路指導部にコース制担当教員を３名配置し、各学年を担当する。その３名のうち１名はコース制の主任として全体の取りまとめや外部機関との連絡・調整をする。それに加えて各学年にも１名ずつ係を設置し、進路指導部所属コース制担当の補助を行うようにした。また、コース制検討委員会を設置し、

月に１度検討会議を実施した。メンバーは管理職、学部主事、高等部教務主任、各学年主任、進路指導部長、進路指導主事、進路指導部所属コース制担当、各学年コース係、トライコース、チャレンジコース、ワーキングコース担当者での構成とした。コース制検討委員会では新設する職業コース（平成 30 年度からのキャリアアップコース）の取組み内容や全コースで使用する作業日誌（資料７）及び作業の評価表（資料８）作りに取組んだ。

（３）コース制の取組み

本校のコース制はそれぞれの発達段階や興味・関心に応じた取組みの中から勤労観を養うことで、それぞれの実態に応じた進路に進むことを目的としているため生徒全員が対象となる。1 年生までは従来通り「作業」の授業に取り組み、2 年生からコース制へ移行する。コース制へ移行することによって、次の２点が変わる。

①作業日誌の変更

毎授業作業日誌をつけることで、その日の授業内容と目標を確認してから授業に取り組み、授業後には達成度を振り返ることでその授業の中でできたこと、できなかったことが明確になるよう工夫している。この取組みにより生徒それぞれが授業の反省を次につなげ、課題を改善していくという授業のつながりが持てるようになった。

②作業の評価表の変更

評価表は教員が学期に１度自分の授業を振り返り改善するという目的で導入した。評価表の項目は２種類あり、「社会に出てから求められる力」に関する共通目標と、作業種目によって異なる「技術」に関する目標とに分かれている。共通目標は、作業毎に分かれるのではなくそれぞれの発達段階に合わせて、挨拶、返事、社会的マナー（言葉遣いや身だしなみ等）、確実性・責任感・協調性など「社会に出てから求められる力」の観点で３段階の評価表を作成し目標を統一した。「技術」に関する目標は、窯業であれば窯業に関する目標、木金工であれば木金工に関する目標というように各作業班でそれぞれの取り組み内容に合わせた目標設定を行った。評価表を導入したことにより経験の浅い教員も他の教員と同じ観点を持ちながら授業を行えるようになるなど、すべての教員が育てたい力を共通認識しながら授業を進めていくきっかけになった。この２つをキャリアパスポートとして効果的に活用することで生徒が自己評価を行い、その際に教員が対話的に関わることで学習活動を深め、授業改善に取り組んだ。

（４）職業コースの取組み

本校のコース制は先に述べた通り、在籍する全ての生徒の発達段階や興味・関心に応じた取組みを行い、生徒一人ひとりが「社会で自分らしく生きていく力」を育てることを目的としている。職業コースは、コース制の中の１つの取組みとして位置づけられる。

平成 29 年度は高等部２年生の生徒を対象に毎週水曜日の５、６時間目に印刷業務に取り組んだ。生徒の選出は、1 年生の進路希望調査で企業か就労移行支援事業所を希望している

生徒から選出した。具体的には、高等部の連絡帳作りと保護者配付用プリントの印刷作業である。教員が生徒に直接依頼をすることで、生徒たちが受注から納品までを責任を持って行えるようにした。

この取組みを始めるまでは、どうしても学年の結びつきが強いため、生徒たちが他学部・他学年の教員と関わる機会は少なかったが、この取組みを始めたことにより他学部・他学年の教員ともコミュニケーションを図る機会となり、生徒たちは適度な緊張感を持ちながら言葉遣いや態度を意識する機会となった。

【写真１】　連絡帳作りの様子（左）と納品の様子（右）

平成 29 年度は職業コース１年めということで、成果と多くの課題がみられた。特に印刷業務を行う授業時間数が少ないことが一番の課題であり、水曜日の５、６時間目は学校行事の事前指導や準備などに費やすことも多かったため、計画的に取り組むことが困難だった。また、印刷業務はあくまで受注作業のため、仕事のない時期が出てくることも想定し、印刷以外の経験ができるように取り組み内容の充実を図る必要があることや、作業だけでなくビジネスマナーや社会生活に必要な知識を学習する座学を取り入れていく必要があること等が課題として挙げられた。これらの課題をもとにコース制検討委員会では、職業コースを「キャリアアップコース」として、他の３コース（トライコース、チャレンジコース、ワーキングコース）と同様に作業の時間に位置づけることで、１年を通して計画的な取り組みが行えるよう教育課程を見直した。

Ⅳ　平成 30 年度の取組み

平成 30 年度の大きな取組みとしては、トライ・チャレンジ・ワーキングコースによる「生野メッセ」における販売学習と、職業コースから発展したキャリアアップコースの取組みが挙げられる（資料５）。

トライ・チャレンジ・ワーキングコースはものづくりの班であり、これまでは「作品作り」が中心だったが、平成 30 年度からは作品に加えて「製品を作る」という意識を持たせる授業を行った。

また、新設したキャリアアップコースは、「コミュニケーションを通した職業教育」をテーマとし、従来から取り組んでいた「ものづくり」ではなく、印刷や清掃を通じて校内・校外のさまざまな人と関わり、人の役に立つという経験を積むことで、自尊感情や役割意識を育み就労への意識を芽生えさせるということをコンセプトにしている。３年生は前年と同様に印刷を行い、２年生は新たに清掃作業にも取り組んだ。ほうきや雑巾などはもちろんのこと、高圧洗浄機を使って校舎の壁面やプール清掃をするなどさまざまな道具を用いて清掃に取り組んだ。特にスクイージーを使った窓の清掃に力を入れ、学校共有部分の清掃を行った。スクイージーに力を入れた理由としては、ほうきや雑巾などよりも清掃前、清掃後の変化がわかりやすく生徒たちが達成感を得やすかったことが挙げられる。このような取組みを通して日々培った清掃技能を発揮する場として地域の２施設に協力を仰ぎ、校外清掃実習を行った。また、印刷に関しても校内の印刷物の受注数も増え、生徒たちが自分たちで役割分担をしながら取り組めるようになってきた。その他にもアセスメント実習やビジネスマナー研修、清掃技能検定、他学部との交流、地域貢献・地域清掃などさまざまな関係機関や人との関わりの中で生徒たちの成長を感じられる１年になった。それら２年めの取り組み内容を次に詳しく報告する。

（１）教育課程改善アドバイザーの活用

平成 30 年度は、高等部のコース制の授業を中心に授業参観し、助言を受けることにした。コース主担者と週１回、定期的な会議を設けコース制の取り組み内容や計画等の方向性について共通理解を図る機会を持った。

キャリア教育についても定期的に実践状況の確認し、教育課程改善アドバイザーと校長との懇談もできるだけ毎回行い、連携を図ることにした。

職業コース生徒の校外清掃実習について検討を進め、７月に１回めとして東小路会館老人憩いの家で実施した。実習後、実習先の方にも喜んでいただけ、生徒の意欲向上につながった。実習の実施にあたっては、教育課程改善アドバイザーからは事前に実習の趣旨等を判りやすく説明したリーフレットを作成する等の助言や、事前の打ち合わせや当日にも同行され、作業内容の確認や活動の進め方について助言を受けた。

その後、校外清掃実習の今後の進め方の検討も進め、12 月には新規の施設を含め２施設で実習を行ったほか、２月にも同じ２施設での実習実施や、他の実習先の開拓も進めた。

また、実習以外でも

・外部人材を招いたビジネスマナー講座の参観後、生徒の実態に応じた事後指導の方法
・高等部で行った販売学習（生野メッセ）における実施方法（他校の取組み等も参考に）
・園芸の授業における作物の育て方や生徒の指導方法（特に経験の浅い教員向けに）
・授業全般における、安全確保・構造化・生徒対応・保護者対応の方法
等、随時具体的な助言を受けた。

（２）コース制について

対象コース	実施日	実習場所	取組み内容
キャリアアップ	通年	印刷室	印刷：高等部連絡帳、保健だより、給食だより、学校要覧、保護者配付プリント等
	７/４ 12/12 ２/13	東小路老人憩いの家	清掃：掃除機、机拭き、窓拭き等
	12/17 ２/25	瑞光園	清掃：ほうき、モップ、窓拭き、椅子拭き、車椅子の掃除等
トライ チャレンジ ワーキング	２/15	学校内	販売学習： トライコース　しおり配付 チャレンジコース　しおり配付 ワーキング　窯業、木金工 縫工織物、環境

①キャリアアップコースの取組み

キャリアアップコース（職業コース）は他のコースの生徒と同様、コースの授業時間に活動している（資料６）。具体的な取組みは清掃・印刷作業、ビジネスマナー講習会があり、コミュニケーションや社会的活動を通していろいろな人との関わりを通して働く意欲を高め実践的な知識や態度を身につけることを目的とした。

本コースへの所属については「ワークセンター中授」という福祉事業所でのアセスメント実習を経て、その評価により決定するなど、学校だけではない外部評価も取り入れた。

ア 清掃作業

スクイージーを使用した窓拭きを中心に行い、ほうきやモップを使っての廊下掃除、高圧洗浄機を使用したプール掃除等に取り組んだ。次期学習指導要領の方針を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」につながるよう生徒たちのコミュニケーション能力の向上を意識して２人１組になって作業を行い、お互いに教え合えるような授業を展開した。

学期末には、日々培ってきた清掃技能を確認する場として清掃技能検定を行った（資料９、10）。検定では、自分たちで決めたチェック項目を意識して取り組んでおり、チェックするのも生徒同士で行うことで細かいところまで注意深く観察する姿勢が身に付いた。その後の振り返りでは、最初は何をアドバイスしたらいいか戸惑っている生徒もいたが、回数を重ねるごとに生徒同士でアドバイスを送り合う様子が伺えた。

このようにして校内で身につけた清掃技能を実際に実践する場として各学期に２回程度、地域の福祉施設（東小路会館老人憩いの家と瑞光園）で校外清掃実習を実施した。

東小路会館老人憩いの家では掃除機や机拭き、窓拭きなどの清掃を行い、瑞光園ではほうきやモップ、窓拭き、椅子拭き、車椅子の掃除などを行った他、地域清掃を行うなど、これまで培ってきた清掃技能を生かし実践する機会（目標）を設けることで、生徒たちが教員からではなく地域の方々から感謝される経験ができ、自尊感情や役割意識が高まる良い取組みとなった。

【写真２】（左から）
「高圧洗浄機によるプール清掃」「東小路老人憩の家での実習」「ビジネスマナー講習会」

イ 印刷業務

高等部の連絡帳や教員の名刺作り、学校要覧、（学部を問わず）保護者や職員用プリントの印刷【写真３】に取り組んだ。印刷だけを行うのではなく、受注から納品までの工程すべてを生徒が行っており、輪転機の使い方や製本技能の習得に加え、就労に必要なコミュニケーション力を身につけることもできた。また、印刷・製本・検品までの流れを生徒たちで役割分担し自主的に行うことで、自分の役割に責任感を持ち積極的に取り組むことができていた。

【写真３】　（左から）印刷の受注から納品までの様子

ウ その他

ビジネスマナー講習会では、キャリア教育指導センターから外部講師の方を招き「社会に出るために」「仕事をするときの基本」等の講義を中心に各学期に１回、年間で３回実施した。

あいさつの仕方や言葉遣い等の基本的なことから、接客のロールプレイなど実践的な内容にも取り組んだ。

１、２学期で清掃やマナーの基本を学び、コミュニケーション力もついてきた３学期には中学部との交流授業（清掃）を行い、中高と６年間を通して一貫した清掃方法が身につけることができるような取組みも実施した。

②トライ・チャレンジ・ワーキングコースの取組み

ア 生野メッセ

各コースの生徒が主体となり、コース独自の製品を作り、生野メッセと題して校内で販売する取組みを行った。時期は２月の作品展２日目に実施。この日は授業参観も兼ねており、保護者を対象に販売した。

ワーキングコースは窯業班が陶器の皿や生活雑貨、木金工班は木製の椅子や台、縫工織物班は布製小物、環境班は野菜や植物の種、ペットボトルを加工した小物を販売した。

トライコース、チャレンジコースは、牛乳パックを用いて高等部生徒数のしおりを作り、事前配付した引換券と交換する取組みをした。製品製作の過程では、たくさん売ることができるように丁寧に作業する意識が高まった。また、生徒が保護者案内用のチラシを作成し、生徒主体のイベントになるよう工夫した。

生野メッセ当日は、キャリアアップコースの生徒が受付を担当した。その他のコースは宣伝をする係や製品の説明をする係、会計をする係等生徒が自分の役割を果たしながら取り組むことができた。各コースで作った製品も完売することができ、保護者からも生徒と直接関わることができたのでよかったという意見をいただいた。生徒たちはこの取組みを通して生産者の視点からものを作る大変さと喜びを実感し、実際に販売することで自分の作った製品が売れお金を稼ぐという経験を得ることができた。また、販売を通して笑顔であいさつをすることや接客マナーを身につけられた等、作品作りだけでは得られ

ない貴重な学びの機会になったと感じている。実際に生徒からは「販売ができて楽しかった」「自分が作ったものが売れてうれしかった」「笑顔で接客することを目標にし、達成したと思う」等の感想があり、自尊感情や働く意欲の向上につながったイベントとなった。

課題としては、作品展と同日の為、コース担当者の負担が増えてしまうことがあげられたので、検討していく必要がある。

【写真４】　（左から）「トライチャレンジコースによるしおり配付」
「高３　ワーキングコース（木金工）の接客」
「高２　ワーキングコース（縫工・織物）の接客」

（３）次年度（平成 31 年度）に向けた総括

次年度（平成31年度）は三か年計画の仕上げの年であり、二か年の成果と課題を引き継ぎさらに発展させていくため、以下の３点を継続目標・取組み項目とした。

①「教育課程改善アドバイザー」を平成 30 年度に引き続き１人配置する。授業参観・教員への指導助言を行い、キャリア教育の視点を各教科に取り入れ、小学部・中学部・高等部の教科･領域による系統的な指導・支援を継続する。また、企業・福祉等、関係諸機関との連携を図り、学校とをつなぐ。

②引き続き「教育課程研修・検討会議」を設置する。学校と企業や関係機関それぞれが互いを知り、協働して子どもたちを育てるシステムをつくる。企業等外部の視点を教育へ取り込むことにより教育課程改善を進める、個々のニーズに応じた授業改善、指導支援を行い、卒業後の自立と社会参加につなげる。

③児童生徒の自立と社会参加へ向け生活年齢、発達年齢に配慮した指導内容・指導方法を確立する。高等部卒業後を見据えたトップダウン型の指導支援を行うことにより、子どもの進路を保護者と共に考え、企業等とつなぐ等、自立と社会参加に向けた取組みを一層促進し、キャリア教育マトリックスを再検討する。

学校及び「教育課程改善アドバイザー」は、ハード・ソフト両面から改善に取り組み、児童生徒の取組み前後の変化や成果等、モデル校で蓄積したノウハウを全府立支援学校に情報発信し、全府立支援学校のキャリア教育を充実させる。

Ⅴ　平成 31 年度（令和元年度）の取組み

平成 31 年度学校全体としての大きな変更点は、個別の指導計画（学習の記録と兼ねている）の評価を３学期制から２期制に変えたことである。あくまで評価のみの２期制で、これまで通り各学期に始業式、終業式（３学期は修了式）を行っている。これにより、より長い期間で達成状況をしっかり把握できるようになり、適切な評価につながるのではないかと考えた。

授業改善に関しては、今年度も新たな団体や関係機関とのつながりができた。具体的には巽東ふれあい祭り実行委員会や近隣小学校、学校運営協議会、ＰＴＡ実行委員会、生野区役所、就労・生活支援センター等が挙げられる。特に４月中旬に地域の祭りである巽東ふれあい祭りに参加したことで生野区長と出会い、区役所実習につながったことは大きな成果と言える。

また、高等部では教育課程の見直しも行い、新たに取り組み始めた授業もある。その内容を含め、次に報告する。

（１）教育課程改善アドバイザーの活用

年度当初にキャリア教育の各学部での重点的取組みの確認を行い、平成 31 年度も高等部のコース制授業を中心に授業参観し、助言を受けることとした。コース主担者との週１回の定期的な会議も継続して実施し、授業の方向性や具体的な内容について検討をし、教育課程改善アドバイザーの助言も受けながら主担者が新たな取組みを積極的に展開することに役立った。

４月には前年度から検討を重ねてきた地域のイベント（巽東ふれあい祭り）にキャリアアップコースの生徒が販売実習をするという形で参加した。実施した結果を総括し、今後も継続して参加できる内容を検討していくことにした。

ビジネスマナー講座についても教育課程改善アドバイザーを講師として２回実施したが、生徒も普段接している教員ではなく教育課程改善アドバイザーが行うことにより、新鮮味もあり積極的に取り組んでいた。

前年度実施した校外実習先の２施設については継続して清掃実習を実施したが、前年度の実績を踏まえて教育課程改善アドバイザーと検討を重ね、生徒自ら実習先と連絡を取るという取組みを行った。これにより実習に対する生徒の自覚、意欲が高まったように思われる。さらに新しい実習先に実習依頼をするために、生徒たち自身がプレゼンテーションを行う取組みも次年度以降継続して実施する予定である。

近隣の小学校での清掃実習や地域清掃も、教育課程改善アドバイザーの助言を受けながら実施した。地域の方からもお礼の言葉をいただき、生徒たちの働く意欲も高まった。

また、区役所での実習も打ち合わせから参加し、入念な打ち合わせを行い実施した。それぞれの実習に向けて本番までの取組みや、本番での反省を踏まえアドバイザーとも検討を

重ね、３年生は喫茶での接客という取組みも実施した。

販売学習についても教員への理解も深まり、内容の広がりもみられ、販売内容や実施場所等の検討を行った。

３年間の事業で、教育課程改善アドバイザーと職業コース主担者との継続的な定期的会議と、授業参観での助言で職業コースのカリキュラム、授業内容の充実を図ることができた。

（２）コース制について

①３年生キャリアアップコースの取組み

対象生徒	実施時期	実習場所	取組み内容
キャリアアップ	通年	印刷室	印刷：高等部連絡帳、保健だより、給食だより、学校要覧、保護者配布プリント等
	７/４	東小路老人憩いの家	清掃：掃除機、机拭き、窓拭き等 高２への清掃方法の伝達
	７/９	学校内	喫茶：PTA 実行委員
	７/11	巽東小学校	清掃：会議室、ひまわり学級教室、理科室
	11/12	学校内	喫茶：学校運営協議会
	11/19	学校内	喫茶：PTA 役員会
	12/12	生野区役所	清掃：大会議室、光庭（みおつくしの鐘）
	２/14	学校内	喫茶：保護者
トライ チャレンジ ワーキング	２/14	学校内	販売学習： トライコース　はがき、コースター チャレンジコース　コースター、写真立て ワーキング　窯業、木金工 縫工織物、環境

平成 31 年度、高等部３年生のキャリアアップコースには 13 名の生徒が在籍しており、内９名は前年度から同コースに在籍していた。授業内容は清掃・印刷・喫茶の３本柱で展開していった。

ア 校内清掃作業

昨年度から引き続き、スクイージーを使用した窓拭き、ほうきやモップを使って廊下や教室清掃、高圧洗浄機を使用してプール清掃や玄関周りの清掃、地域に出て校外清掃作業に取り組んだ。前年度の１年間で自ら考え、行動することができるようになってきているので、清掃場所を伝えると自然と生徒たち同士で役割分担や清掃工程についての話し合いが持てるようになってきている。生徒同士のコミュニケーションがしっかりと取れるようになってきたので、もう１段階ステップアップした取組みを行った。

イ 校外清掃実習

前年度から、校外清掃実習で利用させていただいていた東小路老人憩いの家での実習を１学期に高等部２年生と合同で実施した。生徒たちを縦割りで３グループに分け、それぞれのグループで３年生から２年生へ清掃方法の伝達を行った。初めは戸惑いを見せていた生徒たちも次第に後輩へアドバイスを送ることができていた。校内の授業で２人１組のペアになり、お互いが教え合えるような授業を行っていた成果が現れていた。生徒たちに感想を聞くと「言葉で教えるのが難しかったです。」との感想が挙げられた。「人に教えることができるようになって、はじめて定着したことになる。」と常々伝えていたことを実感してもらうことのできた実習となった。

【写真５】３年生から２年生へ清掃の仕方を伝達している様子

１学期は他に校外清掃実習として生野支援学校から徒歩２、３分の距離にある大阪市立巽東小学校で実習を行った。清掃場所は会議室・ひまわり学級教室・理科室の３室。会議室は机拭きや掃除機かけ、理科室では、ほうき・モップ・机拭き・窓拭きを行った。初めての場所であったが、生徒には常々「同じところばかり掃除することはない。その場に合った清掃の仕方を自分で考えて実践しよう。」と伝えていたので、本実習でも生徒同士で考え、自分たちで役割分担も行った。日頃から自分たちで役割分担する習慣がついているため、指導者の助言がほとんどなくても自分たちで話し合いをし、分担することができていた。小学校での実習は初めての場所なので、どうすればいいのかわからないときは“報連相”の“相„である相談を指導者にするように伝えていた。自分たちで考えた結果、わからないときはきちんと指導者に相談をすることができていた。

ひまわり学級の教室清掃では、授業中の教室における実施となった。小学校の教員から「気にしないで清掃してください。」と言われはしたが、少なからず気を遣うシチュエーションの中で生徒たちはどのように清掃するのか見守ることにした。最初は戸惑った様子も伺えたが、教育課程改善アドバイザーと相談し、窓拭きと掃除機掛けを行うことになった。生徒たちなりに授業を行っている邪魔にならないように意識しながら、清掃を行うことができたように感じている。

実習では、巽東小学校の校長先生や教頭先生をはじめ、多くの先生方に「きれいになったね。ありがとう。」と言われ、生徒からも「ありがとうと言ってもらえてうれしか

ったです。」との感想が出てきた。キャリアアップコースでの「人の役に立てるようになろう。」という目標に一歩近づいたような実習を行えた。徐々に生徒たちの中にも、人の役に立ちたいという想いを持つ生徒が現れてきたように感じている。

【写真６】（左から）「会議室清掃の様子」「理科室清掃の様子」「教頭先生へあいさつ」

２学期には、生野区役所での校外清掃実習を行った。現地集合ではなく、学校集合⇒教員引率で大阪シティバスを利用するなど、キャリアアップコース開設以来、初の公共交通機関を利用した実習となった。清掃開始前には、区長からの挨拶があり、本校生徒１名が代表して挨拶を行った。挨拶を終えて更衣後、役割分担を行い清掃に取り掛かった。

午前中の清掃では、大会議室・光庭のガラス清掃を行った。光庭には、「みおつくしの鐘」という大きな鐘があり、ここでは成人式の日に新成人が打鐘するというイベントが毎年行われている。鐘はガラスで囲われているが清掃は定期的には行われていないようで、かなりの汚れが見られた。「大切な日に使う場所なので、みんなでピカピカにしよう」と意気込んで清掃に取り掛かった。ガラスは高さが３メートルくらいあり、手だけでは届かないので伸縮ポールを使い清掃を行った。校内でも何度か練習しているが、校外で伸縮ポールを使って清掃するのは初めての経験で、「力加減やポールのコントロールが難しかった。」と実習後生徒からは感想があがっていた。大会議室の清掃では、会議室の舞台を雑巾がけや机拭き、椅子拭き、掃除機を使っての清掃を行った。大会議室は翌日以降に会議の予定が入っており、机・椅子のセッティングも行った。会場セッティングの経験は今までになかったのだが、生徒たちは指導者の指示をしっかりと聞き、間違うことなくスムーズに取り組むことができていた。大きな部屋で掃除機を使うことも校内では体験することができず、口頭でしかやり方を伝えることができていなかったため、「大きな部屋を細かく分けて区画ごとに掃除機をかける」という作業が一番難しかったようで、今後は体育館を使って練習していく必要があるように感じた。

午後からも大会議室の残った清掃と控室として更衣や食事で使わせていただいた部屋の清掃を行った。どこの清掃を行うか、どうやって進めていけばいいか等、生徒たち中心の意見が飛び交っており、２年間での授業がしっかりと身についているのを感じることができる実習となった。

【写真７】（左から）「会議室清掃の様子①」「会議室清掃の様子②」「光庭清掃の様子」

ウ　印刷業務

平成 31 年度も各学部の連絡帳や教員用名刺、学校要覧などを印刷した。年々、印刷依頼が増え、「進路の手引き」や「教育課程改善事業中間報告冊子」など、10 ページを超える印刷物を依頼されることも出てきた。教員のサポートは最低限にし、できるだけ生徒自身で役割分担しているが、納品までの手順を自分たちでこなせるようになってきている。３年生の生徒たちは印刷業務２年めということもあり、それぞれが見通しをもって要領よく業務に取りかかることができていた。

課題としては、今年度は本コースに 13 名の生徒が在籍していたため依頼のあった印刷物をすべて受注できたが、令和２年度は本コースに所属する生徒数が半分程度に~~なり~~なる予定で、今年と同量の印刷が困難になることが予想されるため、受注を制限するなどの工夫が必要になる可能性がある。

エ ビジネスマナー講座の取組み

平成 30 年度から学期に１回、座学としてビジネスマナー講座を行っている。平成 31 年度は教育課程改善アドバイザーが１・２学期で１回ずつビジネスマナー講座を行った。内容としては『自分や相手の長所と短所』や『社会人としてのルール』についてで、プリント学習や時にはロールプレイも交えて生徒たちに指導した。高等部３年生ということもあって、身だしなみや言葉遣い、態度については一定の知識・理解があったので、そこから少し発展した内容で『余暇活動』や『社会に出て困ったときの対応』について授業を展開した。「ストレスの発散方法は？」という質問に対しては、「クールダウンをします。」や「別の場所でゆっくりします。」といった返答しか得ることができず、余暇活動についてもっと話を展開させても良いのではないかと感じた。『社会に出て困ったときの対応』については「親に相談する。」「友だちに相談する。」といった返答があった。これから先、生徒たちは意思決定の機会に多く直面する。自らの障がい特性を理解し、自分の力で意思決定ができるよう、意思決定支援の重要性を感じ、生徒たちへは就業・生活支援センター（相談機関）の存在や「あらかじめ相談できる人を見つけておこう。」などの話を行ったが、ほとんどの生徒がまだ実際に経験したことのない

ため、自分にも起こりうることとイメージをして話を聞けていた生徒は少なかったかもしれない。ビジネスマナー講座を行って、生徒には校外に出る前や社会に出る前にもっと多くの知識や経験を積ませなければいけないと感じた。学期に１回だけではなく、もっと多くの時間を割いて、生徒へ伝えていかなければならないこともあると感じた。今後は、就業・生活支援センターと連携を取る等、外部講師も積極的に活用しながらビジネスマナー講座を行っていく予定である。

オ 喫茶の取組み

高等部３年生のキャリアアップコースでは、印刷と清掃に加えて喫茶に取り組んでいる。喫茶を取り組むことになった背景には、生徒たちにより実践的なコミュニケーションを取る場を経験してもらいたいという想いからである。この取組みは平成 31 年度から行っており、１・２学期ともに接客マナーやドリンクの運び方、置き方などの基礎的な内容に重点を置いて活動した。授業の中で取り組み始める前段階として、前年度（２年生）の終わりには就労支援ワーカーによる接客の講義を受けたり、実際に喫茶店へ行き接客の様子を見たりする活動を行った。生徒たちはお客様が来店したときの対応や、注文を聞きに行くときの対応等、今までの実生活の中で自分が客側として体験していることもあり、あっという間に覚えることができた。

これらの実践の場として１学期、２学期で計３回校内でＰＴＡや高等部教員を対象に『ＳＭＩＬＥ喫茶』を行い、平均して 30 名くらいの方に来店していただくことができた。お客様とのやりとりの中で、マニュアルにはない質問を受けたときには戸惑ってしまう生徒もいたが、すぐに「確認して参ります。」とその場を離れ、指導者に確認する様子も見られた。受けた質問を無視したり、適当に答えたりするのではなく、『わからないことは聞く』ことができていたことに日頃の積み重ねを感じることができた。お客様への対応の中で、言葉遣いや態度が乱れることもあったが、実践を行うことで見えてくる課題を確認できた良い取組みとなった。来店していただいたＰＴＡ役員の保護者に取ったアンケートでは「笑顔が素敵でした。」や「高等部３年生になるとここまで成長することができるのかとびっくりしました。」というコメントが寄せられていた。生徒たちにもアンケート結果をフィードバックすることで、自分たちの頑張りを認めてもらえたことに喜んでいる様子であった。

３学期は２月 14 日の授業参観（販売学習）に合わせて喫茶を行った。当日まで接客の練習を重ねて自信をつけたことや、販売学習直前に地域で喫茶店を営んでいた方に接客についてのビジネスマナー研修をしていただいたことで、生徒たちは覚えた接客用語を活用しながら笑顔で楽しそうに接客していた。また１，２学期と違い、レジスターを導入し、レジでの支払いにも取り組んだ。実践するのは初めてだったが、要領よく計算しておつりとレシートを返すことができていた。

その後の振り返りでは、生徒の方から「一生懸命笑顔で、接客をしました。語先後礼もしっ

かりやりました。注文の復唱やドリンクを置くとき、おしぼりを持っていくときの接客もしっかり集中してやりました。」という感想や、「緊張もしたけど、1、2学期も練習したのでスムーズにできました。4月からは就職をするのでこの喫茶で学んだことを生かして接客を頑張ります。生野メッセは最高でした。」といった感想がでてきた。その他にも「お母さんとおばあちゃんが来て、ホットコーヒーを作りました。それを飲んでいただきうれしかったです。」と自分が接客したことで人の役に立つことに喜びを感じた生徒や「卒業後、喫茶店で勤務したい。」と思う生徒が出てきたことは、生徒たちが学んだことを実際に活用し実践することで働く意義を感じ将来とのつながりを意識できる貴重な機会となったと考える。

【写真８】（左から）
「教員から注文を聞く様子」「ドリンクを作る様子」「ＰＴＡの保護者から注文を聞く様子」

カ　小括

キャリアアップコースは印刷や清掃、喫茶等を通じて校内・校外のさまざまな人と関わり、人の役に立つという経験を積むことで、自尊感情や役割意識を育み就労への意識を芽生えさせるということをコンセプトにしており、平成 31 年度の３年生が最初のコース卒業生になる。コース制が本格的に開始してからのこの２年間、生徒たちは座学や校内での学びだけでなく、校外でも主に清掃を通してコミュニケーションの取り方や言葉遣い、礼儀を学ぶことができた。また、校外へ出かけ様々な経験を積むことによって生徒同士で考え、進んで行動する力が身についてきている。具体的な例を１つ挙げると、清掃を行う際に生徒たちの方から「先生、ここもしますか？ここもやってもいいですか？」等と自発的な発言も目立つようになった。

２年間で計９回の校外実習を行い、この取組みを通して生徒たちが成長するだけではなく、地域の方々の本校生徒への見方も変わってきたように感じている。高齢者施設での清掃実習では、回数を重ねるごとに清掃を任せてもらえる場所が増えていき、２年生時の実習では、施設利用者の居室に入って清掃をさせてもらえるようになった。生野区役所の実習では、生徒たちが頑張っている姿を見て、感謝の言葉と写真も交えて生野区の Twitter にアップ（12 月 12 日）していただいた。

思い返すと授業担当者が清掃実習の打ち合わせに初めて実習先を訪問したときは、打ち合わせ相手が不安や心配を口にすることが決して少なくない状況だった。地域の方々

にとってはどうしても支援学校の生徒＝サポートが必要というイメージがあり、相手側からすれば支援学校の生徒に清掃してもらうことが想像しづらかったようである。しかし実際に根気強く一生懸命清掃実習に取り組む生徒たちの姿を見ることで、関わりを持ったすべての方々が生徒たちの頑張りを認め感謝してくれる機会になった。生徒たちも地域の方々からの「ありがとう」や「またお願いします」等の感謝の言葉や、必要とされていることを感じることで自尊感情や役割意識を高め、働く喜びを知るきっかけになったのではないかと考える。キャリアアップコースの取組みが生徒たちのキャリア発達につながるように、今後も地域の方々の協力を得ながら一緒に取り組んでいけたらと思う。

② ２年生キャリアアップコースの取組み

対象生徒	実施時期	実習場所	取組み内容
キャリアアップ	通年	印刷室	印刷：高等部連絡帳、保健だより、 給食だより、学校要覧、 保護者配付プリント等
	7/4	東小路老人憩いの家	清掃：掃除機、机拭き、窓拭き等 高３から清掃方法を教えてもらう
	7/17 11/13 12/4 1/15 2/12	瑞光園	清掃：ほうき、モップ、窓拭き、椅子拭き、 車椅子の掃除等 11/13, 1/15 は車椅子の受注清掃
トライ チャレンジ ワーキング	2/14	学校内	販売学習： トライコース　はがき、コースター チャレンジコース　コースター等 ワーキング　窯業、木金工 縫工織物、環境

平成 31 年度の高等部２年生のキャリアアップコースの履修者は４名と少人数であり、実習経験も少なく、知的障がいの程度も比較的中程度の生徒が多い。対人とのコミュニケーションもどちらかといえば苦手な生徒が多いため、印刷や清掃を通して他者と連携を図ったり気持ちを表現したりするとともに相手の話を傾聴する姿勢を学習している。

通年での目標設定として「アンパンマン」を合言葉に「愛されるキャリアアップコース、理想像はアンパンマン」というフレーズを掲げた。生徒にも「アンパンマンはイメージとして弱点が多いヒーローではあるが、ピンチのときには必ず誰かが助けてくれ逆転勝利を収める。なぜ、彼は助けてもらえるのか？それは日頃から周囲に気を配り困った人に手を差し

伸べる行為をしているから。」と伝え、日頃から自分のことだけでなく、周囲を意識し日々を過ごすことが、まずはキャリアアップコースの中でできるようになり、それが学年に広がることをねらいとした。また生徒たちは生活年齢においては高等部ではあるが自己決定をする場が少ない。社会へ出ていく際、本人の「働きたい」という気持ちが必要である。そういった思いから、「自立だけでなく自律ができるように」ということも目標とした。

ア 校外清掃実習について

高等部３年生のキャリアアップコースと同様、校内で培った力を発揮するために校外での実習を行っている。高等部２年生としては、昨年度も場所を提供してもらった東小路老人憩いの家と瑞光苑に今年度も継続してお願いをした。今までは指導者が清掃場所を打ち合わせして提供してもらっていたが、今年度の３学期からは大阪市障がい者就業・生活支援センターと連携を図り、生徒自らが学校を代表し学校の説明やキャリアアップコースの取り組み内容をパワーポイントでプレゼンテーションし、実習場所の提供を自分たちの力で得るという取組みを行う予定である。そうすることで、校外実習は当たり前のことではなく、清掃させてもらっているという感謝の気持ちを持ちながら取り組むことで一層清掃への意識が高まることをねらいとしている。

(ｱ) 東小路老人憩いの家について

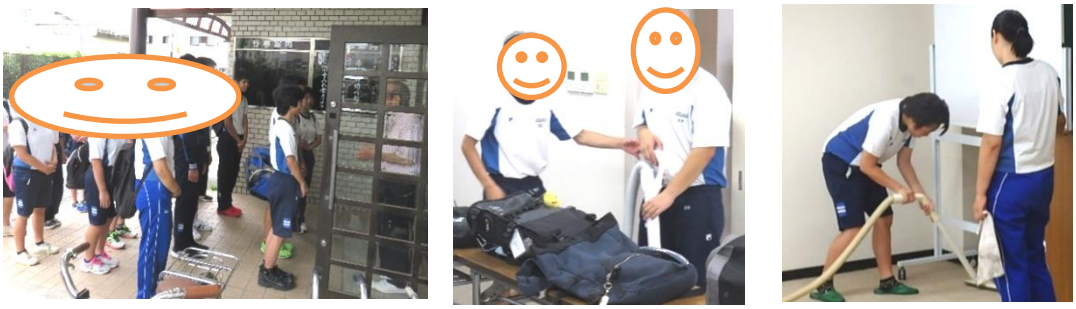
＜１学期＞

キャリアアップコースの学習の目的である「コミュニケーション」「社会性」を養う観点から、高等部３年生は今までの経験を高等部２年生に伝える。高等部２年生は高等部３年生から学ぶことを目的とし、今年度１回限り、合同での校外清掃実習を設定した。実施方法は以下の通りである。

・２グループ編成で「１階清掃組」「２階清掃組」とし、高等部２年生の４人を２名ずつ分け、３年生がチームリーダーをして各階清掃を行う。
・コミュニケーションや社会性を向上させるため、高２キャリアアップコース担当教員の指示で「わからないことは、高３生徒に聞くこと。」

上記２点を約束した。これは先輩、後輩間のコミュニケーションや学び合いをねらいとしている。緊張感から腹痛を催す生徒もいたが、高等部３年生が先頭に立って指導してくれたのもあり、振り返りの際も先輩の名前を言って「〇〇さんの教え方が上手でした。」と印象深かった様子で、安心して取り組めていた。また、技術面だけでなく、挨拶の仕方など非常に刺激を受けた部分も多かった。

今回の実習は３年生にとっては自分たちが学んできたことを後輩に伝えることで自主性や役割意識が高まり、２年生にとっては先輩への憧れを持てる良い学びの機会となった。今後少しずつでも合同授業を取り入れることで生徒たちの自主的な学びの機会を増やしていきたい。

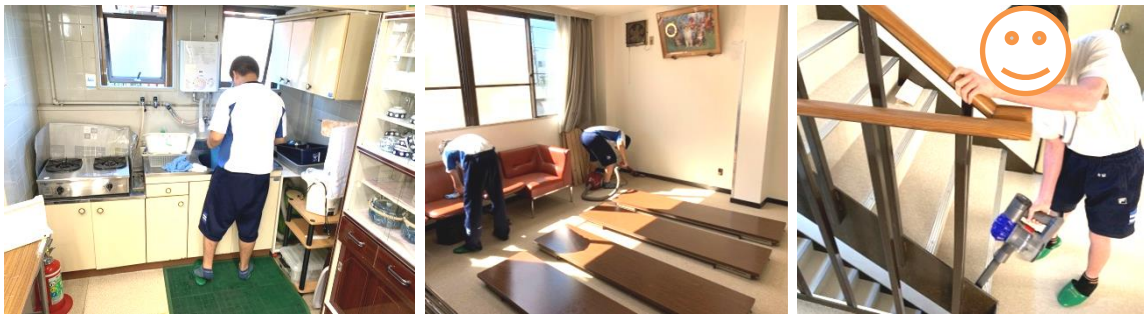


【写真９】「館長への挨拶場面（左)」「先輩から後輩へ清掃方法の伝達の様子（中・右)」

＜２学期＞

１学期は３年生と合同で清掃実習を行ったが、２学期からは単学年での実施となった。１学期は２年生４名、３年生 12 名、合計 16 名で行ったのに対し、２学期は２年生の生徒３名（１名欠席）で取り組むため工夫が必要となった。

今回からは少人数のため清掃範囲を狭め、ワンフロア＋αとした。請け負った２階の清掃手順としては、机や椅子の清掃→フロアの掃除機→窓拭きの順に２名体制で行った。もう１名は階段を担当し、ハンディ掃除機を２台使用して、面→隅→手すりを拭くという手順で行った。指導者の指示に対する理解不足による失敗などは多少見られたが、比較的スムーズに取り組めたのは１学期に３年生と合同で行ったことが大きいと感じた。帰校後の事後学習の際も、生徒の方から人数的な不安や作業に対する不安などもあったが、「友だちと協力して取り組むことができた。」という旨の報告があった。



【写真 10】東小路老人憩いの家での実習の様子

(ｲ) 瑞光苑　車いす清掃について

＜１学期＞

高等部２年生にとっては、初めての瑞光苑ということもあり施設の大きさに少し緊張した様子ではあったが、施設利用者のいない場所での車いす清掃だったため、緊張はほぐれ集中して取り組めていた。１人１台、合計３台の車いすの清掃にあたった。３台のうち１台は、利用者が実際に使用している車いすで汚れは少しではあったが、残り２台は食べ

こぼし等が比較的長期間へばりついていると思えるくらいの汚れであった。生徒のうち１名は汚れを気にせずガシガシと力強く清掃を行う等、他の授業ではあまり見られない新たな一面が見られた。

【写真 11】車いす清掃の様子①

車いす清掃の様子②

＜２学期＞

２学期の新たな取組みとして、車いす清掃の受注を取り入れた。清掃だけを行うのではなく、清掃実習に至るまでの施設側とのやりとりを経験することも生徒たちのコミュニケーションスキルを向上させるのではと考えたからである。これまでは教員が打ち合わせを行い、現地で清掃を行っていたが、今回より生徒たちが車いすの受注⇒学校へ持ち帰る⇒納品するという形式をとることで、他者（施設スタッフ）とのやり取りが加わり電話対応の学習にもつなげることができた。具体的には受注前と納品前に生徒自身が電話をかけて相手側とのやり取りを行った。

実際に授業で生徒に今回の取組みの説明をした際は、「今まで施設で清掃していたことを学校でやるんだろう。」ぐらいの反応だった。しかし、いざ電話をかけるとなると電話をかけることは初めての経験で、緊張した様子であった。生徒の中には、丁寧な言葉を使おうとはするが、あまりの緊張で相手方の名前を呼び捨てで復唱してしまう生徒もおり、今後電話対応に関しても練習する必要性を感じた一場面だった。

生徒は与えられた環境の中でしっかり作業に集中して取り組むことができていた。今回の受注から納品までの一連の流れを経験することで、新たな課題が見つかった良い機会になった。

【写真 12】校内での車いす清掃の様子①

校内での車いす清掃の様子②

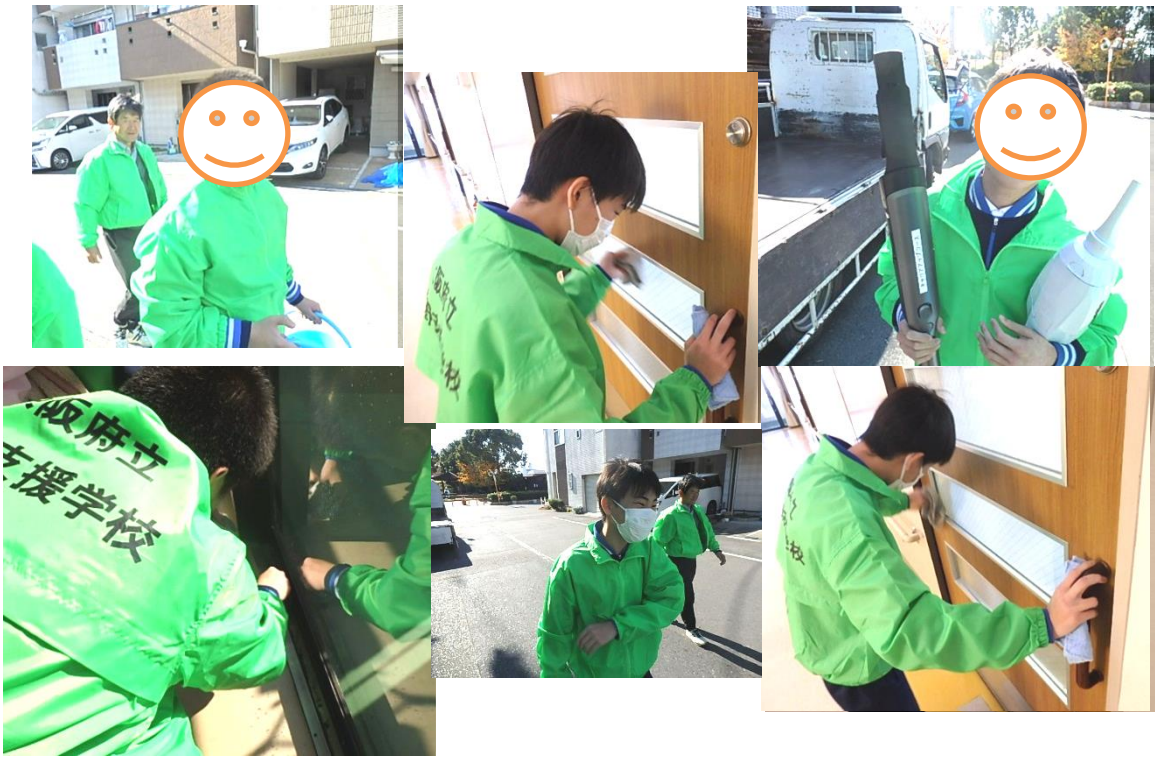
校内での車いす清掃の様子③

校内での車いす清掃の様子④

(ｳ)　瑞光苑　施設内清掃について

瑞光苑には平成 30 年度から場所の提供をしていただいている。施設側との打ち合わせを行い、今回は利用者さんが居室にいる中での窓サッシの清掃を清掃場所として提供していただいた。事前学習の際、生徒たちは作業内容の不安はなく、コミュニケーション面での不安を強く感じている様子であった。不安な気持ちを軽減するために、生徒たちには最初の目標として「失礼します。清掃をさせて頂きます。」「清掃が終了しました、失礼いたします。」が言えれば良いと伝えた。その他、想定外の質問や声かけがあるかもしれないが近くには必ず教員がいるので安心するよう伝えた。

当日、作業に取り組んでいると、利用者から声をかけられた生徒が１名いた。その人から日常生活での個人的な困りごとの話があり、びっくりした様子でありながらも話を聞こうとする姿は、この半年で成長を感じられるものであった。また清掃場所の汚れも清掃する必要のないきれいな場所から汚れ気味な場所まで様々あったが、参加生徒３名とも力強くこすり汚れを落とすことができた。次回は３学期に実習予定である。その際は大きな声で入退室の掛け声をかけられるようにすることと、もう少しペースを上げて取り組むことができるよう練習が必要だと感じた。



【写真 13】瑞光苑での実習の様子

イ 印刷業務について

高等部３年生同様、２年生も各学部の連絡帳や教員用名刺、学校要覧などを印刷した。輪転機や裁断機などの機械を初めて使用するため、慣れるまで時間がかかったが、教員の見守りのもと自分たちで業務をこなそうという意識が芽生えてきた。また、他学部・他学年の教員からの受注を受けることで、適度な緊張感を持ちながら丁寧な言葉で仕事の受注や納品を行うことができた。印刷業務が得意な生徒と、清掃業務が得意な生徒が異なるため本コース在籍の４名それぞれが得意分野を生かしながら積極的に取り組むことができている。令和２年度に新しくキャリアアップコースに加入する生徒がいるため、新メンバーに業務を伝えみんなで協力して業務に取り組めるようになってほしい。

ウ ビジネスマナー講習について

平成 30 年度は大阪市キャリア教育支援センターにお願いしていたが、対象の生徒にとっては少し内容が難しかったため平成 31 年度は生徒の実態に合わせて段階を踏んでビジネスマナーに取り組む観点から、高等部主事が担当することとし、身だしなみや TPO に応じた言葉遣い、挨拶を中心に指導した。その都度、必要に応じて授業担当者が事後学習も行い、生徒は理解できている様子であった。

＜１学期＞

１学期は身だしなみを中心に学習をした。フォーマルな服装をした絵と、乱れた服装をしている絵、また清潔感のある絵と清潔感のない絵を提示し、服装として直した方が良い点や清潔感を出すためにはどうすればよいのかを生徒自身に問い、改めて現在の身だしなみができているのか振り返ることができた。また、校外実習へ行く直前に設定したこともあり生徒も緊張感を持って取り組むことができていた。

身だしなみチェックシートを作成し、実習前に各自でチェックするように促すことで実習準備という形で家庭でも学習することができた。

＜２学期＞

２学期は TPO に応じた言葉遣いや挨拶を学習した。学生期と青年期に分け、今の自分たちがフォーマルな服装をする場面や行事はいつなのか？社会へ出てからフォーマルな服装をする場面はいつなのかを考えるところからスタートした。キャリアアップコースが大切にしているコミュニケーションを図ることもねらいとし、まずは生徒同士で答えを出し合ったところ、場面場面でお互いの認識の違い等があり、非常に興味深い結果になった。

次にフォーマルな恰好をした際（仕事や冠婚葬祭等）に誰が誰に丁寧な言葉遣いをするべきなのかを考えた。生徒からは主に実習先へ出たときにスタッフの方へという答えが多くあった。また、日常生活で関わる人で言葉遣いを意識する人、しない人を分けたときに両親に丁寧な言葉遣いをする生徒もおり、生徒も様々な答えがあった。生徒たちには「仕事関係だけではなく、目上の人には丁寧な言葉で話す」ことを伝え、卒業してから実践するのではなく、普段の生活の中で今から意識して練習するように指導した。そのほか、なぜ敬語が必要なのか？ということをいろいろな先生に聞くように指導することで、授業内で終わらず学校生活の他の場面でも考える機会を設けた。３学期は外部機関（福祉事業所）と連携し、講師を招いて同じ内容のものを系統立てて指導することで更なる定着を図る予定とした。

エ 小括

高等部２年生は 40 名学年でワーキングコースとキャリアアップコースには 26 名履修している。ワーキングコースは縫工・織物班と木金工班の２グループに分かれ、キャリアアップコースは３種類の作業に分かれる。単純に考えれば、８名～９名が各グループにいる計算ではあるが、長期欠席者も在籍し、且つキャリアアップコースは希望制ということもあり今年度のキャリアアップコースは４名での学習となった。

障がいの状況により、他学年と比較した際の作業スピードや量はゆっくりではあるが、その分、伸びしろが大きいと感じられる場面があり、これまで報告したような経験をすることでさまざまな面で成長を感じることが多い。

印刷や清掃を中心に上記にも記載した、校外清掃実習や他学部との交流などを経験することでコミュニケーションをとる輪が広がり、他者との関わり方が変わってきた。また、目標としている「ON・OFF の切り替え」が少しずつできるようになり、休憩時間に騒いでいる生徒が授業には真剣な眼差しで取り組む姿や、恥ずかしさで何事も声が小さく、怖がりであった生徒が授業を経験することで苦手なことにもチャレンジをしたり、他者に声をかけるようになったりできたことは大きな成果だと言える。

３学期は基礎的な力を更に養い、次年度は社会と繋がる取組みをキャリアアップコースとして取り入れたいと考える。次年度は高等部３年生として将来の自己決定をしなければならないステージでもある。キャリアアップコースとして高等部２年生で築いた自立の力を高等部３年生になって力を発揮してさらに自立の力を高めていって欲しいと考える。

③ トライ・チャレンジ・ワーキングコースの取組み

〇生野メッセ（キャリアアップコースも含む）

前年度より始めた販売学習（生野メッセ）は、平成 31 年度も高等部２年生、３年生が２月 14 日（金）作品展・授業参観に合わせて開催した。前年度はワーキングコースが主体の販売学習だったが、平成 31 年度はトライコース、チャレンジコースの生徒たちも１年をかけて作った製品を保護者に向けて販売した。

トライコースでは、紙漉きで作った絵葉書やヘアゴム、コースターを製作した。紙漉きは色の出方や厚さ等、試行錯誤をしながら取り組んだ。さをり織りでのコースター製作にも取り組み、トライコースの生徒が作ったコースターを使ってキャリアアップコースの生徒が喫茶に使わせてもらう等、作業での横のつながりが出てくるようになった。

チャレンジコースでは、ハンガーや S 字フック、鍋敷き、写真立て、コースター、座布団、プラバンキーホルダー、信楽焼マグネット等を製作した。写真立ては枠の部分にビーズを丁寧に貼りきれいな作品に仕上がった。プラバンキーホルダーは A~Z までのイニシャルを入れることで、客が自分のイニシャルを探したくなるよう工夫した。

ワーキングコースでは窯業班が、手びねりで作ったいろいろなサイズのお皿や石膏の型を使って仕上げたカップ等を販売した。これまでは型を使うよりも手びねりで個性のある作品を作ることが多かったが、製品を作る際は型を使うことで一定の品質のものを大量に作りやすくなった。手びねりと型とは異なる方法を経て作られるため授業の幅も広がり、生徒にとっても新鮮であったようである。木金工班はフラワースタンドや鍋敷き、ペン立て、箸置き等を制作した。縫工織物班はコースターや巾着袋、ポーチやペンケース、カバン等を販売し、環境班は学校農園で採れた新鮮な大根や蕪、ペットボトルで作ったペンケースを販売した。

キャリアアップコースの生徒は前年度は受付を担当したが、平成 31 年度は喫茶に取り組んだ。販売学習は今年で２年めとなり、全体的に接客するのに恥ずかしがる生徒も

減ってほとんどの生徒が楽しそうに取り組んだ。教室まで買いに来るお客様がいなくなると学校玄関まで行って呼びかけをしたり商品を持って移動販売を始める等、生徒たちが積極的にこの行事に取り組もうとする姿勢が見られた。また、環境班では自分からお客様のためにきれいでまっすぐな大根を選び始める生徒や、縫工織物班では完売したい気持ちから自分から商品の説明を始める等、新たな一面を見せる生徒もでてきた。今年はレジスターを購入し、高等部３年生はレジスターを用いての販売を行ったのでレジで計算してレシートを渡す等、実際の店舗に近い接客を体験できたのも大きな経験であった。

販売学習終了後の振り返りでは、「いらっしゃいませと大きな声で言えました。」「自分の作った製品を買ってもらえてうれしかった。作った甲斐がありました。」「しんどかったけど楽しかった。」等の意見が出てきた。ほとんどの感想が「自分たちの作った製品が売れたことがうれしかった。」というものだったが、中には「しんどかった」という感想もあり、働くことは楽しいばかりではないと学んだ生徒もいたことがわかった。

前年度は販売学習の売り上げはPTAの方に返却したが、今年度は売り上げの一部を使ってPTAの方から食べ物や飲み物で寄付していただき、高等部２年生と３年生が学年毎にお楽しみ会を開いた。働くと給料を得て、その給料を使う（遊ぶ）ところまで経験できたことは特に卒業間近の高等部３年生にとって良い経験になったと考える。

（３）中学部の取組みについて

中学部の進路指導は、自立活動や教科指導、校外学習等での学習活動を通して行っているが、その中でも、中学部３年次に行う高等部の校内実習見学や校内実習体験学習は生徒にとって、自分の進路を考える絶好の機会となる。今年度は２学期の文化祭の前後に行った。

①　高等部校内実習見学

〇事前学習

進路指導の一環として行っている見学や体験学習では、事前学習はとても重要で、それによって、学習効果を大きく左右するといっても過言ではない。今回の高等部の校内実習を見学するにあたっての事前学習では、見学を単なる受身型の行事として終わらせるのではなく、将来の社会参加を考えるきっかけになるような内容にすることを目標とした。実際の事前学習では、プレゼンテーションソフトを使用し、まずは、１年後、２年後、そして、５年後、10 年後の自分の姿を想像するように生徒に問いかけた。中学部３年生の生徒にとって、1・2年後程度であれば、「高等部に在籍して、毎日通学しているだろう。」と比較的容易に想像できたが、５年後、10 年後となるとさすがに具体的にイメージするのは難しかった。そんな中で、「お仕事している。」という答えは出てきたので、それを元に様々な形で社会参加している自分を想像させた。加えて、その途中にある高等部での学習内容について作業学習を中心に説明し、作業学習の様子を写真で示した。

○見学当日

見学直前に、本校高等部の進路担当教員から、高等部での特色ある授業内容（作業学習や校内・校外実習等）や将来仕事をするうえで大切なこと（健康、挨拶、報告、連絡、相談等）についての講話があり、高等部での生活の概略をつかんだうえで見学に望んだ。

中学部の生徒にとって高等部は同じ敷地内にあるとは言え、知らないことも多い。今回初めて高等部の生徒が真剣に作業に取り組む姿を見て、中学部の３年生たちは圧倒されつつも感動し、それぞれの視点で作業を見守った。ふざけたり私語をしたりして注意される生徒は皆無であった。見学後の振り返りでは、「自分が高等部に進学したら、逆の立場になって中学部の後輩たちにいろいろと教えてあげたい。」という生徒、「先輩みたいになりたい。」と憧れを抱く生徒、作業の難しさに注目した生徒、また、ある種のカルチャーショックを受けた中学部生徒や、仕事に対する自分のイメージを修正する生徒等、様々な感想が出た。

② 校内実習体験

○事前学習

校内実習の見学から約１ヶ月、その記憶が新しい中、中学部で校内実習体験をした。事前学習ではプレゼンテーションソフトを用いて、将来の社会参加を念頭に置いた高等部の実習の様子を復習し、今回の実習体験の目標等を示し、発達段階別の班分けを発表した。また、生徒たちがイメージしやすいように実際に材料を持ちこんで、代表者数名による模擬作業をした。作業時には、作業者の手元を書画カメラでスクリーンに投影し、作業の詳細を視覚化することにより生徒の作業に対する興味を引き出し、勤労意欲を高めた。

○準備・配慮事項等

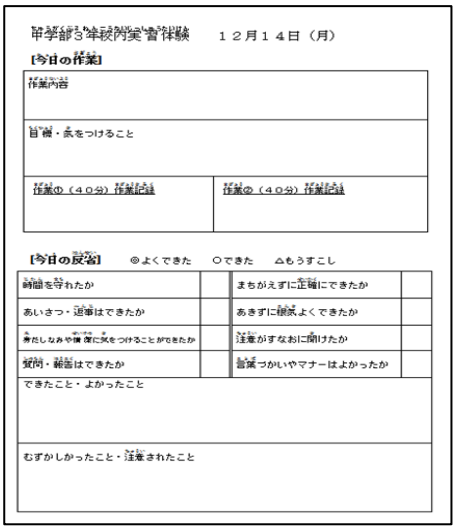
・ア 時程は敢えて通常の時間割を用い、生徒が実習と通常授業の違いを容易に比較できるようにした。
・イ 実習材料は高等部で使用する材料をそのまま用い、よりリアルな実習の雰囲気が味わえるように内容を設定した。
・ウ 実習日誌を活用して、作業の目標や結果・反省を生徒各自に記録させた。
・準備では、グループごとに担当者が打ち合わせをして、実習材料や作業内容の選定、作業机のレイアウト、作業の流れの確認等を行った。

ア　時程

作業時間割（校内実習体験）

９：１５～９：３５	全体説明
９：３５～１０：１５	作業①
１０：１５～１０：２５	休憩
１０：２５～１１：０５	作業②
１１：０５～１１：１５	休憩
１１：１５～１１：５５	片付け ふりかえり

ウ　実習日誌



イ　実習材料（左から、フックボルト、ボールペン、シャボン玉セットの組立・解体）

○体験学習当日

実習体験当日は、ホームルーム教室で実習日誌に名前や目標等を記入した後、各グループに分かれて作業を開始した。作業教室に入るときには一礼し、「おはようございます。」「お願いします。」等の挨拶をすることで、気持ちの切り替えを意識した。作業中の生徒たちはどのグループも私語は一切なく、40 分間×３コマの実習体験に集中して取り組んだ。実習を終え、疲れ切って教室に戻る生徒たちを見ると、気を抜かずに一生懸命作業を続けたことが伺えた。また、今後伸ばしていく点や改善点が明確になり、出来高（数字）を意識できる生徒は、今後の目標数を設定することが可能になった。

③　小括

高等部の校内実習見学と校内実習体験学習を終え、生徒たちの感想文を読んだり、担当教員の話を聞いたりすると、これらの実習は、将来の社会参加を初めて真剣に考えるとても良い機会になったといえる。高等部の見学では、高等部生徒たちの真剣な表情や実習の独特の雰囲気を感じ取るとともに、高等部の進路学習を体験することもできた。また、校内実習体験では、これまで漠然としていた「仕事」のイメージがより鮮明になったと同時に、目前の高等部への進学に対しても、将来自分らしい社会参加をするための一つのステップという新たな視点を得る機会となったことが大きな収穫であった。

Ⅵ 学部間交流について

小学部・中学部・高等部で一貫したキャリア教育に取り組むために、学部間交流の機会を設けた。児童生徒の目的として「助ける、助けられる、人の役に立つ」という経験を意識的に増やすことで自尊感情や役割意識の向上を図り、教員にとっては、この取組みを通して小学部入学から高等部卒業までの児童生徒の実態を知り、自分が受け持つ児童生徒が「今どの段階にいてどんな力をつけていく必要があるのか」を把握しながら、学びの連続性を意識した教育活動を行っていけることを目的とした。

（1）平成 30 年度の取組み

これまでも運動会や文化祭等の行事で交流はあったが、異年齢集団で関わりを持つ機会を増やすことで育つ力があるのではないかと考え、平成 30 年度に以下の２つの実践に取り組んだ。

実践事例（1）

小学部が毎年６月に実施している「夏のつどい」（夏祭り行事）は、例年小学部の教員が企画・運営していたが、本年度はそれに加え高等部で１教室割り当て、縁日を実施した。高等部２年生のキャリアアップコースの生徒たちが担当となり、企画・準備・実施までを自分たちで自主的に考え進めていくこととした。

高等部の生徒たちは接客をした経験がなかったため、当日最初は緊張している様子だったが、小学部の児童が楽しんでくれている様子を見ると、次第に緊張も解け、笑顔で接客できるようになる等の接客マナーも身についた。

縁日終了後の生徒たちの振り返りでは、「縁日の企画・運営は初めてだったので楽しかった。」「小学部の子どもたちが喜んでくれたのでうれしかった。」という感想が出ており、生徒たちのコミュニケーション力や調整力の向上が感じられた。

また、小学部の児童も帰宅後、「今日高等部のおにいちゃん、おねえちゃんが遊んでくれて楽しかった。」と保護者に話をしたようで、高等部の生徒たちは人の役に立つ経験を、小学部の児童は先輩への親しみや憧れを持つ機会となった。

実践事例（2）

高等部１年生のＣ班音楽の授業に小学部５年生を招いて、一緒に歌ったり踊ったりして交流を深めた。また、高等部１年生のＤ班と中学部３年生のＤ班で英語での自己紹介とゲームでの交流や、高等部２年生の環境班と小学部児童が一緒に大根の収穫作業を行った。高等部２年生のキャリアアップコースの生徒は中学部２年生に清掃の仕方を教え、清掃という活動の中で中学部と高等部が系統立てていけるようきっかけ作りを行った。

これらの授業交流を通して児童生徒がお互いのことを知り、認めるきっかけになり廊下ですれ違う際などに挨拶を交わしたり、小学部の児童が高等部の生徒へお礼の手紙を書いてくれたりと学部間での交流が深まった。

平成 30 年度は「助ける、助けられる、人の役に立つ」という取組みにつなげるために、できるところから交流をするということでスタートし、一定の効果はあったように感じている。しかし交流を行ったのは一部の学年、一部の授業に限られているため次年度以降も交流の機会を増やしつつ、学校として系統立った取り組み内容について検討をするとともに、より計画的に実践を重ねていく必要があるとの結論に至った。

（２）平成 31 年度の取組み

平成 31 年度も「助ける、助けられる、人の役に立つ」取組みを目指して、「夏のつどい」を主として学部間交流に取り組んだ。

実践事例（１）

平成 31 年度の「夏のつどい」も小学部行事として６月に実施した。前年度と同様、高等部２年生のキャリアアップコースの生徒たちのために１教室を割り当て、縁日の企画・運営を行った。前年度実施したボウリングとワニワニパニックや、新たにコイン落とし等も候補に挙がったが、前年度と違って平成 31 年度の２年生のキャリアアップコースの生徒は４人と少ないため、ボウリングに絞って運営した。

ボウリングを実施するにあたって生徒たちが一番工夫したことは「小学部の児童がどうすれば参加しやすいか」である。この時に参考になったのが、社会体験学習で体験したボウリング学習である。前年度の２月にラウンド１のボウリング体験に応募し、学年全員でボウリングを行った。偶然ではあったがこの経験が生きてキャリアアップコースの４人全員がボウリングというイメージを共有し、小学部の児童のために何を準備しどう工夫するかを検討しやすくなったように感じている。生徒たちが相談した結果、児童全員が楽しむためには「ガターレーンがある方がいいだろう。」という結論に至り、拡大機の紙芯を用いて自分たちでガターレーンを作成した。キャリアアップコースの生徒が自分たちで遊ぶだけならガターレーンは必要ないが、相手（児童）のことを思って考え行動できた育ちの一場面であると考える。

「夏のつどい」当日の生徒たちは校内での活動とはいえ、初めての接客体験で少し緊張した様子であった。しかし、接客回数を重ねることで、少しずつ緊張が解れて積極的な接客ができるようになってきた。保護者を自主的に誘導する生徒もいれば、小学部の児童に声をかけるようになった生徒もいた。事後学習をした際も、「小学部の児童が楽しんでくれて良かったです。」という感想が聞けた。接客の仕事に触れることも生徒にとっては良い経験になったと思われる。

実践事例（２）

「夏のつどい」以外にも１月の中学部３年生対象の高等部の授業見学でコース制の紹介を高等部２年生の生徒が行い、２月から３月にかけては授業交流（小学部・高等部）や体験授業（小学部・中学部）、校内整備（小学部・中学部・高等部）に取り組む予定である。授業交流に関しては高等部３年生のG班音楽と小学部１年生、高等部２年生のC班音楽と小学部３年生が楽器の演奏を聴いたり一緒に歌を歌ったりして交流した。また、高等部２年生のD班数学と小学部６年生では、高等部の生徒がサポートしながら買い物学習に出かけた。高等部３年生環境班と小学部２・４・５年生は大根の収穫を一緒に行うことで交流した。体験授業では、小学部６年生の児童が中学部３年生の授業を体験した。

校内整備では、卒業式の前日に小学部の児童と中学部、高等部の生徒がグループに分かれて、廊下や玄関の掃き掃除を行う予定である。平成31年度は実施には至らなかったため次年度以降に取り組む予定である。このように異年齢交流の機会を今後も意識的に持つことにより児童生徒お互いの成長につなげられるよう工夫、改善しながら少しずつでも取り組んでいきたいと考える。

Ⅶ　３年間の研究成果と課題

（１）職業の時間の新設について

これまでの本校高等部のキャリア教育と言えば、作業の授業（Ａ班作業、Ｂ班作業、縫工・織物、木金工・窯業・環境）と６月と 10 月に実施する校内・校外実習が中心だった。作業では、それぞれの発達段階や興味・関心に応じて取り組み内容は上述のように異なるが、主に集中力や巧緻性の向上と報告・連絡・相談の習慣作りに努めていた。また、校内・校外実習は進路指導部が中心となって１、２年生は１週間校内実習（一部の生徒は校外実習）で蝶番の組み立てや商品の検品等の軽作業に取り組み、普段の作業の授業とは異なってより実践的な作業に取り組んでいる。３年生は１週間を校内実習、もう１週間を校外実習（企業は２週間）とすることで、作業能力を高めるとともに卒業後の進路決定につなげる大事な取組みとなっている。生徒たちにとってこの実習期間は普段以上に挨拶や返事、言葉遣い、身だしなみ、時間の意識、報告連絡相談をきちんとする等、様々なことを学び実習後にはできたこと、できなかったことを振り返ることで卒業後の進路に向けての自身の適性や課題を把握する機会にもなっている。

このように本校高等部のキャリア教育は主に作業の授業と校内・校外実習を中心に行ってきた。特に校内・校外実習では年２回の行事であるが、１年生の６月は卒業生や教員による進路講話を聞き上級生の実習を見学することで卒業後の自分の将来についての意識を高めるところから始まり、２年生、３年生へと学年が上がるにつれてより社会生活に近づくような学習機会となっている。それぞれの実習を経て成長していく生徒が多いが、６月の実習の後には夏休みがあることや、10 月の実習後にはすぐに文化祭練習期間になることで、実習で学んだことを継続することが難しい生徒も中にはいた。そこで「職業」という授業を週に１コマ設定することによって将来働く意欲の向上を図るとともに、これまでは個別に指導することも多かった、働くうえでの健康管理や求人票の見方、履歴書の書き方、面接試験の受け方等を、継続して教えていくことができるのではないかと考えた。新たな教科を追加するということで担当に関しても検討し、１年めは進路指導部の教員が受け持ち１年をかけて作成した年間指導計画や個別の指導計画、教材等を次年度に引き継ぐことで誰でも教えられるように準備を進めることとした。教科書としては「ひとりだちするための進路学習ーあしたへのステップー」と「見てわかるビジネスマナー集」を選定し、職業の授業は今年で２年めになる。進路指導主事経験のある教員が受け持つことで、自身の経験を活かすことや、最近の傾向も踏まえながら授業を進められるので、生徒にとって身近な事柄として意識しやすいのではないかと感じている。先日の求人票の見方の授業では、週休２日制と表記があることに対して「土日が休みという意味ですよね？」と質問した生徒や、「就業時間×時給で給料は計算するんですよね？」と言う生徒がいた。週休２日制は土日に限らないこと、就業時間には休憩時間が含まれるため休憩時間を引いて計算する必要があることを知り、詳細まで確認する必要性を感じられたのではないかと考える。来年度以降も生徒にとって効果的な授業になるよう、進路指導部以外の教員が教えられるように、授業のノウハウの伝

達や他の教科等との連携も含め、工夫改善することが必要である。

（２）選択授業について

平成 29 年８月の「高等学校における支援教育推進フォーラム」の中で、明星大学島田教授の講演「障がいのある生徒の社会的自立や社会参加に向けた支援～ＱＯＬの向上のために～」があった。内容としてはキャリア教育の定義や課題、ノーマライゼーションについて等が挙げられる。その講演の中で特に勉強になったのは、「ライフキャリアとワークキャリアのバランスが大切である。」ということである。職業生活に必要なスキル等のワークキャリアの指導内容に関しては非常に詳細でよくできている学校が多いことを踏まえつつ、「暮らす・楽しむ」といったライフキャリアの重要性についても触れていた。具体的には「ライフキャリアの中でも余暇スキルが大切であり、余暇の充実はストレスマネジメントや地域生活における社会参加、リスクマネジメントにもつながる。生活の質（ＱＯＬ）を高められるような取り組みが大切である。」という内容だった。

この講義を受けて高等部で検討を進め、２年生からコース制が始まるのに合わせて「余暇の充実」を目的とした選択授業に取り組み始めることにした。授業の目標としては、①興味のある取組みを自分で選択して実践することにより主体的な学びの機会を持つ。②自分たちで考え相談し、取り組み内容を決定する過程から経験することで生徒たちの思考力や判断力、表現力や調整力を育む。の２点を設定した。平成 30 年度は２年生のみが取り組み、スポーツ、ダンス、情報、ミュージック、アート、クラフト、レクリエーションの７種目の中でアンケートを取り、第一希望に収まるよう分かれて活動した。班によって差異はあるが、全員が楽しめる取り組み内容を決めるところから生徒たち同士で相談しながら決定することで、自主的で対話的な活動につなげることができた。年度の終わりの学年集会の場で生徒たちに感想を聞いたところ、概ね７～８割程度の生徒たちが「楽しかったので来年も継続して選択授業に取り組みたい。」という好意的な感想を抱いていた。こういった活動が生徒たちにとって息抜きの仕方を考え主体的に実践する場となり、卒業後の社会生活がメリハリのある充実したものになるよう生きてくることを期待している。令和元年度は２年生（スポーツ、音楽、ゲーム、リラクゼーション、クラフト）と３年生（スポーツ、ダンス、情報、ミュージック、アート、クラフト、レクリエーション）が選択授業に取り組んでいる。６時間めは更衣の時間が必要なため６時間めに取り組んでいる学年の活動時間が少ないという課題もあるので、来年度以降改善策が必要であると感じている。

（３）就職者数及び就職希望者数の変化について

平成 27 年度より検討を進め、平成 29 年度入学生から本格実施をしてきたコース制も今年で３年めとなり、一つの区切りとなった。ここでは、この３年間の就職者数や各学年の希望者数の変化【表１】をもとに、研究成果と課題をまとめていきたい。

		第１学年 (H27 年３月調査)	第２学年 (H28 年３月調査)	第３学年 (H29 年３月調査)	就職者数 就職率 (H29 年 12 月現在)
平成 29 年度卒業生 (52 名)	就職希望者数	10 名	５名	６名	６名
	就職希望者の割合	19%	10%	12%	12%

		第１学年 (H28 年３月調査)	第２学年 (H29 年３月調査)	第３学年 (H30 年３月調査)	就職者数 就職率 (H30 年 12 月現在)
平成 30 年度卒業生 (38 名)	就職希望者数	３名	６名	５名	５名
	就職希望者の割合	８％	16%	13%	13%

		第１学年 (H29 年３月調査)	第２学年 (H30 年３月調査)	第３学年 (R 元年３月調査)	就職者数 就職率 (R 元年 12 月現在)
令和元年度卒業生 (69 名)	就職希望者数	10 名	11 名	10 名	11 名
	就職希望者の割合	14%	16%	14%	16%

各年度の生徒数は異なるが年度ごとの就職率は増加している。各学年の就職希望者数（率）についても、僅かな増減はあるが、年度毎に見ると増加している。就職希望者数（率）の増加は就労意欲が高められた結果であると考える。さらに、入学時からコース制の対象となっている平成 29 年度入学生（令和元年度卒業）キャリアアップコース在籍生徒の就職状況を見ると、13 名中７名の就職が決まっており（令和２年２月現在）、うち２名は３年生からキャリアアップコースに入り学習している生徒である。また、キャリアアップコース以外で学習している生徒の就職者は４名で、これらは本校コース制の基本的な考え方である、生徒の発達段階や興味・関心に応じた取組みが一定の成果としてあったと考えられる。数字以外の成果では、作業日誌や評価表の導入、生野メッセの開催により、教員がこれまで以上に生徒一人ひとりの卒業後の生活を意識した支援を行う意識が高まったと共に、支援の考え方やその方法を短期間で改善できる機会ができた。生徒にとっては、作業日誌を書くことで毎時間の成果や課題を確認することができ、次回への活動意欲を高めるきっかけとなった。また、過去の日誌を確認することで自分の成長を客観的に感じ、キャリアパスポートとして効果的に活用することもできた。

このように、今回の取組みで一定の成果がある反面、今後の課題についても出てきた。

まず、平成 30 年度と令和元年度（平成 31 年度）それぞれの２年生時と３年生時の就職希望者を比べると、どちらも１名減になっている。これは、３年生時の企業実習に参加した結果、卒業後は就労移行支援事業所でもう少し経験を積んでから就職すると判断した生徒であり、就労意欲と共に就労に必要な力をより身につけることができるように内容を改善

する必要があると考えられる。

次に、就職した生徒の離職率が上げられる。平成 30 年度就職者５名中２名が令和元年 12 月現在までに辞めている現状があり、今後は仕事を続けることができる取組みも検討していく必要がある。最後に、現在の取組みの多くが高等部中心の活動になっており、今後は学校全体で早い発達段階から、卒業後の生活を意識した取組みをしていく必要があることが上げられる。

３つめの課題は特に重要と考えており、今回の教育課程改善事業の一環で７月に実施した、通学区域の事業所を対象とした、「事業所合同説明会」では小学部、中学部の保護者も参加しており、早い段階から卒業後の生活を意識している現状がある。また、早い段階からの支援はその他の課題の改善にも役立つものと考える。

平成 31 年度で教育課程改善事業の取組みは一区切りとなるが、これらの課題を踏まえ今後も生野支援学校の児童生徒の実態に合った取組みを進めていきたい。

おわりに

〇教育課程改善事業研修の実施

この事業を受けるにあたり、さまざまな関係機関の方々にご協力をいただいた。直接生徒に関わる授業に関しては、高槻支援学校と堺支援学校から助言を受け、新学習指導要領については大学教授から指導を賜った。

（１）高槻支援学校の実践に学ぶ（平成 29 年度）

本校のキャリアアップコースの取組み内容の１つである清掃は、高槻支援学校の取組みを参考にした。高槻支援学校はほうきやダスタークロス、スクイージーや台拭きなどをマニュアル化して誰もが同じ方法で清掃に取り組めるよう工夫している。また、生徒たちが向上心を持って取り組めるよう校内清掃技能検定を作成し、計画的に取り組んでいる。この２年間で本校からも数回、高槻支援学校の授業見学をさせていただいた。また、昨年度は職業コース担当の教員をお招きして本校教員のための清掃技能研修会を行っていただいた。これら高槻支援学校の取組み内容や清掃マニュアル、技能検定をベースに本校版に改良し取り組んでいる。来年度は高槻支援学校の接客マニュアルを参考に本校でも喫茶に取り組んでいく予定である。

（２）堺支援学校の実践に学ぶ（平成 29 年度）

堺支援学校には職業コースの始まり（２年次）から終わり（卒業）までの本校の方針や取り組み内容、流れについて説明しそれに対するアドバイスを頂いた。また堺支援学校の方では、某事業所のものを参考に「キャリア育成プラン」という５段階のステージ表を作っており、高等部入学から卒業までの３年間を見据えた計画表になっている。その計画表には時期と達成目標が示されていて、とても参考になった。堺支援学校の取組みの中で特に印象に残っているのは外部イベントへの参加である。堺支援学校は地域とも密着しており、ガシ横マーケットプラスというイベントに年３回、高齢者ケアセンターの文化祭に年１回参加している。ガシ横マーケットプラスでは加工食品（ジャム等）や雑貨を販売したりイベントの手伝いをしたりしている。また高齢者ケアセンターの文化祭では野菜・雑貨販売や輪投げ等のイベントを手伝うことで、さまざまな人と接する中で成長を図る機会になっている。また、堺支援学校では生徒に対しての取組みに加えてＰＴＡの協力も仰ぎながら保護者向けに福祉サービス事業所合同説明会を開いており、卒業後の進路について早期から考えてもらえるよう工夫しているのもとても参考になった。

（３）教育課程の編成と学習指導要領の改訂を学ぶ（平成 30 年度）

梅花女子大学教授　閑喜美史様をお招きして、次期学習指導要領の研修会を行った。その研修会の中で、新学習指導要領では各教科・領域というワードはなくなり各教科、道徳・・・

と続くことや、評価の観点が３観点（知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度）にまとめられたこと、「何が身に付いたのか」「何ができるようになるのか」等生徒が主体の表現に変わっていることなどを教えていただいた。実践後は指導計画の評価と改善を行い、教育課程の評価と改善につなげることでカリキュラムマネジメントが行えるということも今後本校でもますます取り組んでいかなければならない課題である。

また、閑喜教授からは次期学習指導要領のテーマである「主体的・対話的で深い学び」についても詳しい説明があった。「アクティブラーニング」というワードにも触れ、児童生徒の成長には（教員による）他者評価だけではなく、自己評価やお互いに振り返りを行う相互評価が大切だと教えていただいた。その他にも閑喜教授から他の都道府県の取組みやＩＣＴの活用等の講話を聞けたことは本校の実践を進めていく上でとても貴重な機会となった。

（４）教育課程改善事業運営協議会①（平成 30 年度）

大阪教育大学教育学部 須田正信特任教授、関西大学学生相談室 植並鈴枝相談員、大阪市キャリア教育支援センター 渡部猛ジョブアドバイザー、社会福祉法人慶生会瑞光園 永井正枝常務の４名をお迎えして協議会を行った。この協議会では大きく２つキャリアアップコースの取組みと、教育課程の見直しについて進捗状況を報告し、ご意見をいただいた。

キャリアアップコースの取組みに関しては、生徒たちが清掃や印刷作業を進める上で、自分たちで役割分担しながら授業を進めていくことや、お互いの清掃を見て自分たちで振り返り、改善を行うというアクティブラーニングの観点での授業作り、新しい取組みである校外清掃実習の報告をした。委員の方からは、自主的で対話的で深い学びという観点から、従来通りの教員による評価だけではなく、自分自身で振り返ることや友だちから振り返りをもらうというような多面的な評価が、児童生徒の成長には大事だという意見をいただいた。質問としては、「実習先の開拓を誰がするのか」「キャリアアップコースに入るための基準はあるのか」などの質問が出た。実習先に関しては教育課程改善アドバイザーが地域を歩いて探し、その後担当者が資料を持って改めて説明に行ったことをお伝えし、キャリアアップコースに入るための基準は自力通学生徒の中から希望を募り、アセスメント実習を経て決定していることを報告した。委員からは児童生徒の興味関心に応じて班分けを行うことが望ましいとの意見をいただいた。

（５）教育課程改善事業運営協議会②（平成 31 年度）

関西国際大学大学院より、人間行動学研究科の花熊曉教授にお越しいただき、本校の教育課程改善事業の取組みについて報告し、ご意見をいただいた。

まず、「職業コースの充実」という点では、清掃実習や販売学習の様子を、写真を交えて報告した。清掃実習については、校内での培った清掃技術を校外で実践するという取り組みを行っており、地域の高齢者施設２か所にご協力をいただいて清掃をさせてもらっていることや、保護者向けに販売学習を始めたことを報告した。

次に、「キャリア教育マトリクス」に関して、作成に向けての取組みや年間指導計画への落とし込みについて報告した。キャリア教育指導目標や、キャリア教育を通して児童生徒につけたい力の段階を、「小学部・中学部・高等部」ではなく、「第１段階・第２段階・第３段階」としたことに、児童生徒一人ひとりの発達や課題に沿ったものとして活用できるとのご意見をいただいた。

花熊教授のお話の中では、様々な課題についてご教授いただいた。発達段階が高い子どもの入学が増えてきた一方で、障がいの程度が重い子どもも増えてきている現状での教育課程の課題として、「各子どもの発達段階やニーズに合わせた教育」と「発達段階で分断されない教育」ということをあげられ、その中で、児童生徒に必要な視点を、「発達段階（知識・技能）」「子どもの特性（適性）」「活動内容（イベントの性質）」と、具体的な活動を考える上での３つの軸として考える必要があるということであった。

児童生徒の『内面』を育てるにあたっては、「活動の中で、常に子どもが「考える機会」を用意する。」「自分で活動を計画・運営する力を育てる。」「子どもの自己評価の機会を用意する。」「「社会的役割意識」が育つ活動を用意する。」といったことを意識するようにとご意見をいただいた。

資料１

令和元年度大阪府立生野支援学校キャリア教育マトリクス

学　校　教　育　目　標
・日常生活に必要な知識・習慣・技能を身に付ける。　・健康な身体と明るい態度を養う。　・社会の一員として強く生きる人間に育てる

キ ャ リ ア 教 育 指 導 目 標
・児童生徒を的確に把握し、自立に向けての可能性を伸ばせられるよう、個に応じた教育活動を行う。（支援計画の部分） ・社会自立に向けて必要となる力を的確に把握し、日々の学校生活全体を通して取り組む。（各教科、行事での取り組みの部分） ・児童生徒の課題に応じたキャリア教育および道徳心・社会性の育成を図る。（キャリア、道徳心） ・健康で安全な生活習慣の向上を図る。 ・公的機関、企業や福祉施設などと連携し、児童生徒の職業観、勤労観の向上に努める。（外部との連携）

第１段階	第２段階	第３段階
a体力づくりを図るとともに、基本的生活習慣を身に付ける。 b学習活動を通して、いろいろなことに興味・関心をもち、友だちとの関わり方や自分の思いを伝える力を養う。 c自分の周りの人に関心をもち、自分の役割や係活動に積極的に関わろうとする態度を育てる。 d地域社会の中での体験的な学習を通して、様々な仕事に興味・関心をもつ。	a体力を増進し、基本的な生活習慣を身に付ける。 b学習活動を通して、興味・関心を広げ、自分の思いを伝える力を伸ばす。 c様々な活動を通して、身の回りの仕事や環境への興味・関心を深め、職業への夢や希望、憧れの気持ちを育てる。 d地域社会の中で人とのつながりを大切にしながら多くの体験をし、社会生活に必要な基礎的な力を身に付ける。	a社会自立に向けて日常生活、社会生活に必要な基本的な生活習慣を身に付ける。 b様々な学習活動を通して、自分で考え行動する力、友だちと協力する姿勢、自分の思いや要求を伝える力を伸ばす。 c実習を通して個々の力を高めるとともに、卒業後の生活を具体的にイメージし、自分の将来について考えられるよう適切な指導、援助を行う。 d地域社会の中で人とのつながりを大切にしながら多くの体験をし、将来の生き方、進路について考える。

キャリア教育を通して児童生徒につけたい力

	第１段階	第２段階	第３段階
人間関係形成・社会形成能力	＜人とのかかわり＞ ①色々なことに、興味・関心をもつ。 ②友だちと一緒に行動する。 ＜集団参加＞ ③集団に楽しく参加する。 ＜意思表現＞ ④自分なりの方法で、自分の気持ちを伝える。 ＜あいさつ・清潔・身だしなみ＞ ⑤あいさつや返事をする。 ⑥持ち物の整理、清潔や身だしなみに気をつける。	＜自己理解・他者理解＞ ①「分かった」「できた」という経験を通して自分の能力や適性を知る。 ②相手の気持ちを考えて行動する。 ＜協力、協同＞ ③様々な学校行事や授業において友だちと協力して活動に取り組む。 ④与えられた仕事に責任を持って取り組む。 ⑤生活の決まりやルールを守る。 ＜意思表現＞ ⑥理解できる言葉を増やし、自分の気持ちを言葉で伝える。 ⑦困った時に手助けを求める。 ＜場に応じた言動＞ ⑧学校生活の場に応じた言葉遣いやあいさつをする。 ⑨身だしなみを整える。 ⑩持ち物の整理をする。	＜自己理解・他者理解＞ ①実習や作業を通して自分の能力や適性を知る。 ②他者を尊重し、思いやりの心をもつ。 ＜協力、協同＞ ③様々な学校行事に自分たちで主体的に取り組んでいく姿勢を身に付ける。 ④清掃活動を通じて、与えられた仕事に対する責任感を育む。 ⑤就労に向けたマナーやエチケットについて考える。 ＜意思表現＞ ⑥自分の意思を伝えるスキルを身に付け、適切に相手に伝える。 ⑦自分の悩みを伝え、必要な支援を求める。 ＜場に応じた言動＞ ⑧社会生活に必要な言葉遣い、あいさつ、返事をする。 ⑨服装、身だしなみを自分で判断し、適切に行う。 ⑩持ち物の整理や管理をする。
情報活用能力	＜様々な情報への関心＞□ ①周りの人の仕事や役割に興味をもつ。 ②必要な情報を、人に聞いたり調べたりして知る。 ＜社会資源の活用とマナー＞ ③公共施設や、公共交通機関などの利用方法を知る。 ④簡単なルールを守り、友だちと遊ぶ。 ＜金銭の扱い＞ ⑤お金を使って買い物することに慣れる。 ＜はたらくよろこび＞ ⑥係活動や当番活動などの役割を果たす。	＜情報収集と活用＞ ①身近な情報に興味・関心をもち、調べたり活用したりする。 ②興味のある情報がどこにあるかを知り、活用する。 ＜社会資源の活用とマナー＞ ③公共施設や、公共交通機関などの利用方法を学び、マナーを守って利用する。 ＜金銭の扱いと管理＞ ④買い物学習を通して、お金の大切さを学び、計画的に購入する方法を学ぶ。 ＜役割の理解と働くことの意義＞ ⑤与えられた仕事を責任持って最後まで行う。 ⑥担当した仕事を通して達成感や満足感を味わう。	＜情報収集と活用＞ ①政治・経済、文化など興味を持ち、職業生活に必要な事柄を調べる。 ②必要な情報を得るために様々な方法を活用する。 ＜法や制度の活用＞ ③福祉や公共交通機関等の制度について知り、活用する。 ④選挙制度や身近な法律について知る。 ＜消費生活の理解＞ ⑤チラシや求人票の情報を読み取る。 ⑥計画的な消費をし、自分で管理する。 ＜役割の理解と働くことの意義＞ ⑦様々な職業が社会や生活に果たしている役割及びその意義を理解する。
将来設計能力	＜習慣形成＞ ①基本的な生活習慣を身に付け、体力を養う。 ②学校生活の流れに沿って、行動する。 ＜夢や希望＞ ③身近な職業や働く人に関心をもつ。 ＜やりがい＞ ④好きな活動に、最後まで楽しんで取り組む。	＜習慣形成＞ ①日常的な体力の増進や生活のリズムを整え、遅刻・欠席しない体力を養う。 ②始業時間や終了時間を意識して行動する。 ＜夢や希望＞ ③どんな職業があるかを知り、自分の将来や憧れの職業をイメージする。 ＜生きがい・やりがい＞ ④自分の好きな活動に対し、自発的に楽しんで取り組む ＜進路計画＞ ⑤卒業後の進路選択について知り、高等部の実習や授業見学を通して、自分の進路について考える。	＜習慣形成＞ ①社会生活を送るために必要な習慣（報告・連絡・相談、わからない時は自分から聞く等）を形成する。 ②余暇の時間を有意義に活用できるよう取り組む。 ＜夢や希望＞ ③卒業後の生活を思い描き新しい生活へ期待をもつ。 ＜生きがい・やりがい＞ ④作品作りを通して、働く意識を高める。 ⑤技能検定を受けることで、向上心をもって意欲的に取り組む姿勢を身に付ける。 ＜進路計画＞ ⑥卒業までの進路の流れを知り、自立に向けての意識を高める。
意思決定能力	＜目標設定＞ ①自分で決めた活動に取り組む。 ②係活動や清掃活動において、目標を決めて取り組む。 ＜自己選択＞ ③好きな物や遊び、活動を選び取り組む。 ＜振り返り＞ ④活動の後に、楽しかったことなどを振り返る。	＜目標設定＞ ①自分の決めた目標に向けて、自分で課題を解決しようとする意欲をもつ。 ②目標を設定し、達成した時のやり遂げた成功体験を積みあげる。 ＜自己選択（決定・責任）＞ ③日ごろの活動において、興味のある物を自己選択・自己決定する。 ④進路について、見学や体験をもとに、進路先を主体的に選択する。 ＜肯定的な自己評価＞ ⑤様々な活動に参加し、成功した時、失敗した時の振り返りを行い、改善点を考える。 ＜自己調整＞ ⑥思い通りに進まない時の気分転換方法を身に付ける。 ⑦様々なトラブルに対して対処方法を身に付ける。	＜目標設定＞ ①社会自立に向けて自分の課題を立て、その達成に向けて取り組む。 ②実習担当より実習の意義について話を聞き、実習の心構えを養う。 ＜自己選択（決定・責任）＞ ③自分の興味、関心に応じた係や委員会を選択し、責任を持って活動を行う。 ④各種実習の経験を基に、自分の意思と責任で主体的に進路を選択する。 ＜肯定的な自己評価＞ ⑤学校行事に主体的に取り組むことで自信をもち、苦手なことにも取り組もうとする姿勢を身に付ける。 ⑥実習後、できたことや今後の改善点を自分で振り返るとともに他者の評価も参考に次に生かす。 ＜自己調整＞ ⑦ストレスを自分で解消する方法を考える。

資料２

平成29年度　年間指導計画

指導内容　（　　国　　語　　）　　（　Ｂ・Ｃ　）班			
月	１　年	２　年	３　年
4 5 6 7	・自分の名前を書写する。 ・ひらがな、カタカナ、漢字の練習をする。 ・絵カードなどを使い、物の名前を覚える。 ・濁音、半濁音を学習する。 ・しりとりをする。 ・読書に親しむ。 ・簡単な文章を音読する。 ・暑中見舞い状を書く。	・自分の名前を書写する。 ・大きな声であいうえおの発音練 習をする。 ・身近な物の名前を知る。 ・濁音、半濁音を学習する。 ・サインペンや鉛筆を使って、いろいろな線を書く。 ・絵本を音読する。 ・ひらがなを書く練習をする。 ・暑中見舞い状を書く。	・担任の先生や新しい先生の名前を書写する。 ・ひらがな、カタカナ、漢字の練習をする。 ・質問に対して答える力をつける。 ・絵カードなどを使って身近な物の名前を知る。 ・行事毎に振り返りを行い、感想を発表したり書いたりする。 ・絵本の読み聞かせや音読をする。 ・暑中見舞い状を書く。
9 10 11 12	・ひらがな、カタカナ、漢字の練習をする ・拗音、促音、撥音を学習する。 ・絵カードなどを使い、物の名前を覚える。 ・動詞、形容詞を学習する。 ・反対語を学習する。 ・年賀状を書く。	・カタカナを学習する。 ・身近な物の名前を知る。 ・促音、拗音を学習する。 ・物語に親しむ。 ・ひらがなを書く練習をする。 ・年賀状を書く。	・ひらがな、カタカナ、漢字の練習をする ・絵カードなどを使って身近な物の名前を知る。 ・質問に対して答える力をつける。 ・行事毎に振り返りを行い、感想を発表したり書いたりする。 ・絵本の読み聞かせや音読をする。 ・年賀状を書く。 ・卒業文集の作成。
1 2 3	・質問に答える練習をする。 ・カルタに親しむ。 ・本の読み聞かせや、音読をする。 ・毛筆を使って習字をする。	・ひらがなを書く練習をする。 ・カタカナを書く練習をする。 ・身近な物の名前を知る。 ・毛筆を使って習字をする。	・カルタに親しむ。 ・習字。 ・質問に対して答える力をつける。 ・行事の振り返りや１年間または、３年間の振り返りを行い、感想を発表したり書いたりする。 ・卒業文集の作成。

資料３－１

平成３０年度年間指導計画

学部	学年	教科及び領域	学習班等
小学部	２・３年	ことば・かず（グループ学習）	しろ

目標	・文章の読み書きができる。 ・分かりやすく伝えたり、相手の話を聞いたりする。 ・身近な数を理解する。
教科書	あいうえおべんとう、音の出る知育絵本１６とけいがよめるようになる！！とけいくん エリックカールの絵本、わたしだけのはらぺこあおむし

	単元（題材）目標	指導内容	評価規準	キャリアの観点
4月 5月 6月 7月	『ことば』 ・自己紹介や日記を通して、簡単な文章を書くことができる。 ・文章を発表したり、相手の話を聞いたりすることができる。 『かず』 ・日常生活の中で時間を意識することができる。 ・物の個数や順番を正しく数えたり、表したりすることができる。 『個別学習』 ・一人ひとりの課題に応じたプリント学習に取り組むことができる。	『ことば』。 ・自己紹介 ・簡単な文章の作成（２～３語文） ・発表 ・質問タイム 『かず』 ・時計読み方 ・具体物の位置（左右、前後、上下から何個目） 『個別学習』 ・プリント学習	『ことば』 ・自分で考えて簡単な文章を書くことができている。 ・文章を発表することができている。 ・相手の話を聞くことができている。 『かず』 ・1～60 の数字を読み書きすることができている。 ・長針と短針の意味を理解している。 ・○時○分を時計で表し、時間を読むことができている。 ・具体物の位置を自分なりの言葉で説明することができる。 『個別学習』 ・課題に集中して取り組んでいる。	１－人間④
9月 10月 11月 12月	『ことば』 ・作文や日記を通して、簡単な文章を書くことができる。 ・文章を発表したり、相手の話を聞いたりすることができる。 『かず』 ・さまざまなものの数え方や順番の表し方を知る。また、人に位置を正しく伝えることができる。 『個別学習』 ・一人ひとりの課題に応じたプリント学習に取り組むことができる。	『ことば』 ・作文 ・発表 ・質問タイム 『かず』 ・カレンダー（日付、曜日） ・物の数え方 ・具体物の位置（左右、前後、上下から何個目） 『個別学習』 ・プリント学習	『ことば』 ・テーマにそった文章を書くことができている。 ・文章を発表することができている。 ・相手の話を聞くことができている。 『かず』 ・日付を正しく伝えることができている。 ・具体物の位置を左右、前後、上下と数字を使って、言葉で説明することができている。 『個別学習』 ・課題に集中して取り組んでいる。	１－人間④
1月 2月 3月	『ことば』 ・作文や日記を通して、簡単な文章を書くことができる。 ・文章を発表したり、相手の話を聞いたりすることができる。 『かず』 ・かずの合成で、記号を使って表すことができる。また、繰り上がりのない１桁＋１桁の足し算ができる。 『個別学習』 ・一人ひとりの課題に応じたプリント学習に取り組むことができる。	『ことば』 ・作文・日記 ・発表 ・質問タイム 『かず』 ・かず数え ・足し算 『個別学習』 ・プリント学習	『ことば』 ・自分で考えて簡単な文章を書くことができている。 ・文章を発表することができている。 ・相手の話を聞き、内容に関する質問に答えることができている。 『かず』 ・合わせたかずを数えることができている。 ・式で表すことができている。 『個別学習』 ・課題に集中して取り組んでいる。	１－人間④

資料３－２

平成３０年度年間指導計画

学部	学年	教科及び領域	学習班等
中学部	１年	合科（ことば・かず・せいかつ）	Ｂ２

目標	・様々な学習活動を通して、観る、聴くなどの力を身に付けることができる。 ・生活に関する基本的な事柄を理解することができる。
教科書	ブルーナのアイディアブックミッフィーのあいうえお　小学館の子ども図鑑プレＮＥＯ楽しく遊ぶ学ぶせいかつ図鑑　すうじのおけいこえほん 改訂新版体験を広げるこどものずかん４はなとやさい・くだもの　いっしょにうたおうはじめてのえいご③（ＣＤ付）

	単元（題材）目標	指導内容	評価規準	キャリアの観点
4月 5月 6月 7月	・開始、終了の挨拶ができる。 ・呼名に対し、その方向へ視線を向け適切な返答ができる。 ・着席して取り組む課題には、着席して取り組む。 ・授業に集中して取り組むことができる。 ・季節を感じる。 ・行事等を確認し見通しをもつ。 ・自分の名前を漢字で書くことができる。 ・学校生活で使う漢字の読み書きができる。 ・指示された語句を聞き分けることができる。 ・インターネットを使った情報検索をすることができる。 ・数の理解ができる。 ・暑中見舞いの作成と投函を通して郵便の仕組みや日本の文化を知る。	・あいさつ ・出席確認 ・サイレントタイム ・『観る』『聴く』学習 ・行事カレンダー作り ＜４月＞ ・自己紹介　　・学校探検 ・“春”をさがしに ・数字（１０までの数字） ＜５月＞ ・自分の名前の漢字 ・校外学習の行き先を調べ（インターネット検索） ＜６月＞ ・カレンダーの日付の読み方 ・同じ数（文字と数のマッチング） ＜７月＞ ・曜日の漢字 ・暑中見舞いの作成と投函	・視線や姿勢を意識し挨拶ができている。 ・指示を理解し、課題に取り組むことができている。 ・指示された語句を聞き分けることができている。 ・校内にある植物を観察したり、行事などを学んだりすることで季節を知ることができている。 ・カレンダーの作成を通して、学校行事や季節に関する行事等を確認することで先の見通しや季節の移り変わりに興味・関心を持つことができている。 ・自分の名前を漢字で書くことができている。 ・情報機器を使用し、目的に合わせて検索することができている。 ・数の理解ができている。 ・季節に応じたハガキの書き方があることや郵便の仕組みを理解できている。	１-人間⑤ ２-人間① １-人間① ２-情報①② ２-人間①
9月 10月 11月 12月	・開始、終了の挨拶ができる。 ・呼名に対し、その方向へ視線を向け適切な返答ができる。 ・着席して取り組む課題には、着席して取り組む。 ・授業に集中して取り組むことができる。 ・指示された語句を聞き分け書くことができる。 ・季節を感じる。 ・行事等を確認し見通しをもつ。 ・学校生活で使う漢字の読み書きができる。 ・アルファベットの大文字の読み書きができる。 ・数の理解ができる。 ・年賀状の作成と投函を通して郵便の仕組みや日本の文化を知る。	・あいさつ ・出席確認 ・『観る』『聴く』学習 ・行事カレンダー作り ＜９月＞ ・夏休みの課題の復習 ・数のマッチング、並べる ＜１０月＞ ・教科名の漢字 ・アルファベット大文字の読み書き ・数の大小、○番目 ＜１１月＞ ・教科名の漢字 ・アルファベット大文字の読み書き ・数の合成、分解 ＜１２月＞ ・アルファベット大文字の読み書き ・年賀状の作成と投函 ・数の加算	・視線や姿勢を意識し挨拶ができている。 ・指示を理解し、課題に取り組むことができている。 ・カレンダーの作成を通して、学校行事や季節に関する行事等を確認することで先の見通しや季節の移り変わりに興味・関心を持つことができている。 ・指示された語句を聞き分けることができている。 ・アルファベットの大文字の読み書きができている。 ・学校で使用する教科名を漢字で書くことができている。 ・数の理解ができている。 ・季節に応じたハガキの書き方があることや郵便の仕組みを理解できている。	１-人間⑤ ２-人間① １-人間① ２-人間①
1月 2月 3月	・開始、終了の挨拶ができる。 ・呼名に対し、その方向へ視線を向け適切な返答ができる。 ・着席して取り組む課題には、着席して取り組む。 ・授業に集中して取り組むことができる。 ・季節を感じる。 ・行事等を確認し見通しをもつ。 ・アルファベットの大文字、小文字の読み書きができる。 ・インターネットを使った情報検索をすることができる。 ・数の理解ができる。	・あいさつ ・出席確認 ・『観る』『聴く』学習 ・行事カレンダー作り ＜１月＞ ・アルファベット大文字と小文字の読み書き ・数の加算 ・校外学習の行き先を調べ（インターネット検索） ＜２月＞ ・教科の漢字を使って時間割表 ・アルファベット小文字の読み書き ・数の減算 ＜３月＞ ・アルファベット小文字の読み書き ・数の減算 ・１年間のまとめ	・視線や姿勢を意識し挨拶ができている。 ・指示を理解し、課題に取り組むことができている。 ・カレンダーの作成を通して、学校行事や季節に関する行事等を確認することで先の見通しや季節の移り変わりに興味・関心を持つことができている。 ・指示された語句を聞き分けることができている。 ・アルファベットの大文字、小文字の読み書きができている。 ・情報機器を使用し、目的に合わせて検索することができている。 ・数の理解ができている。	１-人間⑤ ２-人間① １-人間① ２-情報①② ２-人間①

資料３－３

平成３０年度年間指導計画

学部	学年	教科及び領域	学習班等
高等部	３年	国語	D

目標	・自分の思いを、正確に文章に表現することができる。 ・自分の思いを他者に伝えることができ、他者の思いを聞くことができる。
教科書	ひとりだちするための国語（日本教育研究）

	単元（題材）目標	指導内容	評価規準	キャリアの観点
4月	・漢字を正しく読み書きする。	・「漢字」	・ひらがなを見て、正しく漢字に書き換えている。 ・漢字を見て、正しくひらがなで読みを答えている。	２－人間⑥
5月	・正しく文章を組み立てる。	・「作文」	・ことばのきまりにしたがって正しく文章を書いている。 ・体験したことを、正確に文章に表現している。	３－人間⑥ １－意思④
6月	・皆の前で自信を持って発表を行う。	・「発表」	・聞く人が聞き取りやすい声の大きさで発表している。	３－人間⑥
	・他者の発表を正確に聞き取ることができる。	・「聞き取り」	・聞きながら、聞いた内容を正確にメモにとることができている。	１－情報②
7月	・他者に質問をしたり、それに対して答えたりする力をつける。	・「質疑応答」	・人の話を興味を持って聞いている。 ・疑問に思ったことを質問している。	３－人間②
9月	・日本の文化の知見を深める。	・「日本の文化」	・文化について知ろうとしている。	１－人間①
	・漢字を正しく読み書きする。	・「漢字」	・ひらがなを見て、正しく漢字に書き換えている。 ・漢字を見て、正しくひらがなで読みを答えている。	２－人間⑥
10月	・正しく文章を組み立てる。	・「作文」	・ことばのきまりにしたがって正しく文章を書いている。 ・体験したことを、正確に文章に表現している。	３－人間⑥ １－意思④
11月	・皆の前で自信を持って発表を行う。	・「発表」	・聞く人が聞き取りやすい声の大きさで発表している。	３－人間⑥
12月	・他者の発表を正確に聞き取ることができる。	・「聞き取り」	・聞きながら、聞いた内容を正確にメモにとることができている。	１－情報②
	・他者に質問をしたり、それに対して答えたりする力をつける。	・「質疑応答」	・人の話を興味を持って聞いている。 ・疑問に思ったことを質問している。	３－人間②
1月	・書初めを通し、日本の文化に親しむ。	・「書初め」	・毛筆を使い、上手に意欲的に書初めを行っている。	１－人間①
2月	・百人一首を通し、日本の文化に親しむ。	・「百人一首」	・和歌の音律に親しみ、皆でゲームを楽しんでいる。	１－人間① ３－人間②
3月				

資料３－４

平成３０年度年間指導計画

学部	学年	教科及び領域	学習班等
高等部	３年	数学	E

目標	社会に参加する上で必要な数学の知識を身につける。
教科書	なし

	単元（題材）目標	指導内容	評価規準	キャリアの観点
4月	・10%の計算ができる。	・目標に沿った「プリント学習」	・指導者の話を落ち着いて聞いている。 ・集中してプリント学習に取り組ことができている。 ・10%の計算ができている。	1-人間⑤ 1-人間⑦ 1-人間①
5月	・1割、10%、×1/10、÷10の計算方法を理解する。 ・1割、10%、×1/10、÷10の計算ができる。	・目標に沿った「プリント学習」	・指導者の話を落ち着いて聞いている。 ・集中してプリント学習に取り組ことができている。 ・1割、10%、×1/10、÷10の計算ができている。	1-人間⑤ 1-人間⑦ 2-人間①
6月	・10%単位の計算ができる。 ・割引の計算ができる。	・目標に沿った「プリント学習」	・指導者の話を落ち着いて聞いている。 ・集中してプリント学習に取り組ことができる。 ・10%単位の計算ができている。 ・割引の計算ができている。	1-人間⑤ 1-人間⑦ 2-人間① 2-情報①
7月	・四捨五入ができる。 ・数字を概算で言える。	・目標に沿った「プリント学習」	・指導者の話を落ち着いて聞いている。 ・集中してプリント学習に取り組ことができている。 ・四捨五入ができている。 ・数字を概算で言えている	2-人間⑤ 2-人間⑦ 2-人間① 2-人間①
9月	・文字式の概念を理解する。	・目標に沿った「プリント学習」	・文字式xが数字をあらわすラベルであることが理解できている。 ・文字式xをy,a,Bなどに変更しても同じように考えることができる。	1-人間① 1-人間⑦ 2-人間①
10月	・文字式の概念を理解する。 ・文字式を含んだ簡単な足し算、引き算ができる。	・目標に沿った「プリント学習」	・文字式xが数字をあらわすラベルであることが理解できている。 ・文字式を含む項と数字だけの項では計算できないことを理解している。	2-人間① 1-人間⑦ 2-人間①
11月	・文字式の概念を理解する。 ・エクセルの座標を見て正しい位置を見つけることができる。	・目標に沿った「プリント学習」	・文字式xが数字をあらわすラベルであることが理解できている。 ・色塗りを通して、セルの座標が文字式と同一であることを理解できている。	2-人間① 1-人間⑦ 2-人間①
12月	・エクセルの操作に慣れる。 ・エクセルの数式の仕組みを理解する。	・目標に沿った「パソコン学習」	・セルの色塗り、罫線を引くことができる。ショートカットキーを覚えている。 ・見本の自動計算ツールを見ながら同じものを作ることができている。	1-人間⑦ 1-情報② 2-人間① 3-人間⑥
1月	・エクセルの数式の仕組みを理解する。	・目標に沿った「パソコン学習」	・見本の自動計算ツールを見ながら同じものを作ることができている。 ・セルの番号とセルに入力した内容が、文字式と中に入るの数字と同じだということを理解する。	2-人間① 3-人間⑥ 2-人間①
2月	・エクセルの数式を使って四則計算ができるようになる。	・目標に沿った「パソコン学習」	・セル番号を含んだ計算をエクセルで使用できる。	2-人間① 3-人間⑥
3月	・エクセルで家計簿を作ることができる。	・目標に沿った「パソコン学習」	・セル番号を含んだ計算を自分で利用できている。 ・わからないことがあれば、自分で検索して調べることができている。	2-人間① 2-情報④ 3-情報②

資料３－５

平成３０年度年間指導計画

学部	学年	教科	学習班等
高等部	１年	日常生活・自立活動 （自立活動分野）	A・B・C・D・E

目標	・基本的な生活習慣の確立を目指す。 ・社会自立に向けて自分でできることを増やす（衣、食、住）。 ・それぞれの発達段階に応じて、コミュニケーション能力を向上させる。
教科書	なし

	単元（題材）目標	指導内容	評価規準	キャリアの観点
4月 5月 6月 7月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月	１．健康の保持 ＜衣・食・住＞ ・自分で更衣ができるようになる。 ・ファスナー、ボタンが自分でできる。 ・紐結びが自分でできる。 ・服をたたむ、ハンガーを使用するなどして衣服を自分で管理することができる。 ・旬の食べ物、地域の名産、他国の料理について興味を持ち、好き嫌いせずに食べられるようになる。 ・健康で安全な生活習慣を身に付ける。 ２．心理的な安定 ・自分の意見や思いを伝えられる。 ・他人の意見を尊重し、適切なコミュニケーションが図れるようになる。 ・１日、１週間の見通しを持って学校生活を送る。 ３．人間関係の形成 ・場と相手に応じた適切なあいさつができる。 ・身近な人の名前と顔を覚える。 ・手遊びを通じてコミュニケーションを図る。 ４．環境の把握 ・軽作業を通して巧緻性を高める。 ・自分の課題を把握し、改善できるよう努力する。 ・自分でできることを増やす。 ５．身体の動き ・ダンスやストレッチ等を通して身体の使い方を知る。 ・それぞれの体力に応じた運動習慣を身に付ける。 ６．コミュニケーション ・それぞれの発達段階に応じたコミュニケーションを図れるようになる。 ・社会生活に必要なモラルやマナーを身に付ける。	１．健康の保持 ・清潔指導 （手洗い、うがい、歯磨き指導等） ・清掃 ・体調の管理 ・衣服の着脱 ・自己管理 ２．心理的な安定 ・集団作り ・生活空間の構造化 ・スケジュールの確認 ３．人間関係の形成 ・あいさつ ・名札と写真 ・手遊び ４．環境の把握 ・手指の巧緻性 ・自己目標 ・靴の左右 ・時計の読み方、時間の使い方 ５．身体の動き ・運動動作を高める ・筋力の維持、強化 ・更衣 （ボタン、ファスナー、紐） ・給食指導 ６．コミュニケーション ・サイン、絵カード ・自分の名前、友だちの名前 ・日常会話スキル ・語彙と語句の拡充 ・要求の表し方 ・言葉遣い、電話対応 ・メモの取り方	１．健康の保持 ＜衣・食・住＞ ・自分で更衣ができている。 ・ファスナー、ボタンが自分でできている。 ・紐結びが自分でできている。 ・服をたたむ、ハンガーを使用するなどして衣服を自分で管理することができている。 ・旬の食べ物、地域の名産、他国の料理について興味を持ち、好き嫌いせずに食べられる。 ・健康で安全な生活習慣を身に付けている。 ２．心理的な安定 ・自分の意見や思いを伝えられている。 ・他人の意見を尊重し、適切なコミュニケーションが図れるようになっている。 ・１日、１週間の見通しを持って落ち着いて学校生活を送っている。 ３．人間関係の形成 ・場と相手に応じた適切なあいさつができている。 ・身近な人の名前と顔を覚えている。 ・手遊びを通じてコミュニケーションを図っている。 ４．環境の把握 ・軽作業を通して巧緻性を高まっている。 ・自分の課題を把握し、改善できるよう努力している。 ・自分でできることを増えている。 ５．身体の動き ・ダンスやストレッチ等を通して身体の使い方を知る。 ・それぞれの体力に応じた運動習慣を身に付けている。 ６．コミュニケーション ・それぞれの発達段階に応じたコミュニケーションを図れるようになっている。 ・社会生活に必要なモラルやマナーを身に付けている。	３－人間⑨ ３－人間④ ３－人間⑥、⑦ ３－意思①、④ ３－人間⑤

資料３－６

平成３０年度年間指導計画

学部	学年	教科	学習班等
高等部	１年	日常生活・自立活動 （日常生活の指導分野）	A・B・C・D・E

目標	・日常生活の諸活動を通して、健康的で望ましい生活習慣を付け、社会生活で必要な力を身に付ける。 ・他者と場に応じたコミュニケーションが図れる。 ・１日の流れに見通しを持って、学習や諸活動に取り組むことができる。
教科書	なし

	単元（題材）目標	指導内容	評価規準	キャリアの観点
4月 5月 6月 7月	・時間や月、曜日などを意識した活動ができる。 ・朝の会や終わりの会で、話の内容を適切に聞き取ったり、場に応じた話をしたりすることができる。 ・手洗いやうがいをする習慣をつけ、給食を通して食事のマナーや食物の栄養について考える。 ・登下校でのルールや公共交通機関等でのマナーについて考え、適切に利用できる。 ・自分の意見や思いを適切に伝えられる。	○朝の活動 ・登校時 あいさつ、整理整頓、 更衣、提出物、掃除、排泄 「朝の会」 あいさつ、健康確認、日付・天気、１日の予定、給食献立、日直、コミュニケーション活動等 「昼の活動」 食事マナー、栄養指導 清潔（手洗い、歯磨き、排泄） 余暇活動、係りの仕事 「終わりの会」 更衣、荷物管理、整理整頓 １日の振り返り、明日の予定、コミュニケーション活動、あいさつ、排泄 「下校時」 あいさつ	・生徒それぞれの課題に応じたあいさつができている。 ・見通しを持って、落ち着いて学校生活を送れている。 ・１人でできることが増えている（整理整頓、更衣、清潔、コミュニケーション） ・食物の栄養について知り、適切な食事のマナーができている。 ・電車やバス等への乗車マナーについて考え、適切に利用できている。 ・学校生活や登下校でのルールを守れている。 ・適切に自分の意見や悩み伝えられている。	３－人間⑧ ３－人間⑤⑨⑩ ３－将来② ３－情報③ ３－人間⑥⑦ ３－意思⑦
9月 10月 11月 12月	・時間や月、曜日などを意識した活動ができる。 ・朝の会や終わりの会で、話の内容を適切に聞き取ったり、場に応じた話をしたりすることができる。 ・手洗いやうがいをする習慣をつけ、給食を通して食事のマナーや食物の栄養について考える。 ・登下校でのルールや公共交通機関等でのマナーについて考え、適切に利用できる。 ・自分の意見や思いを適切に伝えられる。	○朝の活動 「登校時」 あいさつ、整理整頓、 更衣、提出物、掃除、排泄 「朝の会」 あいさつ、健康確認、日付・天気、１日の予定、給食献立、日直、コミュニケーション活動等 「昼の活動」 食事マナー、栄養指導 清潔（手洗い、歯磨き、排泄） 余暇活動、係りの仕事 「終わりの会」 更衣、荷物管理、整理整頓 １日の振り返り、明日の予定、コミュニケーション活動、あいさつ、排泄 「下校時」 あいさつ	・生徒それぞれの課題に応じたあいさつができている。 ・見通しを持って、落ち着いて学校生活を送れている。 ・１人でできることが増えている（整理整頓、更衣、清潔、コミュニケーション） ・食物の栄養について知り、適切な食事のマナーができている。 ・電車やバス等への乗車マナーについて考え、適切に利用できている。 ・学校生活や登下校でのルールを守れている。 ・適切に自分の意見や悩み伝えられている。	３－人間⑧ ３－人間⑤⑨⑩ ３－将来② ３－情報③ ３－人間⑥⑦ ３－意思⑦
1月 2月 3月	・時間や月、曜日などを意識した活動ができる。 ・朝の会や終わりの会で、話の内容を適切に聞き取ったり、場に応じた話をしたりすることができる。 ・手洗いやうがいをする習慣をつけ、給食を通して食事のマナーや食物の栄養について考える。 ・登下校でのルールや公共交通機関等でのマナーについて考え、適切に利用できる。 ・自分の意見や思いを適切に伝えられる。	○朝の活動 「登校時」 あいさつ、整理整頓、 更衣、提出物、掃除、排泄 「朝の会」 あいさつ、健康確認、日付・天気、１日の予定、給食献立、日直、コミュニケーション活動等 「昼の活動」 食事マナー、栄養指導 清潔（手洗い、歯磨き、排泄） 余暇活動、係りの仕事 「終わりの会」 更衣、荷物管理、整理整頓 １日の振り返り、明日の予定、コミュニケーション活動、あいさつ、排泄 「下校時」あいさつ	・生徒それぞれの課題に応じたあいさつができている。 ・見通しを持って、落ち着いて学校生活を送れている。 ・１人でできることが増えている（整理整頓、更衣、清潔、コミュニケーション） ・食物の栄養について知り、適切な食事のマナーができている。 ・電車やバス等への乗車マナーについて考え、適切に利用できている。 ・学校生活や登下校でのルールを守れている。 ・適切に自分の意見や悩みを伝えられているか。	３－人間⑧ ３－人間⑤⑨⑩ ３－将来② ３－情報③ ３－人間⑥、⑦ ３－意思⑦

資料３－７

校名　大阪府立生野支援学校（高等部）

特別活動及び学校行事

月	1年		2年		3年	
	学習活動	キャリアの観点	学習活動	キャリアの観点	学習活動	キャリアの観点
4月	委員会・係	３－人間① ３－意思③	委員会・係	３－人間① ３－意思③	委員会・係	３－人間① ３－意思③
	生徒会選挙	３－情報④	生徒会選挙	３－情報④	生徒会選挙	３－情報④
5月	校外学習 芸術鑑賞会	３－人間②③ ３－情報③ ３－将来②	宿泊学習 芸術鑑賞会	３－人間②③ ３－情報③ ３－意思③ ３－将来②	修学旅行 芸術鑑賞会	３－人間②③ ３－情報③⑥ ３－意思③ ３－将来②
6月	進路学習	３－人間⑤ ３－情報⑦ ３－将来①⑥	校内・校外実習	３－人間⑤ ３－情報⑦ ３－将来①⑥ ３－意思②⑥	校内・校外実習	３－人間⑤ ３－情報⑦ ３－将来①⑥ ３－意思②⑥
7月	学年集会	３－将来② ３－情報③	学年集会	３－将来② ３－情報③	学年集会	３－将来② ３－情報③
8月	施設見学	３－人間① ３－情報⑦ ３－意思④	施設見学	３－人間① ３－情報⑦ ３－意思④	施設見学	３－人間① ３－情報⑦ ３－意思④
9月	運動会	３－人間③ ３－意思⑤	運動会	３－人間③ ３－意思⑤	運動会	３－人間③ ３－意思⑤
10月	校内・校外実習	３－人間⑤ ３－情報⑦ ３－将来①⑥ ３－意思②⑥	校内・校外実習	３－人間⑤ ３－情報⑦ ３－将来①⑥ ３－意思②⑥	校内・校外実習	３－人間⑤ ３－情報⑦ ３－将来①⑥ ３－意思②④⑥
11月	文化祭	３－人間③ ３－意思⑤	文化祭	３－人間③ ３－意思⑤	文化祭	３－人間③ ３－意思⑤
12月	交流及び協同学習	３－人間②	交流及び協同学習	３－人間②	交流及び協同学習	３－人間②
1月	マラソン大会 携帯安全教室	３－人間③ ３－意思⑤ ３－人間②	マラソン大会 携帯安全教室	３－人間③ ３－意思⑤ ３－人間②	マラソン大会 携帯安全教室	３－人間③ ３－意思⑤ ３－人間②
2月	作品展 卒業生を送る会	３－将来④ ３－将来③	作品展 卒業生を送る会	３－将来④ ３－将来③	作品展 卒業生を送る会	３－将来④ ３－将来③
3月	振り返り		振り返り		振り返り	
通年	日常生活 自立活動	３－人間④⑩ ３－将来② ３－人間⑥⑧⑨ ３－意思①	日常生活 自立活動	３－人間④⑩ ３－将来② ３－人間⑥⑧⑨ ３－意思①	日常生活 自立活動	３－人間④⑩ ３－将来② ３－人間⑥⑧⑨ ３－意思①
	学校生活	３－人間⑦ ３－意思⑤⑦	学校生活	３－人間⑦ ３－意思⑤⑦	学校生活	３－人間⑦ ３－意思⑤⑦

資料4

年　　組（　　）

教　科		担 当 者	
年間目標			

前期	前期目標	
	学習内容	手立て・達成状況
後期	後期目標	
	学習内容	手立て・達成状況

資料５

【１年生】

A班手工

B班作業

C～G班作業
「木金工」
「窯業」
「縫工織物」
「環境」

【２～３年生】

トライコース
【生活基礎・総合コース】
・作業能力の基礎を養い、総合的な力をつける
・A手工に準ずる取り組み

チャレンジコース
【生活自立コース】
・作業を通して自立できる力を伸ばす
・B作業に準ずる取り組み

ワーキングコース
【職業総合コース】
・もの作りを通した職業教育
・作業学習に準ずる取り組み
※C～E班作業(窯業・縫工織物木金工)は種目変更の場合があります。

キャリアアップコース
【職業自立コース】
コミュニケーションや社会的な活動を通した職業教育

生徒の実態に応じた進路決定

資料6

平成３０年度　高等部２年　時間割

		月							火							水							木							金						
		A	B	C	D	E	F	G	A	B	C	D	E	F	G	A	B	C	D	E	F	G	A	B	C	D	E	F	G	A	B	C	D	E	F	G
1	8:50 ～ 9:30	日常生活の指導 ・自立活動							日常生活の指導 ・自立活動							日常生活の指導 ・自立活動							日常生活の指導 ・自立活動							日常生活の指導 ・自立活動						
2	9:35 ～ 10:15	トライコース	チャレンジコース	キャリアアップコース ワーキングコース					体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	トライコース	チャレンジコース	キャリアアップコース ワーキングコース					生活	音楽	家庭	英語	理科	数学	社会	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育
3	10:25 ～ 11:05								音楽	美術	数学	社会	職業	家庭	国語								美術	社理	数学	家庭	国語	理科	数学	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育
4	11:15 ～ 11:55								生活	美術	音楽	音楽	社会	国語	数学								美術	社理	職業	国語	家庭	英語	理科	生活	国語	理科	数学	音楽	音楽	家庭
		給食																																		
5	13:20 ～ 14:00	生活	社理	美術	美術	国語	数学	職業	生活	国語	国語	数学	音楽	音楽	美術	特別活動							体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	生活	数学	社会	職業	美術	美術	音楽
6	14:10 ～ 14:50	生活	国語	美術	美術	英語	職業	音楽	生活	音楽	英語	国語	数学	社会	美術	自立活動（道徳）							生活	数学	音楽	音楽	数学	国語	国語	音楽	社理	国語	理科	美術	美術	英語

資料7

ワーキングコース　　月　　日　　曜日　　時間目

【作業内容】

【今日の目標】

【今日の評価】　◎よくできた　〇できた　△あまりできなかった　×できなかった

時間を守れた		ていねいに作業に取り組めた	
あいさつ・返事がきちんとできた		集中してまじめに取り組めた	
身だしなみや清潔に気をつけた		指示どおりに正確にできた	
質問・報告がきちんとできた		言葉づかいやマナーを守った	
あとかたづけ・掃除ができた		道具や材料をきちんと扱うことができた	

【反省・感想】

【先生から】　担当者 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

資料8

ワーキングコース評価表（窯業）

2年　4組　生徒名　生野　太朗	評価担当者：　北巽

		基本項目	内容	評定基準	評定 1学期	評定 2学期	評定 3学期	備考
窯業独自項目	意欲・関心・態度	始業時	挨拶の徹底	きちんとした姿勢をとる	2	2	2	
				はっきりと大きな声で相手に伝わるように	3	3	3	
			出席をとる	返事の指導				
			本時の内容説明	聞く態度	1	1	1	
				内容の確認				
	意欲・関心・態度・技能	作業内容	陶土の再生	固まった陶土を割る				
				どろだんごを作る	3	3	4	
				土練機をかける：準備（布をはがす、安全確認）				
				土練機をかける：様子を見ながらタイミングよく陶土を入れる				
				土練機をかける：後片付け（布をかける、紐をかける）				
				糸きりで陶土を切り分ける				
			練る	練る				
			成形する	たたら	2	2	2	
				手びねり		3	3	
				ひもづくり	3	3	3	
				ろくろ				
			修正する	道具を使って削る			3	
				水でぬらした鹿皮で修正する	3	4	4	
				どべを用いて修正する				
			窯入れ・窯出し	窯入れ（素焼き）				
				窯出し（素焼き）				
			本焼き前の準備	やすりを用いて磨く	3	4	4	
				撥水剤の処理をする	3	3	3	
			本焼き	釉薬をかける	3	3	3	
				窯入れ				
				窯出し	3	3		
	意欲・態度	終業時	手洗い	手洗い	2	2	2	
			清掃（箒・ぞうきん・モップ）	清掃（箒・ぞうきん・モップ）	1	2	2	
			次回の授業内容の説明	聞く態度	1	2	2	

			1学期	2学期	3学期	備考
共通項目	意欲	自主的・積極的に取り組む	2	2	3	
	持続性	根気よく取り組む	1	2	2	
	集中力	集中して取り組む	2	2	2	
	確実性	確実に仕上げる	1	1	2	
	責任感	与えられた仕事をやり抜く	1	1	2	
	協調性	協力して取り組む	2	2	2	
	安全性	安全を考えて取り組む	2	2	2	
	規律性	きまりや指示に従う	1	2	2	
	身だしなみ	服装や持ち物をきちんとする	2	2	2	
	言葉づかい	正しい言葉づかいをする	1	1	1	
	理解度	作業工程を理解する	3	4	4	

資料9

清掃技能検定（ほうき）

検定者（　　）　　記入者（　　）

評価項目	評価内容	備考
身だしなみ及び態度	□適切な服装　□きびきびした行動	
開始を伝える	□適切な声の大きさ及び態度で伝える	
持ち方等	□柄の先端を親指で押さえる　□反対の手は順手で柄を握る □ほうきの向きを確認する	
掃き方	□廊下を二分割して端から中央にゴミを集める □壁にほうきを強くぶつけない □掃き終わりで毛先を振り上げない	
おさえばき	□掃いた後は床にトントンとほうきを叩いて毛先のほこりを落とす □ほうきの向きを変えない □ほうきを床に押し付けるようにして掃く	
集めたゴミの処理	□ちりとりの中にほうきの先半分を入れる □ゴミの取り残しがない　□決められたコースで掃く	
仕上がり	□指差し点検をする（無声でも可）	
片づけ・報告	□姿勢を正す　□はっきりした声で報告する	

資料１０

清掃技能検定（スクイージー）

検定者（　　）　　記入者（　　）

評価項目	評価内容	備考
身だしなみ及び態度	□適切な服装　□きびきびした行動	
開始を伝える	□適切な声の大きさ及び態度で伝える	
スクイージー（縦拭き）	□既に拭いた側を少し下げる　□ひざを使う □ふき跡は少し重ねる □スクイージーの刃を一度使うたびにタオルで拭く	
スクイージー（横拭き）	□スクイージーの真下の枠をタオルで押さえる　□端は15cmほど残す □途中で浮かさない　□スクイージーの刃をタオルで拭く	
スクイージー（扇拭き）	□支点の下をタオルで押さえる　□途中で止まらない □途中で浮かさない　□スクイージーの刃をタオルで拭く	
窓のふちを拭く	□窓ガラスにさわらない　□窓ガラスに水滴がつかないようにする	
仕上がり	□ガラスや窓枠に水が残っていない □ガラスや窓枠に汚れが残っていない	
片づけ・報告	□姿勢を正す　□はっきりした声で報告する	

教育講演会

『キャリア教育の視点に立った
～子どもの内面の育ちをはぐくむ授業づくり～』

関西国際大学大学院　人間行動学研究科　教授　花熊　曉　氏

要旨

【新学習指導要領とキャリア教育】

2012 年中教審報告の中の我が国がめざす共生社会の定義における「障害者等」とは、マイノリティの人々をも含むものである。また、単なる「参加」に止まらず「積極的な貢献」とされていることは、生活や人生の質の向上、充実に繋がることであり、大きな意味を持つ。

特別支援教育の最終目標とは、社会参加と社会的自立であり、キャリア教育の眼目は、「働く生活」「自分の存在価値が感じられる生活」をどう実現していくか、というものである。「自立する」とは、その形態に関わらず、周囲や社会に貢献することである。このように考えれば、全ての人に可能なものではないか。

例として、高等部卒業後、生活介護の事業所に進み、その建物の周囲のプランターに水やりをしている重度障がいを持つ教え子の話をされた。彼女はその役割を果たすことで、周囲に貢献し、職員から感謝されている。このことが働く、ということではないだろうか。

キャリアとは、その人が生活をする場でできる役割を果たすことであり、そのことによって存在価値を感じ、人生をより良く充実させていくことである。

キャリア教育とは一般的に、「子ども一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てること」と思われがちだが、それを通して、キャリア発達を促す教育であり、それこそが大事なことである。それは狭い意味での就労へ向けた準備教育ではなく、もっと広い概念である。

特別支援学校学習指導要領（前文）には地域社会への参画と社会貢献の重要性が書かれている。「地域」とは、「校外」だけではなく、家庭や校内も地域の一つであり、単なる区域のことではなく、そこにいる人たちとの関わりのことである。年齢に応じた成長発達（プライバシーサークルの拡大）の過程で、「地域」との連携や協働によってキャリア発達を目指すものである。

新学習指導要領で求められている学びの在り方を具現化するためには、子どもの内面の育ちをはぐくむ必要がある。「内面の育ち」とは、意欲、主体性、思考・判断力、社会的役割意識、自己有用感などがどれだけ育っているかである。

「対話的な学び」とは、グループでの話し合いのような浅さでとらえられることが多いが、「対話的で深い」がセットであり、対話や会話や話し合いではない。人との関わりの中で自分の行動の質や考えを深め、成長に繋げるものである。言語的な理解に止まらず、言葉以外の行動的な関わりを通して対話的な学びを得ることができる。

【「子どもの内面を育てる授業づくり」のポイント】

〈ポイント１　スキルから内面へ〉

スキルは重要だがそれを身に着けられれば問題ないかというとそうではない。就労したものの長続きしないケースでは、周囲とやり取りしていく力など、スキル以外の面でうまくいかなかったことが多い。

スキルは大事だが、実現の上では意欲、主体性、意識が大事である。また、意欲や主体性は指導しやすいが、意識の育ちが特に大事である。

[本校中学部の授業を見学して、生徒たちが何を大事にしているか、ということに気づくポイントがあったと語られた。意識の有無、何を意識しているかを取り上げ、どう意識づけするか、自ら気づけるようにどのように支援していくかが大事である。]

愛媛大学附属校の実践として、同じ敷地内にある付属４校（幼、小、中、特支（中））合同でのとくしんピックという活動があった。

ハンディのない競技を工夫しておこない、役割を固定せず、司会、応援等それぞれが自分たちの役割を意識して果たせるようにした。お互いが自らの良さを実感できる経験となり、その意識が育っていくと、次のステップへと繋げていくことができる。

キャリア教育とは幼児期から始まっているものであり、遊びの中で興味が広がることが意欲の高まりに繋がる。このように内面の育ちの出発点とは、意欲である。

〈ポイント２　「出来る」から「認められている/必要とされている」へ〉

できたから認められるのではなく、自分がしたことが認められるということが大事である。また、他者の役に立ち、必要とされているという実感と経験を通じての、自己有用感の育ちが大切である。

自尊感情とは、自分が自分を肯定的に受け止めるものであり、自己有用感とは、自他共に肯定的に受け止めていることから生まれる自分への肯定的な評価のことである。育ってほしいのは自己有用感に裏付けられた自尊感情である。自尊感情が高いだけでは社会生活の妨げになることがあり、人との関係の中でこれらが育っている必要がある。

しばしば知的遅滞のない発達障がい者にそのような困難な傾向がみられる。周囲が自分をどのように見ているかに気づくことができず、主張すればするほど軋轢を生んでしまうことがあり、課題となっている。

〈ポイント３　「言われて出来る」から「考えて出来る」へ〉

自己計画力の育ちに加え、活動の意味を理解し、更に社会的な意味を理解できるように繋げていきたい。

知的障がい教育の先達が遺した反省の言葉として「活動あって学びなし」というものがある。具体的な経験や活動が重視され、子どもが何も学んでいないという結果を招かぬよう、体験を経験へと繋げなくてはならない。そのためには、単なる振り返りではなく、具体的な反省の分析をおこなう必要がある。ここで主体的で対話的で深い学びが重要となる。

主体的な学びとは、学ぶ意味を自分の人生の在り方と主体的に結びつけていくことであり、学習において「なぜ、何のために」を理解し、意欲と主体性、思考力と判断力、応用力をはぐくむものである。

そのための授業づくりにとって大切なのは、主役は教師でなく子どもであるということを明確にすることである。教師が指示や手出しを減らし、リーダー役を子どもに担わせ、できるだけ子どもたちだけでできるよう、行動的アクティブラーニングを通じてこの学びをはぐくんでいく。

最適な支援とは、必要な最小限の支援である。多すぎてしまうと、意欲を削いだり自立しようとする気持ちを妨げたりすることもある。そのためには支援者の役割の明確化と共通理解、学習環境の整備と支援ツールの充実が必要である。

〈ポイント４　「学部ごと」から「学部間の連携・協働」へ〉

縦割活動はとても意味があることである。実際に下級生と上級生がお互いに関わることで、下級生から上級生へは、憧れを抱いたり、将来像を具体的に描いたりすることができ、時間の流れの中の自分を意識することができる。上級生から下級生へは、モデルという役割意識を持ったり、他者理解に繋げたりすることができる。

［先輩にあこがれる、ということがどれほど人を変えるか、という具体的な例があった。］

〈ポイント５　「シミュレーション」から「本物の経験」へ〉

例えば買い物学習において、教室内で模型を用いておこなうような取り組みよりも、スーパー等で本当に支払い等をして学習する方が実際の力に直結する。

愛媛大学付属特別支援学校高等部でのカークリーンの活動では、外部からの委託を請け負うことで、お客さんに喜んでもらおうという姿勢が養われるようになり、また、プロから指導を受け、接客や動線等についてアドバイスをもらうことで、学びを深めることができた。他の作業班と協働して作業をおこなうことで、同じ学部の中でも活動の幅を広げることができた。お客さんにアンケートをとることで、フィードバックが意欲に繋がった。

このような「地域の中での学び」が意味を持つためには、主体性や役割意識等の内面がある程度育っていることが必要である。また、校外での経験を校内の授業に活用しなければ、意味が薄れてしまう。校内での授業実践と校外での授業実践が相互に関連して子どもの内面を育てられるようにしていかなくてはならない。

〈　文責　松岡あゆ美　〉

Ⓒ2014 大阪府もずやん

大阪府
教育庁教育振興室支援教育課
〒５４０－８５７１　大阪市中央区大手前２丁目
TEL：０６(６９４１)０３５１　　FAX：０６(６９４４)６８８８
ホームページ　http://www.pref.osaka.lg.jp/shienkyoiku

令和２年７月発行